令和２年度

（第 47 期）

事　業　報　告

作成日：令和 3 年 5 月 18 日

自　　令和　2 年　04 月　01 日

至　　令和　3 年　03 月　31 日

社会福祉法人　さつき会

1　全体総括

(1) はじめに

第5期中期経営3か年計画（2019～2021）の2年目の年である令和2年度の当法人事業活動は、新型コロナウイルス感染症予防を最重点課題として取り組み、中期経営計画に掲げた 4 つの重点目標、１）多様な人材採用・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備、２）業務の可視化による効率化と介護ロボット・ＩＣＴ等の活用による業務の省力化、３）利用者・家族・地域住民の健康・生きがいづくりと良質高度なチームケア（サービス）の提供、４）適性利益の確保と内部統制の強化を柱に、年度事業計画にそって各事業所･委員会等の活動を中心に積極的に実施され、概ね順調に遂行された。以下にその概要を報告する。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立後、これまで 47 年間にわたり、「地域の福祉ニーズに柔軟に応える」ことを使命として、「利用者本位」の原則の下、社会福祉事業を経営してきた。

本年度は、感染症・災害対応（感染症予防対策、クラスター発生を想定した訓練、非常用自家発電装置の整備）、ケアアシスタント制度の運用、外国人介護人材の受入準備、入職 2 年以上 3 年以下の職員に対するフォローアップ研修、住民参加型総合事業の推進、在宅・施設サービス両部門の中重度者に対する重度化対応・重症化予防、職員のリフレッシュ休暇推進、介護職員等特定処遇改善加算を活用した賃金改善を重点的に取り組んだ。結果は、職員の定着率の向上、入居系サービスの稼働率向上、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護・訪問介護・通所介護の利用者増加により過去最高の増収増益を達成することができた。また、常勤介護職員の離職率は 7.8%（前期 9.5%）となり、北海道平均（20.0%）を大きく下回り、これまでの「人材の確保と育成」の取り組みの成果が持続できている。

一方、積み残した課題も多く、介護職員・調理員の慢性的な欠員（法的基準は遵守）、キャリアパスの改良、介護人材確保のための企業説明会開催は、いずれも未着手・不十分な結果にとどまった為、次年度の重点課題として取り組む所存である。

(3) 施設運営

本年度は､介護現場がこれまで経験のない感染予防対策を実施しなければならなくなり、感染予防と生活の質（QOL）の維持の両方を求められ、自ずと介護、アクティビティ、レクリエーションのあり方を再検討する必要に迫られた一年であった。

具体的には、オンライン面会の実施、外出自粛下における新たなアクティビティ活動、基礎介護研修のシラバス作成、見守り機器（介護ロボット）の導入、全施設への Wi-Fi 環境の整備などに取り組んだ。

一方、ご家族からの苦情、スタッフの不注意による転倒・転落事故等、安全対策と業務の標準化への組織的対応が不十分であるが故の出来事と反省し､次年度の最重点課題となった。

来年度は第5期中期経営3か年計画の最終年の年。中期経営計画に基づき、「高齢者の自立した尊厳ある人間らしい生活を守る」ための福祉サービスの安定的･継続的に提供と、利用者・職員・組織がともに満足できる施設運営に努める。

2　部門別事業実績（概要）

事業名（課）	事業（課）の目的及び内容	利用定員	職員数	実　　績	サービス活動増減差額（千円）
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	1 (6)	理事会　5回(6) 評議員会　1回(1) 監事監査　4回(4) 経営改善会議　41回(40) 全体会議・研修　中止(4) 感染症研修　各事業所 実習受入（実件数）　3件(8) （延べ人数）　94人(195) 健康料理教室　中止(10) ブログ発信10件 地域食堂　中止(10)	△20,220 (△ 3,900)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	10	施設整備　自家発電装置設置等 18件(10) 総事業費　29,114(2,602) 器具備品費マルベリー外12件(14) 総事業費　7,761(8,144)	—
介護老人福祉施設 事業さつき苑	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	38	新規入居者　男1名(6)、女5名(11) 計　6名(17) 退居者　男2名(6)、女4名(12) 計　6名(18) 総延べ入院日数　436日(696日) ベッド稼働率　97.4%(94.6%) 入居待機者　40名(30)	25,909 (△1,332)
短期入所生活介護事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりを介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしよりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名		実利用者数　28名(41) 実件数　212件(203) 延利用者数　3,293名(3,249) 一日平均　9.0名(8.9) ベッド稼働率　90.2%(88.8%)	6,324 (3,327) 生きがいショート委託費 (568)
通所介護事業 はぴねす	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	30名	13	開催日数　310日(309) 実利用者数（月平均）102.4名(94.9) 延利用者数　7,419名(7,074) 生きがいデイ　0(0) 新規利用者　41名(53) 週6日開館、1日平均 23.9名(22.9) 稼働率　79.8%(76.3%)	16,224 (6,262)
居宅介護支援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりが「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	5	月平均利用者数 介護114.8名(100.3) 予防55.0名(37.7) 計169.8名(138.0) 新規利用者　89名(70) 停止者　41名(41) 入院者延べ人数　191名(131)	1,055 (△2,376)

事業名（課）	事業（課）の目的及び内容	利用定員	職員数	実　　績	サービス活動増減差額（千円）
認知症対応型共同生活介護事業	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18名	20	新規入居者　男1名(0)、女3名(4) 計 4名(4) 退居者　男1名(2)、女3名(2) 計4名(3) 総延べ入院日数　67日(74日) ベッド稼働率　98.5%(98.3%) 入居待機者　16名(22)	7,738 (336)
小規模多機能型居宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	（通い） 15名 （泊まり） 6名 （訪問） ―名	12	開催日数　365日(365) 平均登録者数　22.7名(21.8) 実利用者数　24名(25) 延利用者数　4,449名(4,380) 新規利用者　6名(13) 停止者　10名(9) 1日平均　13.0名(12.1) 稼働率　82.8%(80.1%) 実利用者数　13名(21) 延利用者数　1,630名(1,626) 1日平均　5.2名(4.5) 稼働率　75.5%(74.2%) 実利用者数　18名(14) 延利用者数　3,834名(3,656) 1日平均　11.2名(10.0)	3,326 (4,917)
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20名	24	新規入居者　男0名(1)、女3名(3) 計4名(4) 退居者　男0名(0)、女3名(4) 計3名(4) 総延べ入院日数　28日(197日) ベッド稼働率　99.4%(97.0%) 入居待機者　17名(18)	11,029 (5,013)
小規模多機能型居宅介護事業ぬくもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	（通い） 15名 （泊まり） 6名 （訪問） ―名	11	開催日数　365日(365) 平均登録者数　24.0名(24.3) 実利用者数　35名(26) 延利用者数　4,427名(4,401) 新規利用者　10名(5) 停止者　10名(5) 1日平均　12.1名(12.5) 稼働率　79.6%(81.9%) 実利用者数　25名(21) 延利用者数　1,484名(1,682) 1日平均　4.1名(4.6) 稼働率　66.7%(75.6%) 実利用者数　17名(14) 延利用者数　4,415名(3,452) 1日平均　12.1名(9.5)	5,490 (3,820)

事業名（課）	事業（課）の目的及び内容	利用定員	職員数	実　　績	サービス活動増減差額（千円）
サービス付き高齢者向け住宅事業ぬくもりの家たかほ	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの住み替えニーズに応じた安心・安全な住宅サービス・相談援助サービス等を提供し、出来る限り長く住み慣れた地域社会で生活を続けていくことの支援に努めた。	18名	8	新規入居者　男1名(1)、女2名(1)　計3名 退居者　男2名(2)、女2名(1)　計4名 月平均入居者数　17.1名 稼働率　94.9%(98.6) 総延べ入院日数　73日(235) 入居待機者(令和2年度3月末)　6名(5)	△1,454 (1,570)
訪問介護事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおとしより等の要介護等認定者および難病患者の家庭等に対して、自立とより質の高い在宅生活の継続が図られるよう、生活援助、身体介護、相談・助言を主とする生活支援サービスの提供に努めた。	—	12	派遣世帯数　88(111) 訪問延回数　10,913回(10,077) 活動延時間　8.708時間(8,092) 内、生きがいヘルプ　0(0) 内、難病疾患ヘルプ　0(0) 新規利用者　34名(58)	11,012 (10,447) 生きがいヘルプ委託費 0 (0) 難病患者ヘルプ委託費 0 (0)
総合事業 フィットネス倶楽部コレカラ	在宅の主に一般高齢者を対象に、虚弱化・要介護の予防を目的に、介護予防体操（あったかすリハビリ体操）の普及、介護予防体操指導士（あったかすリハビリ体操指導士）の養成、介護予防サポーター（コレカラサポーター）の養成、住民主体の通いの場の立ち上げ、介護予防運動教室の運営に努めた。		2	開催日数　268日(275) 登録者数　408名(395) 総延べ利用人数　4,735名(8,615) 各教室の内訳 サーキット　2,609名 レッドコード教室　2,009名 リハビリ体操教室　117名 月平均利用者数　483.8名(783.2) 1日平均利用者数　17.6名(28.9) 新規利用者　15名(39) 停止者（利用0回）　259名(176)	
移送サービス事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや車いす上で生活されている方が、通院等の理由により外出しなければならなく、一般の車両への乗降が難しい時に、さつき苑に配置されている寝台、若しくは車いすのまま乗り込むことができる専用車両で、自宅から目的地までの送迎を行い、利用者の外出支援に努めた。	—	—	実利用者数　2件(0) 延利用件数　4件(0) （内訳…町内　0件、町外　4件）	22 (0) 委託費収入のみ

事業名（課）	事業（課）の目的及び内容	利用定員	職員数	実　　績	サービス活動増減差額（千円）
介護予防事業（生きがいデイサービス）	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとしよりに対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消を図るため、デイセンター（はびねす）に通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護等のサービスを提供し、要介護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数　0名(0) 延利用者数　0名(0) 新規利用者　0名(0)	0 (0) 委託費収入のみ

※1　職員数に施設長は含めず

※2　実績及びサービス活動増減差額欄の（　）内は前年度実績

令和2年度　業績概況

3　業績の状況

(1)　事業活動収入の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	4,920,000	7,320,718	2,400,718	0.0%	
小　　計	4,920,000	7,320,718	2,400,718	0.0%	
介護老人福祉施設事業	209,253,000	215,682,102	6,429,102	103.1%	
短期入所生活介護事業	34,326,000	36,300,631	1,974,631	105.8%	
小　　計	243,579,000	251,982,733	8,403,733	103.5%	
通所介護事業(はびねす)	60,463,000	66,010,143	5,547,143	109.2%	2
居宅介護支援事業	22,788,000	24,782,380	1,994,380	108.8%	3
小　　計	83,251,000	90,792,523	7,541,523	109.1%	
認知症対応型共同生活介護事業	83,406,000	87,023,628	3,617,628	104.3%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	65,399,000	65,766,086	367,086	100.6%	
小　　計	148,805,000	152,789,714	3,984,714	102.7%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	100,540,000	106,252,389	5,712,389	105.7%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	56,386,000	58,935,560	2,549,560	104.5%	
小　　計	156,926,000	165,187,949	8,261,949	105.3%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	27,496,000	28,369,724	873,724	103.2%	
訪問介護事業	35,715,000	39,723,491	4,008,491	111.2%	1
小　　計	63,211,000	68,093,215	4,882,215	107.7%	
合　　計	700,692,000	736,166,852	35,474,852	105.1%	

(2)　事業活動収入の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和元年度 (A)	令和2年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	5,497,363	7,320,718	1,823,355	0.0%	
小　　計	5,497,363	7,320,718	1,823,355	0.0%	
介護老人福祉施設事業	204,678,593	215,682,102	11,003,509	105.4%	
短期入所生活介護事業	33,640,301	36,300,631	2,660,330	107.9%	
小　　計	238,318,894	251,982,733	13,663,839	105.7%	
通所介護事業(はびねす)	60,391,951	66,010,143	5,618,192	109.3%	3
居宅介護支援事業	20,746,730	24,782,380	4,035,650	119.5%	1
小　　計	81,138,681	90,792,523	9,653,842	111.9%	
認知症対応型共同生活介護事業	84,726,575	87,023,628	2,297,053	102.7%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	60,888,005	65,766,086	4,878,081	108.0%	
小　　計	145,614,580	152,789,714	7,175,134	104.9%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	102,695,994	106,252,389	3,556,395	103.5%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	55,700,714	58,935,560	3,234,846	105.8%	
小　　計	158,396,708	165,187,949	6,791,241	104.3%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	27,840,973	28,369,724	528,751	101.9%	
訪問介護事業	35,113,731	39,723,491	4,609,760	113.1%	2
小　　計	62,954,704	68,093,215	5,138,511	108.2%	
合　　計	691,920,930	736,166,852	44,245,922	106.4%	

令和2年度　業績概況

(3)　事業活動収支差額の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 17,750,000	▲ 17,534,276	215,724	98.8%	
小　　計	▲ 17,750,000	▲ 17,534,276	215,724	98.8%	
介護老人福祉施設事業	15,025,000	31,789,042	16,764,042	211.6%	3
短期入所生活介護事業	2,551,000	7,107,626	4,556,626	278.6%	1
小　　計	17,576,000	38,896,668	21,320,668	221.3%	
通所介護事業(はぴねす)	8,213,000	8,490,420	277,420	103.4%	
居宅介護支援事業	▲ 1,653,000	1,726,396	3,379,396	208.9%	
小　　計	6,560,000	10,216,816	3,656,816	155.7%	
認知症対応型共同生活介護事業	5,536,000	10,616,494	5,080,494	191.8%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	9,615,000	7,365,775	▲ 2,249,225	76.6%	
小　　計	15,151,000	17,982,269	2,831,269	118.7%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	10,740,000	20,252,216	9,512,216	188.6%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	5,237,000	11,208,268	5,971,268	214.0%	2
小　　計	15,977,000	31,460,484	15,483,484	196.9%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	3,479,000	3,016,552	▲ 462,448	86.7%	
訪問介護事業	8,515,000	11,760,384	3,245,384	138.1%	
小　　計	11,994,000	14,776,936	2,782,936	123.2%	
合　　計	49,508,000	95,798,897	46,290,897	193.5%	

(4)　事業活動収支差額の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和元年度 (A)	令和2年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 3,259,927	▲ 17,534,276	▲ 14,274,349	537.9%	
小　　計	▲ 3,259,927	▲ 17,534,276	▲ 14,274,349	537.9%	
介護老人福祉施設事業	5,729,374	31,789,042	26,059,668	554.8%	1
短期入所生活介護事業	3,991,779	7,107,626	3,115,847	178.1%	3
小　　計	9,721,153	38,896,668	29,175,515	400.1%	
通所介護事業(はぴねす)	6,452,759	8,490,420	2,037,661	131.6%	
居宅介護支援事業	▲ 1,566,609	1,726,396	3,293,005	220.4%	2
小　　計	4,886,150	10,216,816	5,330,666	209.1%	
認知症対応型共同生活介護事業	7,904,260	10,616,494	2,712,234	134.3%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	10,512,068	7,365,775	▲ 3,146,293	70.1%	
小　　計	18,416,328	17,982,269	▲ 434,059	97.6%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	15,861,510	20,252,216	4,390,706	127.7%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	10,393,318	11,208,268	814,950	107.8%	
小　　計	26,254,828	31,460,484	5,205,656	119.8%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	4,297,660	3,016,552	▲ 1,281,108	70.2%	
訪問介護事業	11,675,811	11,760,384	84,573	100.7%	
小　　計	15,973,471	14,776,936	▲ 1,196,535	92.5%	
合　　計	71,992,003	95,798,897	23,806,894	133.1%	

令和２年度　法人本部事業報告

１．総括

令和 2 年度は、「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針に、以下のことに取り組んだ。

1 つ目は、法人が目指す「予防から看取りまで途切れ目のないケアの提供」の実現に向けて、増加する中重度化に対応するため最新のケアシステム「トータルケアシステム」の運用及び「地域包括ケア推進チーム研究会」（地域ケアマネジメント会議）も継続し、一つの困難事例のカンファレンスに全事業所の専門職が参加し、ニーズ優先のケアマネジメントとサービス提供に努めた。

2 つ目は、「だれもが健やかに生涯現役を目指せる職場環境の実現」を目指し、ケアアシスタントの採用、定年制度の見直し、フレックスタイム制度の導入、介護ロボット（移乗支援器具、シルエットセンサー）の導入に努めた。

3 つ目は、働きやすく働きがいのある職場づくりである。新たに現任職員へのフォローアップ研修、総務課職員へのレベルアップ研修を行うとともに、さつき会の未来を創る若手職員育成の目的とするネクストリーダー研修、総合職昇格試験、エルダー制度を継続して行った。新設された介護職員等特定処遇改善加算（12,570 千円）を活用して、ほぼ全ての職員の賃金改善を図るとともに、期末に全職員へ決算賞与を支給した。

介護人材確保では、コロナ禍において対面による職場合同説明会が困難となり、オンラインのよる職場説明会・採用面接を実施。令和 3 年度に就職を予定する旭川福祉専門学校外国人留学生（3 名）の受け入れと安心して生活・就労できる環境づくりに努めた。また、総合パンフレットの製作、福祉関連資格取得支援金・就職支援金・外国人就職準備金の新設、高齢者福祉・介護の仕事のやりがいとさつき会の魅力をＳＮＳ、個別の職場見学会の活用等を通じて発信した。その結果、さつき会の理念と実践に共感し採用試験に道内から 6 名が受験し全員採用することができた。

法人が掲げる業績管理目標は、サ高住たかほを除いた全事業所で達成。法人全体の事業活動収入は 746,127 千円（当初予算 714,552 千円）、事業活動収支差額 106,051 千円（当初予算 50,045 千円）、サービス活動増減差額は 65,945 千円（前年度 25,372 千円）、となり、過去最高の収益・収支差額を得ることができた。

２．次年度に向けて

令和 3 年度は第 5 期中期経営 3 か年計画の最終年となる。中期経営計画の最重点目標である「多様な人材の確保と育成」、「介護記録のデジタル化」、「おとしよりと職員の笑顔が増える暮らし・楽しみづくり」に取り組む。具体的には、今般の介護人材の枯渇が増悪化する中、これまでの取り組みに加え、外国人定着サポートチームの始動、ケアアシスタントの育成・定着支援、チームワーク向上のためのスタッフ研修、社会福祉士養成校からの積極的な実習受入準備に着手して、次の時代を担う人材育成に務める。

処遇改善においては、あらたな定年制度の運用、全事業所において 7 連休以上の休暇取得、キャリアパスの改良を図る。さらに、介護職員等特定処遇改善加算を活用し、働きやすく働きがいのある職場づくりに取り組む。

また、感染症・自然災害発生時の業務継続計画策定、一般高齢者の健康寿命延伸のニーズに応えるため、総合事業（フィットネス倶楽部）・任意事業（地域交流スペース・地域食堂）の事業を推進し、鷹栖町における住民参加型地域包括ケア体制の拡充を図る。

さらに、全事業所において適性利益の確保を図るよう、経営改善会議及び財政健全化推進チーム会議を中心に課題共有、改善策の立案、実施状況の確認の徹底を図る。

３．運営状況・統計資料

（１）理事会の開催状況

回	期　日	議決事項等	出席者
1	2.6.3（水） 18:00　～ 19:15	報告第１号　理事長専決事項について 報告第２号　令和元年度決算見込額の報告について 議案第１号　令和元年度第２次補正予算(案）について 議案第２号　令和元年度経過報告並びに事業報告・業績報告について 議案第３号　令和元年度決算報告について 議案第４号　監事監査結果報告について	理事５名 監事２名
2	2.8.29(土) 16:00　～ 17:25	報告第１号　理事長専決事項について 報告第２号　令和２年度第１四半期経過報告について 報告第３号　令和２年度第１四半期業績･収支報告について 報告第４号　監事監査結果報告について 議案第１号　令和２年度特定処遇改善加算一時金の支給について 議案第２号　令和２年度介護支援専門員特定処遇改善加算一時金の支給について 議案第３号　施設整備事業計画について 議案第４号　鷹栖なごみの家・ぬくもりの家えん非常用自家発電装置整備工事請負業者の選定方法について 議案第５号　令和２年度第１次補正予算（案）について	理事６名 監事２名
3	2.11.28（土） 14:55　～ 16:35	報告第１号　理事長専決事項について 報告第２号　令和２年度第２四半期経過報告について 報告第３号　令和２年度第２四半期業績･収支報告について 報告第４号　監事監査結果報告について 議案第１号　育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について 議案第２号　外国人就業準備金支給規程の新設について 議案第３号　就業支援金規程の新設について 議案第４号　福祉関連資格取得支援金規程の新設について 議案第５号　ネットワーク環境及び介護ロボット（見守りセンサ・移乗支援ロボット）の整備計画について	理事６名 監事２名
4	3.2.20(土) 15:00　～ 16:20	報告第１号　理事長専決事項について 報告第２号　令和２年度第３四半期経過報告について 報告第３号　令和２年度第３四半期業績･収支報告について 報告第４号　監事監査結果報告について 議案第１号　令和２年度第２次補正予算(案）について 議案第２号　社会福祉法人さつき会評議員選任・解任委員会委員の選任及び開催について 議案第３号　社会福祉法人さつき会評議員候補者の推薦(案)について	理事６名 監事２名

回	期　日	議決事項等	出席者
4	3.2.20(土) 15:00　～ 16:20	議案第４号　就業規則（正職員）の一部改正(案）について 議案第５号　就業規則（嘱託職員）の一部改正(案）について 議案第６号　就業規則(パート職員）の一部改正(案）について 議案第７号　給与規程の一部改正(案）について 議案第８号　育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案）について	理事６名 監事２名
5	3.3.19(金) 17:52　～ 19:10	報告第１号　理事長専決事項について 議案第１号　決算賞与について 議案第２号　積立金計上について 議案第３号　令和２年度第３次補正予算（案）について 議案第４号　令和３年度経営(事業)計画並びに当初予算(案)について 議案第５号　評議員会の開催について	理事５名 監事２名

（２）評議員会の開催状況

回	期　日	議決事項等	出席者
1	2.6.20(土) 14:00　～ 15:25	議案第１号　令和元年度事業報告について 議案第２号　令和元年度決算報告について(監事監査報告含む) 議案第３号　令和２年度経営(事業）計画並びに当初予算（案）について	評議員７名

（３）　監査等の実施状況

①　監事監査

回	期　日	主な監査実施項目	監査実施者
1	2.5.25(月) 15:00　～ 16:30	令和元年度経過報告並びに事業報告について 令和元年度業績報告並びに決算報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事２名
2	2.8.20(木) 15:30　～ 16:30	令和２年度度第１四半期業績報告について 令和２年度第１四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事２名
3	2.11.20(金) 13:55　～ 14:45	令和２年度第２四半期業績報告について 令和２年度第２四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 物品在庫管理・発注業務について 総括	監事２名
4	3.2.12(金) 14:00　～ 14:45	令和２年度第３四半期業績報告について 令和２年度第３四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事２名

（４）資格保有・取得状況

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	保健師	管理栄養士	理学療法士	社会福祉士（精神保健福祉士）	2級ヘルパー（介護職員初任者研修含む）	社会福祉主事
正職員	55	24	5	1	2	3	2	12【3】	24	25
パート職員	18	1	4	2	0	0	0	1	31	0
計	73	25	9	3	2	3	2	13【3】	55	25

注：令和３年３月31日現在の在籍者　精神保健福祉士は【　】で表示

（５）諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10～11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	41回

②財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム研究会

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎月第４水曜日 13:00～16:00	・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進（計画策定・実行・評価）を行う。 ・新たな地域ケア（地域包括ケア）に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援専門員等	9回

③ 職員全体研修・会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
1.全体研修 新型コロナウイルス感染予防対策のため各事業所単位実施 2. 全体会議 新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止	感染症予防を目的とした研修を開催した。 【実施内容】　（　）内は対象者・講師 ・感染対策研修会（対象：全職員～各事業所単位で実施） （講師：谷水さおり・藤川朋恵・三國谷佐千恵）） 法人として職員全体に伝達すべき重要事項がある場合に適宜開催する。 【資料配付内容】 ・令和２年度経営（事業）計画について ・さつき会の賃金・処遇改善について ・給与規程等の一部改正について ・働き方改革について（有給休暇の取得） ・人材紹介謝礼規定について ・交通安全について ・非常災害対策について	全職員	全体研修 各事業所 1回 全体会議 中止

④サービス向上発表会開催内容

令和元年度未開催

令和元年度発表内容を令和２年度分として令和３年３月 10 日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため延期　　令和３年５月 14 日(金) 開催予定

○　発表予定内容

申込事業所	発表テーマ	発表者
鷹栖町在宅介護支援センターさつき苑	もし、個別支援のケアマネジャーが災害時に自らの「マネジメント」を行ったら ～防災対策の取り組みから出た思わぬ副産物を交えて～	ケアマネジャー 山本　正広
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家	脱・マンネリ！ ～楽しみアル生活をおくるために～	ケアスタッフ 津野　良江 伊藤　有紀
鷹栖町デイサービスセンターはぴねす	ハイクオリティ　ハンドメイド	主任 成田　直美
特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑	あたりまえの生活を取り戻す ～食べて味わうこと、ゆっくり眠ること～	リーダー 角谷　美紀
小規模多機能ホームぬくもりの家えん	共に ～本人の想いを守るケアを目指して～	リーダー 林　　由美 ケアスタッフ 寒河江ゆかり

（６）広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年６回発行	各３，000 部発行

（７）実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
８月 17 日～９月 19 日	2	介護実習（2 年生）（延べ 60） オンライン研修	旭川大学短期大学部
８月 20 日～９月２日	1	介護実習（2 年生）（延べ 10）	北海道剣淵高等学校
９月 14 日～９月 26 日	2	介護実習（1 年生）（延べ 24）	旭川福祉専門学校
延べ人数	94		

（８）苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4				
5				
6				
7	8	国家戦略としてのフレイル対策	オンライン	施設長・大矢・大河原
	27	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る研修会(上川総合振興局主催)	旭川市	三國谷・谷水
8	7	第１回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水　11 名
	26～28	令和２年度北海道介護支援専門員　更新研修(実務研修有)	旭川市	佐藤(恭)
9	2・8	「人材採用・人材定着　合掌苑の成功事例」	オンライン	施設長・谷本・尾上・木幡・秋保・谷
	15	第１回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水　11 名
	27	第７回日本予防理学療法学会学術大会	Web 学会	大河原
	28～30	令和２年度　北海道介護支援専門員更新研修	札幌市	尾上
10	6	第１回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水　11 名
	20	特別セミナー『組織を変えるコーチング』主催　人を幸せにする実践経営塾	オンライン	施設長・部長・課長
	27	介護従事者雇用管理改善セミナー	旭川市	木幡・高橋
11	1	介護の仕事トークイベントのトークショー、トークセッション参加	旭川市	田村
	4	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	7	第７回日本地域理学療法学会学術大会	Web 学会	大河原
	18	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	19	「コミュニティデザイン×ヘルスプロモーション」セミナー	オンライン	施設長
	26-27	新任介護職員研修(旭川)　　道社協主催	旭川市	小笠原(園)・佐川・寺西

12	1～2	北海道小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	札幌市	佐藤(晴)
	2	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	8	道北地区老人福祉施設協議会施設長研修会	オンライン	施設長
	16	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
1	28	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	29	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
2	10	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	18	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
	24	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
3	6～7	第 12 回全国先端ケア研究会	オンライン	谷本・室橋・谷・成田・佐々木(恵)・坂林・山本(裕)・米澤・佐藤・大倉・尾上・志知・松原・谷水・能登 (13 名出席)
	26	採用能力向上プログラム　KAIGO HR RECRUITING LABO　オンライン研修	オンライン	尾上
				延べ 81 名

令和２年度　総務課事業報告

１．総括

令和２年度は、毎日の朝会、毎月の課内会議の開催で、職員相互の業務の実施状況や行事予定の共有を図り、窓口として来客などの対応を実践した。

さらに、総務課職員を対象とした研修会受講により、法人全体の経営・施設運営の業務を担うセクションであること、施設の行事など事前準備を含めて積極的に参加するという職員の考え方や意識に変化が生じている。

事務部門においては、課員全体で業務をすいしんできるような事務マニュアルを作成し、事務の効率化とご利用者の利便性向上を図った。

また、経理事務については、会計処理システムにより、会計処理の明確化を図っています。予算事務は、各課が責任を持って予算確保・執行ができることを目標とし、予算編成など行っていますが、予算管理については今後の課題といる。

さらに、出退勤に係る「タイムレコーダー」を平成 28 年度から導入し、職員の出退勤時間の適正な把握を目指していますが、今後は、給与支給システムとの連携等検討が必要となっている。

「広報活動」は、広報委員会の事務局を担い、広報誌（オールカラー化）・ホームページ・ブログを通して情報発信を充実させ、昨年に引き続き成果を残すことができた。ホームページ・ブログについては、使いやすさや見やすさなどについて検討を行い、必要な改善を行った。

なお、新型コロナウイルス感染予防対策については、特別休暇対応、補助金・助成金活用、必要物品の確保・作成など必要な業務を推進した。

２．次年度に向けて

総務課会議を毎月定例開催し、課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルに基づく研修などを通じて、社会福祉法人・高齢者福祉施設の総務部門に求められる「おもてなし」の使命と役割を正しく認識し、窓口業務の一層の高度化と経理事務をはじめとする業務がスムーズに行え、事務処理がさらに簡素化できるようなシステムづくりに取り組む。

また、経営の羅針盤ともなる会計データの提出に関しては、正確性と期日厳守を徹底し、財政健全化に必要なデータを即時即応で提出できる体制を確保します。加えて、各事業所の予算管理について確認を徹底し、計画に基づく予算執行を目指す。

さらに、さつき会各事業所の働きやすい職場環境を目指し、課員全職員が各事業所担当となり、環境整備に努め、業務の効率化・安全化の徹底を図る。

また、社用車等についても安全運行のため、計画的な点検・整備の徹底を図る。

加えて、災害対応に向けた、日頃の準備の重要性を認識し、行政・近隣住民・家族の協力を得ながら、入居者・利用者の安全第一のため、用品確保・訓練実施に取り組む。

今般の新型コロナウイルス感染症予防対策への対応についても、引き続き、新型コロナウイルス感染対策本部の役割を確実に担う。

３．運営状況・統計資料

（１）職員の状況

（単位：人）

役職・職種　区分		令和２年度 期　首	令和２年度 期　末	増　減
施設長		1	1	0
副施設長(施設長兼務)		（1）	（1）	0
地域密着型サービス事業部長		1	1	0
施設・在宅サービス事業部長		1	1	0
事務員	正　職　員	3	3	0
	嘱 託 職 員	1	1	0
	パート職員	2	2	0
生活相談員	正　職　員	3	3	0
	パート職員	0	1	1
ケアマネジャー	正　職　員	4	5	1
出向ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ	正　職　員	1	1	0
計画作成担当者	正　職　員	4	4	0
サービス提供責任者	正　職　員	3	3	0
介護員	正　職　員	54	48	▲6
	パート職員	26	31	5
ホームヘルパー	正　職　員	1	1	0
	パート職員	5	6	1
	登　　録	2	2	0
看護職員	正　職　員	5	5	0
	パート職員	5	5	0
理学療法士	正　職　員	2	2	0
管理栄養士	正　職　員	3	2	▲１
調理員	正　職　員	2	2	0
	パート職員	14	14	0
運転員	パート職員	2	1	▲1
用務員	正　職　員	1	1	0
夜間管理当直員	パート職員	5	5	0
	派 遣 職 員	（1）	(0)	(▲1)
嘱託医		1	1	0
合　　計		152	152	0

注）兼務職員については、主たる職務へカウントする。

（２）賞与支給状況

時　　期	支給月数
	正職員
6 月	0.8～1.8
12 月	1.2～2.2
計	2.0～4.0

（３）寄付金関係　　（単位：円）

区　　分	件　　数	総　　額	摘　　要
寄付金	6	345,000	法人・各事業所運営のため

（４）環境整備・苑内修繕状況（10 万円以上）　　（単位：円）

月	環境整備・修繕名	整備・修繕先	費用	実施施設名
6	ウォシュレット取替工事	齋藤工業所	134,200	ぬくもりの家えん
7	洋ユニット給湯機取替工事	大洋設備	190,000	なごみの家
9	GH なごみ床フロア補修等工事	盛永組	165,000	なごみの家
	SH なごみ床フロア補修等工事	盛永組	313,500	なごみの家
	非常灯・非常灯用ﾊﾞｯﾃﾘｰ取替工事	山崎電機	173,800	鷹栖さつき苑
	非常灯・非常灯用ﾊﾞｯﾃﾘｰ取替工事	山崎電機	110,000	なごみの家
12	浴室混合栓取替工事	盛永組	539,000	ぬくもりの家えん
1	非常照明非常用電池取替	五光トータル防災	165,000	ぬくもりの家えん
	ボイラー室給水管漏水取替	大洋設備	110,000	鷹栖さつき苑
2	ライラックイオ LA-400 修理	ｴｱ・ｳｫｰﾀｰ・ﾗｲﾌｻﾎﾟｰﾄ	125,290	鷹栖さつき苑
	ネットワーク機器一式	SHINKO	2,541,000	鷹栖さつき苑
	ネットワーク機器一式	SHINKO	2,860,000	なごみの家
	ネットワーク機器一式	SHINKO	1,573,000	ぬくもりの家えん
3	ネットワーク機器一式	SHINKO	947,540	在宅支援
	非常用自家発電装置整備工事	亀谷電設	9,018,240	なごみの家
	非常用自家発電装置整備工事	亀谷電設	9,769,760	ぬくもりの家えん
	ライラックイオ LA-400 修理	ｴｱ・ｳｫｰﾀｰ・ﾗｲﾌｻﾎﾟｰﾄ	211,200	鷹栖さつき苑
	ウォシュレット取付工事	齋藤工業所	167,200	鷹栖さつき苑
合計			29,113,730	

（５）苦情・意見に対する改善状況

部　署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
本部・総務課		なし	
特養さつき苑		なし	
ショートステイ さつき苑		なし	
デイサービス はぴねす			
ヘルパーステーション さつき苑	7月	物品破損時の職員の対応に不満	誠意を持って、謝罪の言葉を最初に伝える
	10月	訪問中の掃除の仕方、態度に不満	個別による細かな指導、引き継ぎの改善を行う
介護センター さつき苑		なし	
グループホーム なごみの家		なし	
小規模 なごみの家		なし	
特養 ぬくもりの家えん		なし	
小規模 ぬくもりの家えん		なし	
サ高住たかほ	1月	サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ管理当直員の対応について	対象職員へ対して、個人的な関わりを持たないように指導するとともに、たかほ管理当直員の勤務を外した。

（６）総務課職員研修会

開催年月日	講師	テーマ	参加職員数
令和2年6月9日	波潟施設長	総務課の仕事の目的と役割(1)	6
令和2年7月17日	泉田先生	総務課職員レベルアップ研修会	7
令和2年10月16日	波潟施設長	総務課の仕事の目的と役割（2）	6
令和2年11月30日	総務課長	接遇マナーの基本	7
令和3年3月8日	泉田先生	特養さつき苑リーダーとの合同研修	6

（７）総務課課内会議

毎月１回開催：業務確認等実施

令和2年度　部門（事業所）別活動計画（実績）

部門（事業所）名　法人本部・総務課

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)(3)(4)	施設環境の維持管理	①全事業所の建物・付属設備・車両等の定期点検及び必要な営繕を行うとともに、環境点検シートに基づく点検を実施する。 ②おもてなしの心を表すために、来客者への対応、毎週実施している玄関及び大ホールの清掃並びに環境整備を継続して行う。 ③各施設・事業所の物品庫の整理・整頓を推進する。	木幡・高橋・舟根・佐々木	計画	①定期点検年間スケジュール作成 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続		①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①定期点検を実施し、事故等の未然防止、入居者・利用者様への影響軽減を図る。 ②おもてなしの心を徹底する。 ③物品庫整理で、無駄をなくし、保管物品の見える化を図る。	B	①車両・建物は法律に基づく点検実施済 ②全ての事業所の環境整備はできていない
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
2	(2)(3)	災害対策	①防災用品・備蓄品の完備及び各種災害訓練(非常連絡網確認訓練含　各拠点年2回)の実施。 ②地域住民・行政等との連携による、実効性のある災害対策の組織構築を行う。	木幡・高橋	計画	②行政への働きかけ	②組織構築へ向けた検討	①避難訓練検討(各事業所)	①防災用品等確認	①避難訓練(非常連絡網確認含)	①自然災害避難訓練検討		①避難訓練	①各事業所へ灯油確保(災害時灯油ストーブ用)	②組織構築に向けた打合せ			②組織構築	①災害に備え、防災用品等を整備する。 ②災害に備え、避難訓練(自然災害含)を実施する。 ③大規模災害に備え、地域住民・行政を巻き込んだ組織体制の構築	C	新型コロナウイルス感染症予防により、地域住民を巻き込んだ組織の構築はできなかった。 感染対策に忙殺され、自然災害への対応ができなかった。 災害備蓄品の確認は実施できた。　なごみの家・ぬくもりの家えんに非常用発電装置が整備された。
					実施	未実施	未実施	未実施	防災訓練実施7/24	未実施	防災用品点検		未実施	未実施	未実施			未実施			
3	(2)(4)	仕事の見える化の推進 (業務推進体制の構築)	①朝会及び課内定例会議により、各職員の業務スケジュールを確認し、効率的・安定的な業務の推進を図る。 ②各事務担当職員不在時においても、業務を推進できるように必要なマニュアル(ボランティア受け入れマニュアル、利用料金受領マニュアル、労務管理事務マニュアル等)を整備して事務処理方法の標準化と効率化を図る。	木幡・高橋・佐藤	計画	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回)	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回)	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	B	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回)	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回)	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会・課内定例会議の開催 ②各事務処理マニュアルの整備	B	朝会・課内定例会議は実施。　マニュアルについても、総務課長主管事務以外は完成。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
4	(1)(4)	働きやすい職場づくり	①有給休暇の計画的な取得を推進する。(最低、各職員5日間の有給休暇取得) ②職場環境改善(施設・設備・車両・備品類)を行う。	佐藤・佐々木・全職員	計画	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討		①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①課員全員が有給休暇を5日以上取得する。 ②職場環境改善が適切に実施される。	B	①有給休暇10日以上貸与者は5日以上の有給取得。ただし、夜間当直員が3月に集中取得となったため、次年度は計画的な取得を目指す。 ②職場環境改善については、毎週月・木及び日直時に施設内消毒実施、清掃等改善指示済。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
5	(2)	会計事務の適切処理	①経理規程に基づき、適正な事務処理を行う。 ②各事業所の予算管理を適正に推進するため、担当課長との連携を強化する。	舟根・土川・木幡	計画	①適正事務処理 ②予算管理システム検討(発注書に予算記載等)	①適正事務処理 ②予算管理システム実行	①適正事務処理 ②予算未計上事案の取扱い検討	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ)	B	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ)	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ)	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正な経理事務を実施する。 ②予算管理が適正に執行される。	B	①適正な経理事務実施。 ②予算作成について例年より前倒しで実施、内容精査をすることができた。 ③予算管理は各課長となるが、繁忙度のあるものもあり、なかなか強化が難しい。 ④コロナ関連及非常用自家発電、介護ロボット等補助金業務は適正に処理できた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
6	(2)(4)	職員全体研修会	①職員全体研修を体系化し、確実に実施する。(交通安全研修・メンタルヘルス研修・接遇研修・職員育成研修等)	木幡・全職員	計画	①研修計画作成	①職員全体会議開催(研修計画提示)	※外部研修	①交通安全研修開催	※人材育成(ネクストリーダー研修)	①研修計画実績確認	C	※人材育成(管理者研修)	①ストレスチェックに基づく研修実施	※人材育成(ネクストリーダー研修	①研修計画実績確認	①次年度研修へのアンケート徴収	①研修計画策定	①職員に必要な研修が計画的に提供される。 ②職員の質が向上する。 ③職員が人財として育成させる。	C	①コロナ関連で集合研修ができなった。 ②次年度に向けた計画も企画できない状態。
					実施	未実施	書面開催	未実施	未実施	実施	未実施		未実施	未実施	実施	未実施	未実施	未実施			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画（実績）

部門（事業所）名　法人本部・総務課

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
7	(1)(2)(4)	課内会議・課内研修	①定期的な課内会議開催 ②定期的な課内職員研修開催（良質高度な総務サービス提供に向けて等）	木幡・全職員	計画	①課内会議 ②課内研修（希望確認）	①課内会議	①課内会議	①課内会議 ②課内研修	①課内会議	①課内会議	A	①課内会議 ②課内研修（希望確認）	①課内会議	①課内会議	①課内会議 ②課内研修	①課内会議	①課内会議	①職員会議の定例化される。 ②職員研修の定例化される。 ③研修受講職員が課内で伝達研修を実施できる。	B	①課内会議は月1回定例開催。 ②総務課職員対象の社内研修実施 ③社外研修はコロナ禍未受講。 ④業務関連資格受験・取得者有。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和２年度 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑・ショートステイさつき苑 事業報告

１．総括（今年度の取り組みの成果）

令和2年度は、根拠に基づいたケアの提供と多職種連携に特に力を入れ取り組んだ。前年度までは主任が2名であったが、専任で1名にし、新たなリーダー2名を置き、1週間毎のケアチェックの徹底を図った。また、カンファレンス、リーダー会議によりケアの見直し、他職種連携と医療連携に力を注いだ。結果として、入院者数が 436 日と目標(330 日以下)には届かなかったが、前年度(696 日)と比較すると 260 日減った。長期入院と ADL 低下につながる骨折は 0 件(前年 4 件)早期対応が必要な胆道系疾患が 1 件(前年 7 件)と大きく減少した。しかし、肺炎については 5 件(前年 6 件)と減少できなかった。退去者も 6 名で前年度(18 名)の 3 分の 1 と少なく内半数の 3 名がさつき苑でターミナルケアであった。残りの 3 名は急な体調の変化により長期入院及び入院中の死亡によるものであった。

事故の目標は昨年度比 10%減であったが 157 件(昨年 91 件)と大きく増えてしまった。同一の方の転落、転倒が防ぐことが困難で一人が 19 件、11 件となったケースがあった。骨折は 0 件で目標達成、服薬に関する事故は 33 件(前年 17 件)と増えているが、自分で飲み込むことで落とした薬を後で発見することが多かった。また、内服薬の関係もあり小さな内出血も合ったため、介護方法の変更や機器の導入は更に実施する必要があった。

食事、栄養については口から食べることにこだわりながら、美味しい食事と栄養だけでなく好みに合った食事の提供に努め、ターミナル期には本人の食べたいものなど家族との連携も図った。

働きがいと魅力ある職場環境をつくるでは、引き続きリフレッシュ休暇継続公休での会議出勤を減らす、会議時間の縮小に努めた。中途退職者(仕事内容を理由とするもの)は 1 名であった。実習生については昨年に続き外国人の受け入れを行ったほか、コロナウイルス流行禍においての新しい実習の形としてオンラインによる実習も受け入れた。

行事、レクレーション、面会についてはコロナウイルス流行により多くの計画が実施できなかった。しかし、外に出て散歩をする機会や季節を感じる行事は規模を小さくし行った。面会は多くの期間できなくなってしまったが、オンライン及び窓越し面会をできる限り実施し、ご家族に送る手紙も写真を入れつながりを絶たないように努めた。

最後に、令和 2 年度の業績について、特養事業は目標稼働 98.0%に対し、実績 97.4%(前年 94.6)(目標介護保険収入 207,494,000 円に対し、実績介護保険収入は 213,541,000 円)、ショートステイ事業は目標稼働 95.0%に対し、実績 90.2%(前年 88.8)目標介護保険収入 34,280,000 円に対し、実績介護保険収入は 36,254,000 円)であった。特養事業については、入居者の状態の安定により目標には達せないも近づけることができた。ショートステイ事業については、在宅で限界を迎え施設の入居待ちとなる方のロングステイが多くなってきているのと、コロナウイルスの関係で入退去がスムーズにいかず実人数の低下となり稼働がさがってしまった。

2．展望（次年度に向けて）

令和3年度は、重度化に対して科学的評価の基、他職種連携と医療連携を図りケアの向上を図

っていく。また、大きな行事はできずとも暮らしの喜びや体を動かすことをふやしていく実践していく。

人材の定着と確保については、外国人が採用になるため今まで以上にわかりやすく丁寧な教育をしていくと共に休暇の取得推進、サービス残業ゼロの取り組み、を記録の IT 化や介護機器の導入を図っていく。

適正収益の確保では、特養事業の目標稼働率は 98.0％以上（目標介護保険収入 211,411,000 円）、ショートステイ事業の目標稼働は 90%以上（目標介護保険収入 31,865,000 円）とする。また、支出面において現在の業務委託にかかる経費は、業務の効率化と合理化を図り、適正化を図る。

３．業績報告

（1）ベッド稼働率　（単位：%）

事業名	目標ベッド稼働率(A)	実際ベッド稼働率(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度ベッド稼働率(C)	伸長率 (B)/(C)×100
特別養護老人ホーム事業	98.0%	97.4%	99.4%	94.6%	102.9%
短期入所生活介護事業	95.0%	90.2%	94.9%	88.8%	101.6%

（2）延べ入居者人数　（単位：人）

事業名	目標延べ入居者数(A)	実際延べ入居者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度実際延べ入居者数(C)	伸長率 (B)/(C)×100
特別養護老人ホーム事業	17,885	17,767	99.4%	17,307	102.7%
短期入所生活介護事業	3,468	3,293	94.9%	3,249	101.4%

（3）事業収入（介護保険収入・介護予防事業委託費）　（単位:千円）

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)/(C)×100
特別養護老人ホーム事業	209,253	215,682	103.1%	204,678	105.4%
短期入所生活介護事業	34,326	36,300	105.8%	33,643	107.9%

５．面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者延べ人数(名)	0	0	50	86	18	19	35	9	0	2	0	0	219 (3,395)

※コロナにより面会は中止または短時間（15 分以内）窓越しであった。

６．行 事

実施日	行事名	内容
6/	春の散歩	園庭を散歩し外気を浴びてリフレッシュを図る。
7/12	さつき祭	コロナ流行につき中止
8/9	スイカ割り	なでしこユニットで行う。
8/21	焼き肉会	外で炭焼きした焼き鳥やサンマ、イカや北海道ならではのジンギスカンを総務職員も一体となり焼き、各ユニットに届ける形で実施した。
9/21	敬老の日 （新秋祭）	米寿、長寿のお祝いの方４名とその家族でのみ実施。 祝膳とデザートを入居者全員に用意する。
10/25	貼り絵	ユニットにて貼り絵を作り飾る。
12/25	ライオンズ 寿司会	お寿司を入居者職員にいただく。コロナのため会員の配膳はなし。
12/27	餅つき	コロナ流行により中止（正月にお雑煮のみ提供）
1/1～3	書き初め 福笑い	各ユニットで書き初め、福笑いを実施する。
1/15	新年会	鍋を各ユニットに総務職員も協力し振る舞う。獅子舞と宝引きを各ユニット回り実施。
2/2	節分	職員と入居者が鬼になり各ユニットを回る。
3/3	ひな祭り	総務職員がひな人形をホールに飾る。各ユニットで雛人形を折り紙で作成し飾る。

※小学校、養護学校、保育園の交流行事は予定していたが、コロナウイルス流行につきすべて中止。

７．会議・研修

月	会議・研修名	内容	担当
７月	食中毒研修	食中毒の原因、予防、冷蔵庫の掃除など	栄養士
８月	救急救命研修	心臓マッサージ、AED の使い方など	消防署
10 月	感染症対策研修	インフルエンザ、ノロウイルス対応	看護師
11 月	ターミナルケア研修	マニュアルの確認他	相談員
12 月	虐待・身体抑制廃止研修	虐待の定義、「マニュアルの確認他	相談員
３月	外国人受け入れについて	受け入れる理由、気をつけること等	施設長
8～1 月	基礎介護研修	食事、排せつ、入浴、移乗、医療、認知症	法人全体

※各ユニット会議、リーダー会議、ナース会議は毎月実施

※リーダー会議：　ユニットの利用者の状態把握、職員の状態把握、業務改善、業績について

※各ユニット会議：カンファレンス、褥瘡発症者及びハイリスク者、栄養マネジメント、抑制廃止、本人家族からの苦情要望、事故の検討を毎回行っている。

※ナース会議：　入退院・通院状況、新規・退去者状況、褥瘡発症者及びハイリスク者、排便コントロール・下剤の見直し、向精神薬の見直し、業務改善を毎回行っている。

令和２年度特別養護老人ホーム現況報告書

（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月31日）

１．入居者状況

（1）利用（入退所）状況　（過去５年）

年度	定員	新年度より繰越人員			新規入所			死亡・退所人員						翌年度へ繰越人員		
								死亡			退所					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
28	50	12	37	50	2	8	10	3	3	6	2	1	3	9	41	50
29	50	9	41	50	4	6	10	2	7	9	0	1	1	9	41	50
30	50	9	41	50	4	15	19	1	9	10	2	5	7	9	41	50
R1	50	10	40	50	6	11	17	3	10	13	3	2	5	9	41	50
R2	50	10	40	50	1	5	6	0	3	3	2	1	4	10	41	50

（２）入居者住所地（令和３年３月31日現在）

	男性	女性	合計
鷹栖町	10	38	48
町外	0	2	2
合計	10	40	50

（３）入居者待機者状況（令和３年３月31日現在）

	老健	病院	その他	GH	在宅	合計
計	2	9	5	2	18	36

（４）在所期間一覧表（令和３年３月31日現在）

１年未満	8
1～4年未満	15
4～6年未満	5
6～8年未満	1
8～10年未満	3
10年以上	4
合　計	50

（５）入居者年齢構成（令和３年３月31日現在）

	在 籍 者		
	男性	女性	計
65才～74才	0	2	2
75才～79才	0	2	2
80才～84才	1	6	7
85才～89才	4	8	12
90才～94才	5	12	17
95才～99才	0	8	8
100才以上	0	2	21
計	10	40	50

（６）介護度の状況（令和３年３月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
計	1	4	13	8	24	50
男性	1	1	5	1	2	10
女性	0	3	7	7	23	40

（７）身体状況（障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定）

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
計	0	0	6	9	9	17	0	9	50
男 性	0	0	3	2	2	3	0	0	9
女 性	0	0	3	7	7	14	0	9	40

（８）認知症の状況（認知症高齢者の日常生活自立度判定）

	正常	Ⅰ	Ⅱａ	Ⅱｂ	Ⅲａ	Ⅲｂ	Ⅳ	Ｍ	計
計	4	4	3	6	17	7	7	2	50
男 性	0	1	1	3	0	2	3	0	10
女 性	4	3	2	3	17	5	4	2	40

（９）食事状況（令和３年３月31日現在）

	自立	見守り	一部介助	全介助	経管栄養	合計
合計	11	13	8	12	6	50
男性	4	2	1	3	0	10
女性	7	11	7	9	6	40

（１０）移動状況（令和３年３月31日現在）

	歩行		杖	歩行器など		車いす		計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
合計	4	3	1	5	7	4	26	50
男性	2	0	0	1	1	3	3	10
女性	1	1	0	2	5	6	25	40

（１１）入浴状況（令和３年３月31日現在）

	一般浴		個浴	車いす浴	シャワー浴	合計
	自立	介助				
合 計	0	7	15	28	1	50
男 性	0	4	0	5	0	10
女 性	0	3	15	21	1	40

（１２）排泄状況（令和３年３月31日現在）

日中

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	5	13	0	0	31	(2)	50
男 性	2	2	1	0	5		10
女 性	3	11	0	0	26	(2)	40

夜間

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	6	6	2	0	36	(2)	50
男 性	2	1	1	0	6		10
女 性	4	5	1	0	30	(2)	40

（１３）入居者疾患分類（令和３年３月31日現在）

疾患名	計
脳血管障害	27
糖尿病	8
心疾患	16
関節炎・リュウマチ	13
パーキンソン病	2
認知症(アルツハイマー)	15

認知症(レビー小体型)	1
認知症(脳血管型)	3
認知症(そのほか)	8
悪性腫瘍	3
胆道系疾患	8
泌尿器疾患	6
腎機能障害・腎臓病	3

※主疾患のみ。重複あり。

（１４）入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	日数
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	貧血	42
森山病院	脳外科	脳梗塞	10
旭川医療センター	消化器科	S 状結腸軸捻転	4
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
旭川医療センター	神経内科	精査	20
森山病院	循環器内科	誤嚥性肺炎	28
森山病院	脳外科	肝機能精査	5
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	血圧低下	53
佐野病院	内科	誤嚥性肺炎	36
旭川医療センター	内科	誤嚥性肺炎	20
旭川赤十字病院	脳外科	痙攣発作	12
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
旭川赤十字病院	脳外科	脳出血	24
森山病院	脳外科	胸部不快	6
旭川医療センター	神経内科	低栄養	35
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
旭川医療センター	呼吸器科	誤嚥性肺炎	39
旭川医療センター	消化器科	総胆管結石	15
大西病院	内科	脳出血	33
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
市立旭川病院	皮膚科	蜂窩織炎	17
森山病院	脳外科	脳梗塞疑い	1

２．事故発生の統計（１）事故の内容

内　　容	特養	ショート	合計
転倒	54	21	75
転落	48	7	55
ぶつけた	5	0	5
誤飲(誤嚥)	1	0	1
誤投薬	5	2	7
投薬忘れ	21	5	26
異食	2	0	2
その他	13	2	15
圧迫	0	0	0
掻いた	0	0	0
不明	8	1	9
	157	38	195

（２）けがの程度

程　　度	特養	ショート	合計
無傷	110	29	139
発赤（後に消失）	3	3	6
擦り傷	3	3	6
切り傷	4	1	5
内出血	26	0	26
やけど	0	0	0
腫れ	5	1	6
骨折	2	0	2
死亡	0	0	0
その他	2	0	2
打撲	0	0	0
表皮剥離	0	1	1
出血	2	0	2
	157	38	195

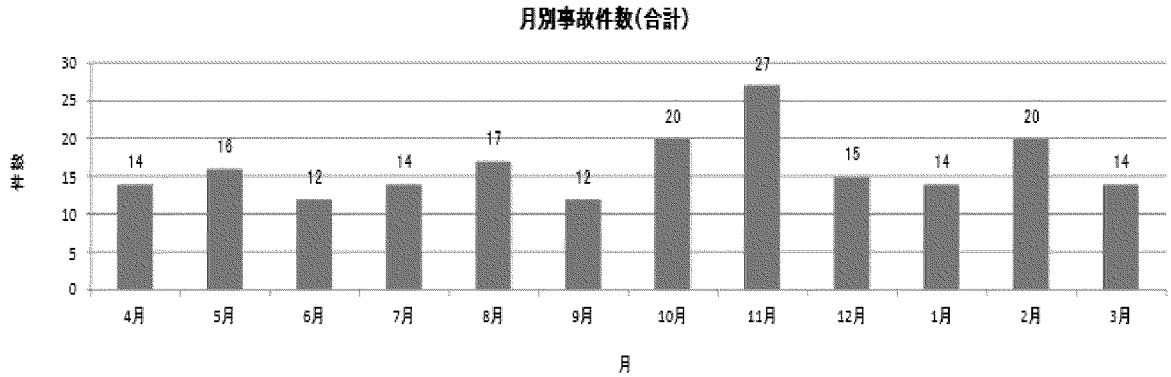
（３）事故の種類

種　類	特養	ショート	合計
介助中	45	8	53
単独	98	28	126
自傷	0	0	0
	143	36	179

（４）事故の発生（発見）場所

場　所	件数
リビング	16
浴室	0
トイレ	4
居室	8
廊下	6
食堂	1
その他屋内	2
屋外	0
不明（後に発見）	1
	38

（５）月別事故発生件数



３．苦情の状況

（１）苦情の内容と対応

なし

令和2年度　部門（事業所）別活動報告

部門（事業所）名　　生活福祉課　　評価基準）S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：取り組んだが結果不十分　D：全くアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア（総合的視点による予防的ケア）を実践。	①従来のケアシステムを運用しながら、ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防します。（目標：新規受診数前年比-10%） ③多職種によるカンファレンスを速やかに開催し要因分析と対応策をたてケアします。（目標：年間入院日数330日以内）新たな疾患、病気の再発の予防に努めます	相談員 ケアマネージャー	計画	ケアチェック、随時カンファレンス実施（継続） ・定期カンファレンス（月1回）		特養勉強会(1)				B	・ケアチェック、随時カンファレンス実施（退院事、例の定期的なカンファレンス（月1回）の実施 ・リーダー勉強会(2)				リーダー勉強会(3)		・新規受診数 前年比-10%。 ・年間入院日数330日以内。	B	新規受診数は前年度比-9% 入院は昨年より一260日となったが、実件数は436と目標を上回ってしまった。
					実施	実施							実施								
2	(1)	尊厳を守り、痛みや苦しみを緩和し、個々にふさわせた、より良質なケアサービスを提供。	①下剤服用による苦痛、認知症の周辺症状の悪化を予防するため下剤使用の見直しを継続し、自然排泄のための補助療法等を充実させることで、刺激性下剤常用者 全入居者の6%以内（3人以内）をめざす。 ②長期間見直しされていない向精神薬、眠剤、その他の薬剤について、薬剤の特性を理解し、通常期待される効果が認められていない、または、副作用が強く出ている場合など、本人の状態を踏まえたうえで医師と相談、見直しを図る。 ③誤嚥性肺炎を起こさないよう食事方法の見直しと口腔ケア研修を実施しケアの向上を図る。また、本人の苦しみや痛みを緩和するために、喀痰吸引がすくなるようなケア方法を実施する。 ③尊厳ある排泄をめざしその方に合わせた排泄方法、オムツ形態を見直すため、CST委員会を立ち上げます。また、尿失禁のある方に対し、排せつのタイミングを把握し、できる限りトイレでの排泄をしていただくことで清潔な状態を保つ。 ④ポジショニングの研修を実施し、拘縮と褥瘡を防ぐ。	看護師 主任	計画	ナース会議、ユニット会議内にて検討（継続） ・CST委員会立ち上げ ・各ユニット会議でC口腔ケアの状況確認			「口腔ケア研修」準備	「口腔ケア研修」の実施	・上半期下剤服用排泄状況評価 ・上半期誤嚥性肺炎の状況確認	B	ナース会議、ユニット会議内にて検討（継続） 「ポジショニング研修準備」		「ポジショニング研修」実施			・下半期下剤服用排泄状況評価 ・下半期誤嚥性肺炎の状況確認	・刺激性下剤常用者 全入居者の6%以内（3人） ・向精神薬、眠剤等の服用者 全入居者の12%以内を目指す。 ・ご入居者の状況に合わせ、随時排泄ケア（トイレの使用、おむつの使用）について検討し、排泄に関する改善を図る。 ・口腔ケアの見直しと徹底を図り、誤嚥性肺炎を5件以内とする。	B	刺激性下剤使用者は1名 向精神薬・眠剤は13人と全体の26% オムツ使用はパッドも入れると72%であるが、使用しながらトイレでの排せつを実施している 口腔ケアは不十分で課題はあるが、誤嚥性肺炎は昨年より1件減り4件であった。
					実施	実施			未実施	未実施			未実施		未実施						
3	(2)	自立支援を視点におき、活き活きと暮らせる生活と環境を創る。	①担当スタッフが入居者個別に課題分析、計画の立案、目標に向けたケア（介護過程）を展開しQOL及びADLの向上を目指す。 ②残存機能を活かし役割を持っていただくことで活き活きとした暮らしができるよう、毎月のユニット会議で検討する。 ③アクティビティ（外出、季節行事、レクリエーション活動、手作りおやつなど）を充実させ、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ④施設内環境の整理・整頓・清潔を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくることで、ご利用者が安心し落ち着いて暮らせる環境をつくる。	リーダー	計画	・休憩室の掃除担当付け（総合職）	・春の一斉清掃 ・エアコン購入	・外出行事の実施（散歩・買物・外食など）	・担当による介護過程の展開（1人1ケース） ・流しソーメン			C	・担当による介護過程の展開（継続） ・秋の一斉清掃 ・鍋会		・年末大掃除				・各担当が介護過程を展開できる ・計画通りに行事が実施できる	C	行事はコロナ禍でほとんどじっしできなかった。しかし、その中でも体操や散歩、行事を楽しむことを実施した。 介護過程の展開についても内容に不十分さはあるが、実施した。 環境はエアコンの導入により快適に改善された。
					実施	実施	実施	未実施	未実施				実施		実施						
4	(1)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。（目標：事故件数、前年度より、20%減少、骨折事故ゼロ、服薬に関する事故を-50%） ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束（及び不適切なケア）を議題にあげ、対応について全員で検討、共有する。（目標：身体拘束と虐待及び不適切なケア0件） ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、ノロウィルス、インフルエンザを予防する。（目標：インフルエンザ・ノロウィルス集団（5名以上）発症0件	主任	計画	・事故発生時の対応について研修 ・肺炎球菌ワクチン接種対象者の検討 ・ヒヤリハットメモの導入	・肺炎球菌ワクチン接種 ・加湿器撤去		・食中毒予防研修（法人本部） ・事故の傾向調査・分析・報告		・身体拘束高齢者虐待予防研修	C	・インフルエンザ・ノロウィルス感染予防研修 ・インフルエンザワクチン予防接種案内	・インフルエンザワクチン接種 ・加湿器設置 ・事故の傾向調査・分析・報告 ・感染症予防の意識啓発（アルコールスプレー設	・インフルエンザ・ノロウィルス注意喚起	・インフルエンザ・ノロウィルス注意喚起 ・事故の傾向調査・分析・報告	・インフルエンザ・ノロウィルス注意喚起	・インフルエンザ・ノロウィルス注意喚起	・インフルエンザ・ノロウィルス集団発症0件。 ・事故件数、前年度より、20%減少。 ・骨折事故ゼロ。 ・服薬に関する事故を-50%（12件以内）。 ・身体拘束と虐待及び不適切なケア0件。	C	・感染症の発症はゼロ件であった。 ・事故件数は157件と同じ方の事故が続いてしまた。 ・服薬における事故も27件と多くなってしまった。 ・不適切なケアはなかった。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和2年度　部門(事業所)別活動報告

部門(事業所)名　　生活福祉課　　評価基準]S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:取り組んだが結果不十分　D:全くアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
5	(4)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。	①日々の生活の中で、食を通した生活の質の向上として、季節感のあるものを食べることにより、四季の移り変わりを感じて頂けるよう、行事・祝膳の提示の提案・実施をする。	栄養士	計画	・昭和の日祝膳	・慶老の日祝膳、みどりの日祝膳、こどもの日祝膳 ・さつき祭メニュー検討・試食会		・海の日祝膳、土用の丑の日 ・敬秋祭メニュー検討・試食会	・七夕祝膳	・十五夜の祝膳、秋分の日祝膳 ・敬老会メニュー検討・試食会	B	・体育の日祝膳	・文化の日祝膳、勤労感謝の日祝膳	・天皇誕生日祝膳 ・ライオンズクリスマス募司会 ・もちつき	・成人の日祝膳	・希分の日の祝膳、建国記念日祝膳	・ひな祭りの祝膳、春分の日祝膳	・季節感を感じて頂くための年間食事計画を予定通り実施出来る。	B	コロナ禍ではあったが計画通り実施できた 秋に行った焼き肉会は総務からの協力も得て、楽しんでいただくことができた。
					実施	実施	実施 さつき祭未実施		実施	実施	実施		実施	実施	餅つき未実施	実施	実施	実施			
			②嚥下機能の低下により食事形態の調整が必要な方も、常食の方と同じような見た目で四季を感じられるおやつを食べていただける機会を作るために、ソフト食の手作りおやつを提供する。	栄養士	計画		手作りおやつ:かしわ餅				手作りおやつ:お月見だんご	B						手作りおやつ:桜もち	・季節感を感じていただくため、安全かつ見た目の良い手作りおやつ提供を予定通り実施出来る。	B	季節行事に合わせ,常食に近い形で美味しく作ることができた。
					実施																
			③献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事を提供する。	栄養士	計画			新規食器購入検討(小鉢)	新規食器購入(小鉢)		新規食器購入検討(茶碗)	C	新規食器購入(茶碗)			不足食器確認	不足食器購入		・計画的に食器の購入を行い、見た目にも良い食事提供を実施することが出来る。	C	食器の導入は他のものが壊れ計画通りには実施できなかった。
					実施																
6	(3)	特養における管理栄養士の役割を学び、入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践します。	①毎月の体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーと連携して立案し、実施する。 ②食事量、水分量、排泄状況のダブルチェックを毎週行い、食を通したアプローチを提案し実施する。	栄養士	計画	・体重増減の確認と対応、報告 ・ダブルチェック	→	→	→	→	→	B	→	→	→	→	→	→	・体重の増減を把握し、個々の体に合わせた体重管理と要因分析・改善に向けて提案と実践が出来る。 ・体重減少者をなくすことができる。 ・毎週のダブルチェックを習慣化し継続することができる。	B	体重を栄養マネジメントと各会議で把握し、栄養補助食品等の導入も含め実施した。
					実施																
			③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチ・する。	栄養士	計画	①状態観察、実施、評価	→	→	→	→	→	C	→	→	→	→	→	→	個々に合った排便のアプローチを行い、排便困難者の減少を図ることができる。	C	食事でのあるローチは十分でなかった
					実施																
7	(4)	外部委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒を予防する。	栄養士	計画	①給食設備の確認 ②衛生管理方法について確認・見直し	→	→	食中毒予防研修(ユニット会議内)	→	→	B	→	→	→	→	→	→	事故や食中毒なく食事提供を行うことができる。	B	衛生面での事故はなく実施できた
					実施																
			②委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎朝のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。	栄養士	計画	①ミーティング内容検討・業務内容調整	①ミーティング実施	→	→	→	→	C	→	→	→	→	→	→	・毎朝のミーティングを継続して行うことができ、食事内容や業務内容についての情報を共有できる。 ・計画的にミーティング・会議を行い、課題を迅速に解決していくことができる。	C	情報共有はしていたが、多職種の連携までには至らなかった。
					実施																
			③よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。	栄養士	計画	厨房業務・オペレーションの確認と効率化の検討。	→	→	→	→	→	C	→	→	→	→	→	→	・使用する食材や調理方法を検討し、より美味しく満足度の高い食事を提供できる。 ・業務内容を見直し、効率のよい業務を行うことにより、食事の質を上げることがで	C	軟菜食が十分でなく、ソフト食に移行してしまうことがあった。
					実施																
8	(4)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供。 外部委託業者との連携強化。	①よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理工程など)の効率化。 ②委託契約額の適正化。	栄養士	計画	厨房業務・オペレーションの確認と効率化の検討。	→	→	→	→	→	A	→	→	→	→	→	→	おいしい食事を提供し、食事の満足度を向上させる。 献立の工夫や厨房作業の効率化・合理化を図り、委託契約額の適正化を図ることができる。(目標契約委託額 1,800,000円／月)	A	委託業者と協議を進め次年度減額に結びつけることができた
					実施																
9	(6)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②根拠に基づき各研修に連動した具体的なOJTを取り入れた新任教育を継続実施する。またエルダー面談や定期面談を計画的に実施する。	課長 主任	計画	・エルダー面談(毎週)	・エルダー面談(毎週)	・エルダー面談(隔週) ・前期定期面談 ・救急救命講習 ・避難訓練	・食中毒予防研修 ・エルダー面談	・エルダー面談(第4週) ・口腔ケア研修	・身体拘束、高齢者虐待予防研修 ・エルダー面談(第4週) ・基礎介護研修(1)自然災害想定訓練	B	・エルダー面談 ・ターミナルケア研修 ・避難訓練(夜間想定)	・褥瘡マネー研修 ・基礎介護研修②感染症予防研修	・後期定期面談 ・基礎介護研修(3) ・ポジショニングケア研修	・基礎介護研修(4)	・基礎介護研修(医療)	・エルダー面談 ・褥瘡マネー研修	・計画通り研修を実施する。 ・計画通り面談(エルダー・定期)を実施する。	B	コロナ禍で全部の研修はでき無かったが、工夫しながら概ね実施できた
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
10	(5)	ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。	①ご入居者とご家族が一緒に楽しめる行事を企画・実施する。(目標:さつき祭、新秋祭などの全体行事のほか、各ユニット、ご家族を招待し年に1回以上開催する)	リーダー 主任	計画		・花壇整備 ・北野小交流(1) ・チャレンジデー	・屋悟賓護学校交流会(1)	・さつき祭 ・婚肉 ・屋悟賓護交流(2)	・熱育フェスタ嵐山御輿	・新秋祭 ・長生き感謝祭 ・屋悟賓護交流(3)	C	・北野小雛供体験 ・秋のチャレンジデー	・北野小交流(2)	・ライオンズ寿司会 ・もちつき	・初詣 ・新年会	・節分		・計画通り行事を実施することができる。	C	コロナ禍でほとんどの行事が中止になり、家族と面会はできなかった。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			

令和2年度　部門（事業所）別活動報告

部門（事業所）名　　生活福祉課　　評価基準）S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：取り組んだが結果不十分　D：全くアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
11	(6)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、退職者ゼロを目指す。	①有給休暇（7連休または3連休、4連休2回）の計画的付与を継続する。 ②休日の会議、研修参加について改善を図る。 ③スタッフの成長とチームワークの向上、ユニット活動の活性化を目的とし、ユニット間の人事異動を定例実施する。 ④業務改善を図り、サービス残業や残業を減らす ⑤実習生の積極的な受入を図り、介護の魅力を伝えて行く（実習指導者研修の受講1名）	課長 主任	計画	・各会議内で業務改善について検討（継続） ・歓迎会	・リフレッシュ休暇取得開始	・ユニット異動	・さつき祭		・新秋祭	B			・忘年会	・新年会			・希望者全員が長期休暇（7連休または分割した連休）を取得できる。 ・30分以上のサービス残業ゼロ。 ・新任職員（1年未満）の職員の退職ゼロ。	B	新任職員も定着し退職はなかった。連休についても予定通り取得できた。
					実施	実施	実施	実施	未実施		縮小				未実施	縮小					
12	(8)	適正収益を確保と安定した運営。	①入院者数の減少、入退院の迅速な手続きにより空床を減らし稼働率の維持と向上を目指す。 ②新たな加算の取得に向けた体制を整え取得を目指す。	課長 主任	計画	会議で入院者・退居者のカンファレンスの実施。	→	→	→	→	→	B	会議で入院者・退居者の要因分析を実施。	→	→	→	→	→	・年間稼働率：特養98％以上、ショート95％以上。 ・入退居時の空床日数平均7日間以内。 ・特養：目標介護保険収入210,121,000円。 ・ショート：目標介護保険収入32,998,000円。 ・新たな加算の取得	B	稼働率については目標は下回ったが前年度よりは大きく伸びた。特養97.4％　ショート90.2％であった。収入については要介護度の変更もあり、上回ることができた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和２年度　鷹栖町デイサービスセンターはぴねす事業報告

１．総括（今年度の取り組の成果）

令和２年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくおいしい食事」「介護予防と中重度化対応」の５項目の取り組みを継続して行った。

「リハビリテーションの充実」は、個別のリハビリテーションのコーナーを設置した。e-ボール、セラバンド、軽量ダンベル、指先リハビリ等各自デイサービスの活動の合間に取り組めるように設置した。それに合わせて、リハビリスタンプラリーも行い、リハビリやスポーツをするごとに、スタンプを押し一定の数をためると、プレゼントが当たるイベントを開催した。多くの利用者がデイでの活動の合間の時間をリハビリに繋げて行けている。結果、リハビリを自主的に行う利用者が、前年度と比べると増加した。身体能力の向上を人に頼るだけでなく、個別リハビリの環境を利用し自ら進んで熱心に取り組まれていた。

「環境改善」は、昨年３月からの取り組みで、コロナウイルス感染予防の為、ホール全体にテーブルを設置した。ソーシャルディスタンスを保てる様に、人と人との距離を取れるように配置した。また、向かい合わせの利用者の飛沫感染予防のため、卓上にシールドの設置を行う。その他にも、アルコール自動噴霧機の設置や非接触型の体温計、非接触型の血圧計を設置した。

「アクティビティの充実」は、コロナウイルス感染予防の為、接触の少ないハンドメイド作品づくりを強化。担当の職員を増員し様々なアイディアを出し合い、作品の種類を増やし、多種多様なハンドメイド作品を作ることが出来た。ハンドメイドアクティビティの参加常連の利用者もでき、楽しいデイサービスを実現出来た。

「楽しくおいしい食事」は感染予防を優先しデイサービスで人気の鍋や焼き肉パーティーは残念ながら中止した。代わりに祝膳を提供し、普段のデイの食事とはひと味違う食事を提供した。

「介護予防と中重度化対応」は、職員による毎日の健康立ち話の開催。脱水・誤嚥性肺炎・下剤・認知症予防・生活不活発病の５つのテーマを行った。また、今年度はコロナウイルス感染予防の講座も追加した。中重度化予防では、デイサービスでの困難事例を会議の中で話し合い、病状の説明や対応方法を周知しケアの統一を図った。今年度は介護度が高めの方の新規利用が多く、年度初めの４月の平均介護度は 1.5 に対し年度末には 1.76 となる。初回利用時のアセスメントから、対応方法の見直しを迅速に行った。ショートステイとの連携もあり、デイサービスの利用継続が出来ているケースもあった。

今年度はコロナウイルスの流行もあり、予定していたイベントを中止または縮小する事を余儀なくされた。そのような中、感染予防の為、デイサービス利用を控え自宅から出ないで生活されている利用者もいた。１ヶ月以上の自宅待機状態の中、身体機能の低下は顕著であり、デイ再開の頃には以前の様に利用することが出来ず、サービスの移行をされる方が数名いた。

コロナウイルスの影響もあったのだが、それを上回るニーズがあり、実利用者数の月平均は、令和元年度 94.9 名から令和２年度は 102.4 名と増加。平均介護度も高くなり、収入

の増加につながった。（令和元年度介護保険収入 59,843,000 円　令和 2 年度介護保険収入 66,010,000 円）

2．展望（次年度に向けて）

令和 3 年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくておいしい食事」「介護予防と中重度化」の取り組みを継続する。中でも重度化の取り組みを強化し「住み慣れた地域」で少しでも長く生活できる様に、ショートステイとの連携や病院との医療連携を積極的におこなう。より多くの高齢者の健康づくりに関われるよう職員や環境の見直しを行い、更に活気のあるデイサービスセンターとする。そして、コロナ禍でも安心して楽しく利用出来る様に、引き続き感染対策の強化を行う。

3．運営状況・統計資料

（1）業績

＜事業収入＞　（単位:千円）

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 (B)／(C)×100
65,944	66,010	100	59,843	110.3

＜1 日の平均利用者数＞

目標 平均利用者数(A)	実際 平均利用者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 平均利用者数(C)	伸長率 (B)／(C)×100
27名	23.9名	88.5%	22.9名	104.3%

（2）利用者年齢構成

（単位：人）

年齢	男性	女性	合計
40 ～ 60	2	0	2
60 ～ 64	0	0	0
65 ～ 69	0	1	1
70 ～ 74	3	2	5
75 ～ 79	6	5	11
80 ～ 84	7	23	30
85 ～ 89	16	26	42
90 ～	14	38	52
合計	47	95	142
平均年齢	84.8	87.3	
最低年齢	48	69	
最高年齢	97	99	

（３）事故発生状況

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
転落	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
傷をつくる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食・誤食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
原因不明の傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪切り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投薬管理ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損事故	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	7
衣服破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
合　計	1	0	1	0	2	2	1	0	3	3	1	3	17

（４）職員研修

＜苑内研修参加状況＞

日　程	研　修　内　容	参加人数
令和2年		
4月　　20日	接遇マナー研修	7名
9月10.17日	基礎介護研修（中級：移乗）	5名
10月8.15日	基礎介護研修（中級：食事）	5名
11月12日2月12日	基礎介護研修（中級：排泄）	5名

＜外部研修参加状況＞

日　　程	研　　修　　名	参加者
令和3年3月6.7日	全国先端ケア研究会	谷・成田

（５）デイサービスセンター会議実施状況

開催月	内　　容	参加人数
令和2年 4月　　20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・令和2年度行動計画について	7名
5月　　18日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・接遇マナー研修	7名
6月　　22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
7月　　20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告	7名

	環境改善・活動計画評価・	
8月　24日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
9月　28日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
10月　26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・接遇マナー研修	6名
11月　30日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
12月　21日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
令和3年 1月　18日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
2月　22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
3月　22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告	5名

（6）ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

※コロナ感染予防の為　ボランティア中止

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②ボランティア協力団体

団体名	活動内容
なし	なし

（7）行事

※コロナ感染予防の為　外出行事、ソーシャルディスタンスを保つ事が困難な行事を中止

日時	行事名	場所	担当者
令和２年 ４月 18 日	アロママッサージ	デイホール	成田
５月 ８ 日	春の絵手紙	デイホール	成田
５月 26 日	布マスク作り	デイホール	成田
６月 1.2 日	夏の絵手紙	デイホール	成田

6月23日	布ブローチ	デイホール	新井
7月25.28日	ペーパークイリング	デイホール	成田
8月28日	切り絵	デイホール	新井
9月24日	タイルアート	デイホール	新井
10月5日	パークゴルフ大会	四季の里	大矢
10月6.13日	羊毛フェルト	デイホール	谷
10月15.16.17日	ネイルケア	デイホール	成田
11月6日	こけ玉	デイホール	谷
11月20日	ネイルケア	デイホール	成田
11月27日	はぴねすカフエ	デイホール	石坂
12月8.15日	しめ縄作り	デイホール	近藤
12月23日	ネイルケア	デイホール	成田
令和3年 1月15日	羊毛フェルト	デイホール	谷
1月19日	つまみ	デイホール	岩井
1月23日	はぴねすカフエ	デイホール	石坂
2月4.11.25日	つまみ	デイホール	岩井
2月16日	ネイルケア	デイホール	成田

4．苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

受付日	内容	原因	改善状況
なし	なし	なし	なし

令和2 年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　デイサービスはぴねす　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1.2.3	(1)	魅力あるデイサービス充実したアクティビティ	常に事業所内が清潔感に包まれ、利用者にとって心地よい居場所と空間を整える。	谷/成田/藤川	計画		リクライニングチェアー導入準備・谷	テーブルクロス（夏）藤川 リクライニングチェアー導入谷				B	図書コーナー開設準備 谷	テーブルクロス（冬）藤川 図書コーナー開設 本棚の購入 谷					①テーブルクロスのはり替えによる季節毎のホールの雰囲気の変更 ②ホールに調和するリクライニングチェアー購入 ③図書専用コーナーの設置（本棚購入）落ち着いて読書ができる環境の整備	C	しつらえの定期的な変更を行えた。ソーシャルディスタンスを保つために、テーブル数が増えそれに対応するテーブルクロスの購入が必要。図書コーナーは予算の都合で来年度以降に検討。
					実施		実施	実施					未実施	テーブルクロス実施							
			魅力ある製作レクリエーション、楽しめる脳トレを提供しご利用者様に楽しい時間を過ごしていただく。	成田/井上 新井	計画	ハンドメイド 脳トレ 成田/新井						A							①月1～3回製作レクの実施	S	ハンドメイドに力を入れることができた。未経験の制作物も多数あり、利用者の皆さんに楽しんでもらえた。脳トレの教材の作成に工夫が必要と考える。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			デイサービスのプログラムを見直し、活気のあるデイサービスを目指す。	成田/大河原	計画	newアクティビティ（毎月必ず新しいアクティビティの導入）成田		AMアクティビティ 大河				C							①AMにアクティビティを毎日提供できている	B	午前中のレクリエーションを実施刷ることが出来ていた。手の空いている利用者の参加ということもあり、デイサービス全体の活気とは言えなかった。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			外出レクリエーションの充実を図り、活動範囲の拡大を図る。	井上/石坂	計画			スペシャル外出 空港テラス 井上・近藤	スペシャル外出 美瑛ドライブ 成田		スペシャル外出 層雲峡 谷・大矢・大河原	D	スペシャル外出 動物園 藤川・石坂						①活動範囲の拡大が出来ている ②非日常的な体験を利用者と職員が共に共有する事が出来る（思い出を作る）	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ渦での実施方法の検討を行う。
					実施			未実施	未実施		未実施		未実施								
			食事会を毎月行い、「馴染みの仲間たちとのおいしい食事の場」を提供する。	柳原 藤川/近藤	計画	食事会			食事会（BBQ）	食事会（夏祭り）		D				食事会（新年会）	食事会（ご当地鍋祭）	食事会（ご当地鍋祭）	①食事会の定期開催「馴染みの仲間たちとのおいしい食事の場」の継続		
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
4	(1)	自立支援とリハビリメニューの充実	生活目標の設定・掲示をして、生活意欲が向上できるようにする。	大矢/大河原	計画						生活目標リニューアル 大矢	C						生活目標立案 大矢	①生活目標達成者15名 ②夏祭り・新年会に表彰各一名行える	D	夏祭り、新年会の中止に伴い開催できず。
					実施						実施							実施			
			非マシンによる自主トレーニングを提供し、リハビリテーションプログラムの拡充を図る。	大河原/大矢	計画							D					リハビリアイテム検討	リハビリアイテム導入	①リハビリアイテム（テーブルで行えるサイズのリハビリ）3種類導入	C	テーブルで行えるリハビリ、2種提供（回想療法、セラバンドコーナーの設置）3種目の設置はできず。
					実施												実施	実施			
			デイサービスセンターの中庭を活動、休息の場として整備する。	大矢/大河原	計画			パークゴルフ場 大矢				B							①パークゴルフ場の整備、休憩できる環境の整備	C	実施する。時折外での行事に使用するも、スタッフの配置により外に出られない日が多くあった。
					実施			実施													
			掲示物の更新を行い、介護予防の啓発コーナーの充実を図る。	大河原	計画		掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原			掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原	①定期的な回覧物の入れ替えができる	A	定期的な掲示物の貼り換えにより、飽きの来ない個人リハビリコーナーの継続ができている。アップテンポ体操は午後のレクリエーションの導入として定着し、午後の活気ある活動のきっかけになっている。また、すべての介護職員が実施できるようになっている。
					実施		実施		実施		実施			実施		実施		実施			
			元気の出る集団体体操の継続	大矢/大河原	計画	アップテンポ体操継続 大矢													①アップテンポの体操の導入により楽しい時間を過ごしていただく（PMレク導入に使用し、活気のある午後プログラムの流れを作る） ②介護職員が実施出来る		
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和2 年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　デイサービスはびねす　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
5.6	(2)	介護予防と重度化予防	総合記録シートの導入とケアチェックを行い入院リスクの低減、中重度化に対応する。	成田/谷/藤川	計画	総合記録シートチェック 体重表作成 藤川	→	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	入院による休止件数　2割削減 （R1　32名　　R2　26名）	B	R2入院による休止（1か月利用なし） 11名と昨年（32名）と比べると少なくなっている。新規利用や体調変化時の 緊急のカンファレンスが効果を表していると思われるが、定期的な記録のチェックをさらに強化することで、入院からの休止を防ぐことが出来ると思われる。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			学習会（健康立ち話）の実施による利用者の健康リスクの意識啓発を行う。	谷/成田/藤川	計画	健康立ち話	→	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	職員全員（パート含む）が健康立ち話（15分程度）の運営が出来る	S	オペレーションシートに組み込むことで、抜けることなく、全職員が実施できている。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			認知症予防のための学習療法の充実をはかる。	近藤/成田	計画	学習療法実施	→	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	12名の学習療法の実施 （R1　8名）	C	年間通して8名の利用と伸びがない。原因は担当者会議での、周知や勧め方に問題がある。日ごとの、対応人数にも限りがあるため、曜日ごとの調整や周知、宣伝を行うことが必要。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
7	(2)	安心して利用できるデイサービスづくり	事故・感染症の予防を行い安心・安全なデイサービスをつくる。	藤川/井上	計画		感染症対策実施	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	インフルエンザ・ノロウィルス・コロナウイルス 感染0件 事故発生50%削減 （R1　24件見込み　　R2　12件）	S	感染0件 事故8件 事故件数が大幅に減少（30%減少） 転倒ハイリスク者の毎朝の確認が効果的であった。感染はコロナウイルスの対応もありマスク常時着用のため、インフルエンザ予防にもつながった。
					実施		実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			緊急時に迅速に対応できる様に情報の整理を行う。研修に参加し適切な対応ができるように備える。デイ会議にて、リスクの高い方のカンファレンスを行う。	藤川/井上	計画	ケースカンファレンス	→	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	会議にて困難事例の検討を行う	B	デイ会議にてハイリスク者のカンファレンスの報告を行うことで情報の周知を行えた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			病欠の利用者の情報の収集を行い、医療連携を迅速に行える様に相談助言を行う。	藤川/井上	計画		→	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	入院による休止件数　2割削減 （R1　32名 見込み　　R2　26名）	B	R2入院による休止（1か月利用なし） 11名 今年度は入院休止が少なく経過したが、病欠情報の情報収集は思うようにできなかった。医療連携は病欠時に積極的に病院に看護師が連携をとり迅速に行えている。
					実施																
8	(1)	地域資源の活用	地域のボランティア団体との連携を図り、プログラムを充実させる。 （レクリエーションボランティアの検討・導入）	谷/成田	計画								レクボランティアケアアシスタント導入検討	レクボランティアケアアシスタント導入					①ケアアシスタント導入 ②学習療法サポーターの継続	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ禍での実施方法の検討を行う。
					実施								未実施	未実施							
9	(2)	ケアスキル 接遇マナー向上	研修・勉強会・接遇マナーに参加しケアスキル向上、接遇マナーの基本を学ぶ。	谷/成田	計画	新任職員研修 石坂・近藤		接遇マナー研修		全国老施協研究大会	ケアマネジメント		認知症実践者研修 藤川	全国老施協研究大会		チームマネジメント研修		先端ケア研究会	基礎介護研修参加 接遇マナー研修の実施 接遇マナーに関する苦情0件 重度化への対応 （平均介護度　R1　1.47　R2　1.6）	C	接遇マナーに関する苦情0件 声かけなど、まだ不十分なところあり、実際の業務現場での指示、指導が必要 平均介護度　1.64
					実施	実施		実施		未実施	未実施		未実施	未実施		実施		実施			

令和2 年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　デイサービスはびねす　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
10	(3)/(4)	スタッフのやりがいと業務改善	業務改善を定期的に行い、無理無駄を削減する。	谷/成田	計画	ブログ掲載計画担当表　作成　谷 通所計画書整理　谷・大矢 モニタリング担当作成　成田 相談員時間確保（1日/3時間）　谷							ブログ掲載計画担当表　作成　谷 通所計画書整理　谷・大矢 モニタリング担当作成　成田 相談員時間確保（1日/3時間）　谷						オペレーションの見直しを行い、効率化を図る。業務時間内に行える業務を増加させる（環境整備、室内しつらえ、ハンドメイド準備、買い出し等）	C	極力業務中に準備行えるようにと取り組んだが、年度後半に人員不足になり、自宅に持ち帰り準備することが、多く見受けられた。来年度の課題。
					実施	未実施/実施															
			スタッフ自身も活き活きと働けるよう、長期休暇(7連休)を計画的に取得する。	谷/成田	計画														希望者全員のリフレッシュ休暇取得（パートふくむ）	A	おおむね希望通りの休暇の取得ができた。
					実施																
			職員懇親会を定期的に開催し、チームワーク向上を図る。	谷/成田	計画	職員歓送迎会							職員懇親会						年2回交流会の開催	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ渦での実施方法の検討を行う。
					実施		未実施						未実施								
11	(4)	適正収益の確保	老人会内覧会の開催し新規利用者の増加、介護予防の周知を図る。	谷 大河原	計画					老人会内覧会									月間利用者数　平均27.0名以上 目標収益 64,198,000円 ※登録利用者数、定員の見直しを迅速に行う	C	平均利用者　23.9名 実績収益　66,010,143円 平均利用者の数が3.1名少ない。利用者の介護度の変化により、収入が増えた状況。 コロナ渦の状況の中でも安心して利用できるデイサービスを周知し、新規利用、入院休止減少を行う必要がある。
					実施						未実施										
			新規パンフレット準備・作成	谷	計画	画像収集/全員	→	→	→	→	→		新規パンフレット導入検討	新パンフレット作成							
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施							
			適切な利益の確保し、健全な経営ができる様にする。 （令和1年　平均利用者数 23.0名 介護報酬 59,957,000円 見込み） （令和2年　平均利用者数 27.0名 介護報酬 64,198,000円 ）	谷	計画	平均利用者数24.0名	平均利用者数25.0名	平均利用者数26.0名	平均利用者数27.0名	平均利用者数27.0名	平均利用者数28.0名		平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名			
					実施	24.2	22.2	24.7	23.7	24.1	24.8		24.4	25.1	23.0	23.3	23.8	23.9			

令和２年度　鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

１．総括

令和２年度、業務体制に関しては９月より１名主任介護支援専門員が欠員補充され退職者はなく安定した活動を実施することができた。

今年度よりフレックスタイム制度の導入により、ライフスタイルに合わせた働き方の体制ができ、働きやすい良い職場づくりを整備することができた。

居宅介護支援事業所においても新型コロナウイルス感染対策予防を徹底した。

通常のケアマネジメント業務は、自宅や病院訪問前に電話やメールによる相談対応を行い、訪問時は検温、消毒、マスク交換、短時間対応を行った。サービス担当者会議や介護サービス事業所への訪問などは、個々の状況に応じた感染対策を実施した。

研修関係は、休止、延期が相次いだが、オンライン研修に切り替え参加し、新たな学ぶ手段を構築できた。地域貢献活動の出前講座は、予定通り実施され講師として活動することができた。

適正利益確保目標人数平均145名としていたが、実施エリアを春光・春光台へ広げ、要支援者の受け入れ人数を増加させたことで平均165名の登録となり、目標より20名増と大幅に受け入れ目標達成できた。

利用者動向を前年度と比較すると、新規89名（＋19名）入院者191名（＋60名）停止者41名（±0名）で、新規が増加し、停止者が少なく安定した事業所運営を実施できた。

課題は登録人数増加により申請、連携などの細かな調整ミスや書類遅延がありチェック体制が不十分であった。

２．次年度に向けた展望

次年度は介護報酬改定に伴い感染対策、災害、ハラスメント対策など事業所運営に関する事項について法律に基づき実施したい。また、急激な登録人数増加により事業所内での業務の統一化や業務管理の仕組みづくり、ケアマネジャー間のチームワークの強化が求められている。引き続き利用者や家族に最善のケアマネジメントが提供できるように、より効果的・効率的な仕事の手段や方法を考え、ケアマネジャーひとりひとりが行動し、成果を上げられるよう活動する。

また地域包括支援センターとの連携を強化、居宅、小規模多機能、サ高住、入居施設など全体の動向を把握し、ひとりでも多くの方が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう総合相談窓口としての役割を担えるよう努める。

３．運営状況・統計資料

（１）収益

＜事業収入＞

（単位：千円）

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) ×100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) ×100
21,736,000	24,771,530	114.0%	20,699,680	119.7%

（２）居宅サービス利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成12年度	67	77	78	75	77	80	74	82	81	76	78	82	77
平成13年度	78	82	79	87	87	89	88	98	93	92	103	107	90
平成14年度	104	108	106	110	110	116	109	108	102	98	100	107	107
平成15年度	109	110	114	115	118	117	119	121	116	121	125	126	118
平成16年度	142	142	143	145	143	145	148	146	145	148	151	154	146
平成17年度	158	151	155	158	156	155	156	156	157	152	148	145	154
平成18年度	147	143	141	140	135	128	129	129	124	123	113	115	130
平成19年度	114	116	113	104	106	105	106	104	101	104	106	109	107
平成20年度	114	114	112	114	111	105	113	113	113	112	112	113	112
平成21年度	110	96	92	88	89	90	91	86	87	88	92	94	92
平成22年度	96	92	94	97	99	97	101	96	99	88	91	94	95
平成23年度	91	92	99	100	107	104	107	105	104	101	102	107	102
平成24年度	110	113	113	113	116	110	109	118	112	113	110	115	112
平成25年度	115	118	119	114	117	118	118	123	119	115	112	119	117
平成26年度	113	116	116	115	120	116	123	120	118	125	124	120	118
平成27年度	122	120	120	121	123	118	116	116	114	108	117	122	118
平成28年度	126	121	121	123	122	123	123	124	127	127	126	125	124
平成29年度	132	139	139	140	137	135	138	141	141	141	132	128	136
平成30年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成31年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和2年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169

（３）上記利用者の要介護度分布

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
要支援1	6	8	8	7	9	11	11	13	10	14	13	18	28
要支援2	17	13	13	12	12	11	9	9	11	15	18	19	27
要介護1	25	32	36	42	45	52	57	43	48	53	55	57	59
要介護2	34	23	19	19	24	23	22	32	32	25	22	22	32
要介護3	17	9	10	10	9	10	10	5	7	8	9	7	9
要介護4	8	3	6	9	9	9	7	6	8	7	5	6	8
要介護5	7	5	3	3	3	6	9	8	7	6	9	6	5

※人数は、各年度の平均人数

（４）苑内・苑外研修参加状況

①苑内研修

月　日	内　容	講師等	参加者
9月11日	新任職員研修	各関係者	1名
9月21日	基礎介護研修トランスファー	大矢・大河原ＰＴ	5名
10月15日	基礎介護研修　食事ケア・中級	谷課長	5名
10月19日	ネクストリーダー研修	施設長	1名
10月27日	感染対策研修	藤川看護師	5名
11月12日	基礎介護研修排泄ケア	森課長補佐	2名
2月13日	基礎介護研修排泄ケア	森課長補佐	1名
3月29日	外国人スタッフの基本的な理解について	施設長・尾上部長	5名

②苑外研修

月　日	内　容	主催	参加者
8月11日	ネクストリーダー研修	高齢者ケア研究会 泉田　照雄先生	1名
9月7日	主任介護支援専門員実践報告会	旭川市11圏域地域 包括支援センター	2名
9月8日	居宅介護支援合同事例検討会	誠徳園 居宅介護支援事業所	4名
3月6～7日	第11回全国先端ケア研究会ｉｎ北海道旭川	高齢者ケア研究会	3名
3月22日	アンガーマネジメント研修	高齢者ケア研修会	1名

（５）ケアマネ会議内容

月　日	内　　容
4月14日	１ケース　情報共有
4月21日	2ケース　情報共有　その他フレックスタイム導入検討
4月28日	情報共有　利用者動向　入院者の進捗状況
5月12日	6ケース　情報共有
5月19日	1ケース　カンファレンス
5月26日	2ケース情報共有　利用者動向　入院者の進捗状況
6月2日	１ケース情報共有
6月9日	1ケース　情報共有　業績報告　活動計画進捗状況
6月12日	ぬくもりの家たかほ情報共有
6月16日	6ケース　情報共有
6月23日	2ケース　情報共有　業績報告
7月7日	コロナ感染対策研修
7月14日	8ケース　情報共有
7月21日	8ケース情報共有
7月28日	1ケース情報共有　業績報告
8月11日	2ケース情報共有
8月18日	2ケース情報共有　活動
8月25日	3ケース情報共有　他事業所合同研修の周知
9月1日	11ケース情報共有
9月8日	カンファレンス
9月15日	1ケース情報共有
9月22日	12ケース情報共有
9月29日	9ケース情報共有
10月6日	7ケース情報共有
10月13日	1ケースカンファレンス
10月20日	10ケースカンファレンス
10月27日	業務の仕組み変更
11月3日	活動計画の報告　10ケースカンファレンス
11月10日	1ケースカンファレンス
11月17日	11名情報共有
11月24日	4件情報共有
12月1日	5件情報共有　請求業務の統一
12月8日	4件情報共有
12月15日	9件情報共有　1件カンファレンス
12月22日	業績報告　カンファレンス
1月12日	入退院支援についてコロナ感染対策検討
1月19日	9件情報共有　活動計画
1月26日	6件情報共有　利用者動向　業績管理
2月2日	14件情報共有
2月9日	11件情報共有　居宅サービスガイドラインについて
2月16日	8件情報共有
2月22日	14件情報共有　利用者動向

3 月 2 日	8 件　情報共有
3 月 12 日	14 件情報共有
3 月 16 日	8 件情報共有
3 月 22 日	4 件情報共有
3 月 30 日	5 件情報共有

（６）出前講座

月　日	内　　容	講　師
12 月 17 日	認知症サポーターキャラバンメイト養成講座	坂　林
2 月 18 日	鷹栖町介護に関する入門的研修	佐　藤

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　介護センターさつき苑

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)	利用者の課題に対し具体的なケアの方針がたてられるように、在宅版トータルケアシートの活用と多種職連携を強化	①在宅版トータルケアシート導入とケアチェック強化（ケアマネ一人4ケースを目標）	坂林 佐藤	計画	実施人数	→	→	→	→	→	B	実施人数	→	→	→	→	→	・平均4ケース実施	C	在宅板トータルシートの導入においては、1人平均4ケースの達成に至らなかった。ケアチェックの強化についてはサービス事業者間での状況把握や課題の共有に役立てることができている。
					実施	佐々木 2 坂林 5 佐藤恵 2 山本 3 佐藤晴 5 阿田	佐々木 1 坂林 5 佐藤恵 3 山本 3 佐藤晴5 阿田	佐々木1 坂林4 佐藤恵 3 山本 3 佐藤晴5 阿田	佐々木 1 坂林5 佐藤恵 3 山本4 佐藤晴5 阿田	佐々木2 坂林4 佐藤恵 3 山本4 佐藤晴6 阿田	佐々木 3 坂林4 佐藤恵3 山本 4 佐藤晴5 山本（裕）		佐々木 3 坂林3 佐藤恵2 山本3 佐藤晴5 山本（裕）1	佐々木3 坂林 2 佐藤恵 2 山本 4 佐藤晴5 山本（裕）3	佐々木3 坂林2 佐藤恵 2 山本 4 佐藤晴5 山本（裕）3	佐々木3 坂林2 佐藤恵 1 山本4 佐藤晴6 山本（裕）4	佐々木3 坂林2 佐藤恵 1 山本4 佐藤晴5 山本（裕）4	佐々木3 坂林2 佐藤恵 1 山本3 佐藤晴5 山本（裕）4			
			②カンファレンスシート作成（認知症・排泄カンファレンスシート含む）によりCM会議で要因分析を徹底し各事業所と多職種連携を強化		計画	実施人数	→	→	→	→	→	A	実施人数	→	→	→	→	→	・CM会議にて1人1事例の要因分析を実施	A	CM会議で1事例を上げていくことについては、月ごとに予め担当を決めることにより概ね実施できており、要因分析にもつながっている。
					実施	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田		佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林一圭 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田	佐々木 坂林 佐藤恵 山本 佐藤晴 阿田			
		「活き活きはぴねすプラン」の策定とケアの提供	①利用者の笑顔や喜びを導き出すため、「活き活きハピネスプラン」を策定し、ケアマネジャー自身が外出支援（コーヒー茶ろんてくて、朝市など）を実施。 （ケアマネ一人1ケース）		計画	随時実施	→	→	→	→	→	B							・1人1ケースを確実に実施	B	年度を通して、新型コロナウイルスの感染拡大・蔓延により、積極的な外出支援が実施できなかった。
					実施	社会情勢により見合わせ	山本（清水様と畑）	山本（清水様と畑）	山本（清水様と畑）	社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ		社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ	社会情勢により見合わせ			
2	(2)	病院別連携方法マニュアルを作成し入退院支援・医療連携を強化	①病院別の連携ポイントについてのマニュアルを作成 ②医療連携研修の参加	佐藤 佐々木	計画	書式検討 マニュアル作成	→	→	医療連携研修参加	→	→	B	医療連携研修参加	→	→	→	→	→	①マニュアルを作成し活用 ②一人1回以上研修に参加	①B ②D	①病院別のマニュアルは作成できた。 ②医療連携の研修については、コロナ渦で受講ができなかった。
					実施	作成中	作成中	作成済	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
3	(3)	専門的知識と技術の向上	①法人内研修（基礎介護力向上・マナー接遇研修等）に参加して、知識・技術を取得。	佐藤 坂林	計画					ネクストリーダー研修	セルフマネジメント研修 トランスファー	B	食事ケア	排泄ケア		チームマネジメント研修	1)セルフマネジメント研修 2)排泄ケア(2)	医療ケア	・計画通り全員参加	B	法人内研修は計画通りに参加でき、基本的な知識・技術を確認し習得できた。
					実施					山本	トランスファー全員参加		全員参加	佐々木 坂林　山本 山本裕		未実施	1）山本正 2）佐藤	延期			
			②ア地域ケア会議・イ法人内での地域ケアマネジメント会議にて積極的にケアマネジャーが事例提供を実施。		計画	翌月事例提供者の確認	ア イ	ア イ	ア イ	ア イ	ア イ	C	ア イ	ア イ	ア イ	ア イ	ア イ	ア イ	・月一人1件以上の事例提供の実施	C	会議が中止となることもあり、一人1件以上の事例提供はできなかった。
					実施	ア実施済 イ会議なし	ア佐藤 イ会議なし	ア佐々木 イ佐々木	ア会議なし イ会議なし	ア会議なし イ（提供なし）	ア会議なし イ佐々木 佐藤		ア佐々木 イ坂林 佐藤（晴）	ア山本正 イ山本正	ア佐々木 イ佐々木	イ会議なし	ア佐々木 イ佐々木 坂林	ア佐々木 イ会議なし			
			③外部研修を受講し最新の知識・技術を習得。		計画	外部研修受講	→	→	→	→	主任CM実践者報告会	C	→	→	→	→	→	全国老健ケア研究部インライン開催	・外部研修を1人2研修受け、知識技術の習得ができる	C	研修を受けた人と受けていない人の偏りが出てしまった。コロナ渦で研修が減っているが、今後オンライン研修を活用していく。
					実施						佐々木 坂林							佐々木 坂林 山本裕			
			④介護支援専門員法令研修の受講と年2回自己点検用紙にて自己点検を実施。		計画				自己点検実施	更新研修		B	主任ケアマネ研修	主任ケアマネ研修	主任ケアマネ研修	自己点検 主任ケアマネ研修			・法定研修の参加と、自己点検シートで自己評価し、専門職としての振り返りができる	B	法定研修は受講済み。主任ケアマネの研修は自己都合で受講できなかった。
					実施				8月実施	佐藤			未受講	未受講	未受講	未受講					
			⑤ケアマネジャーの接遇及びケアマネジメントの満足度を把握する為、満足度調査を実施。		計画						起案書	C	準備 配布	回収	集計 提出		提出	結果 改善策	・満足度調査を実施し、集計・情報を踏まえ、次年度の計画に活かす	B	計画通りに実施できている。
					実施						準備中		起案書	配布 回収	配布 回収	集計 提出					
			⑥職員面談の実施		計画				面談			D				面談			・面談を実施	C	年2回の面談はできなかったが、必要に応じて実施。
					実施				未実施						面談実施	未実施					
			⑦サービス向上発表の実施		計画			発表者 佐々木	内容の検討	実践	実践	D	実践	進捗状況	発表に向けて 資料作成			発表	・サービス向上で発表	B	サービス向上発表会が延期となっているが、発表に向けての準備はできている。（発表者：山本正広）
					実施			未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施			未実施			
4	(4)	地域への貢献	①ヘルスリテラシー講座等地域住民に対する貢献活動を実施 ②認知症サポーターキャラバンメイト活動の実施 ③その他依頼ある講座について実施	山本 坂林	計画			①認知症		①認知症			①認知症		②慶徳高校 担当坂林	①認知症	介護に関する入門的研修 担当佐藤	①認知症	・講座を4回以上計画通りに実施	B	②及び③については計画通り実施できた。
					実施			未実施		未実施			未実施		実施済	なし	実施済	なし			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　介護センターさつき苑

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
5	(5)	マネジメント管理及び事業所運営管理を円滑に実施	①担当人数の把握・新規相談の初期対応の指導強化	佐々木	計画	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	B	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	・各ケアマネ年間12名以上インテークのマネジメントを実施	B	年間12名のインテークは山本正広ケアマネが実施できた。
					実施	坂林2 佐藤2 山本2	坂林0 佐藤1 山本1	坂林2 佐藤0 山本1	坂林0 佐藤2 山本1	坂林2 佐藤0 山本1	坂林1 佐藤1 山本正1 山本裕3		山本正2 山本裕1	佐藤2	坂林2 山本裕1 山本正1	佐藤4 坂林4 山本正1 山本裕4	佐藤1 山本正4	坂林2 山本正2 山本裕1			
			②サービス付き高齢者住宅　たかほケアマネジント管理		計画	4／1 たかほ管理	5月1日	6月1日	7月1日	8月3日	9月1日		10月1日	11月2日	12月1日	1月4日	2月1日	3月1日	・たかほケアマネジメントについて管理できる	C	介護支援専門員証の更新 システムチェックなど管理不足 次年度はチェックできるように運営体制を整え管理予定
					実施	4／2 実施済	5／8 実施済	6/1 実施済	7/1 実施済	8/3 実施済	9／9 実施済		10/14 実施済	11/18 実施済	12／9 実施済	1／11 実施済	2／10 実施済	3／10 実施済			
			③請求業務・帳票整理・事業報告作成・予算管理・事業計画策定会議・活動計画実施状況管理		計画	請求佐藤 事業報告分担 活動計画	請求坂林 活動計画	請求佐藤 活動計画	請求坂林 活動計画	請求佐藤 活動計画	請求山本 活動計画		請求坂林 活動計画	請求佐藤 活動計画	請求山本 会議調整 活動計画	請求坂林 事業報告作成 次年度予算 活動計画	請求佐藤 事業報告作成 次年度予算 活動計画	請求山本 事業報告作成 次年度予算 活動計画	・事業所の業務を計画的に実施できる	A	請求・提供表などマニュアルを作成できたい
					実施	請求 佐藤実施済	請求 坂林実施済	請求 佐藤実施済	請求 坂林・山本 実施済	請求 佐藤・山本実施済	請求 山本正実施済		請求 山本ゆ・坂林 実施済	請求 山本ゆ・佐藤 実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
6	(6)	適正利益の確保とリフレッシュ休暇の推進	①目標利用者人数（初期140名→期中145名→期末150名：年間平均利用者数145名）		計画	初期 141名	141	143	144	145	145	A	147	147	147	148	149	期末 150名	平均目標145名を達成	A	平均165名を達成できた。
					実施	148名	152名	163名	159名	167名	174名		174名	172名	171名	177名	184名	181名			
			②目標収益：22,705（千円）（前年度当初予算21,737千円）		計画	1892	3784	5676	7568	9460	11,353	A	13,245	15,137	17,029	18,921	20,813	22,705	・目標収益を達成	B	目標を達成することができた。
					実施	介護1,589 支援196 計1,785	介護1,652 支援198 計1,793	介護1,722 支援224 計1,946	介護 1,688 支援221 計1,909	介護 1753 支援227 計1,9[illegible]	介護1990 支援232 計2,222		介護194 0 支援223 計2163	介護1860 支援221 計2081	介護183 0 支援222 計2052	介護1827 支援253 計2083	介護1776 支援292 計2068	介護177 7 支援279 計2056			
			③目標に対する実績確認及び分析		計画	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	B	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	・目標を達成するために新規利用者動向を分析	B	今年度は最高の登録人数となった、次年度は要介護の登録人数増
					実施	実施済	達成	達成	達成	達成	達成		達成	達成	達成	達成	達成	達成			
			④集中減算資料を年2回（3月～8月・9月～2月）作成する		計画						集中減算 作成	B						集中減算 作成	・2回集中減算資料を作成し提出	B	予定通り実施済み
					実施						実施							実施			
			⑤全職員がリフレッシュ休暇を取得できるように業務管理を行う		計画				佐藤（恭）	佐々木		B	坂林	佐藤（晴）			山本(正)		・全員が取得	C	佐藤(晴)ケアマネ・山本(正)ケアマネが取得できなかった。次年度計画的に取得を促進する。
					実施				佐藤（恭）	佐々木			坂林	延期			未取得				
			⑥新規利用者確保の営業活動を実施（8月　1月の2回）		計画					病院 老健		D				病院 老健			・営業先からの紹介件数5件	D	コロナにより思うように営業活動ができなかった。次年度は全体の状況を把握しながら、
					実施					コロナにて 自粛						コロナにて 自粛					
			⑦新規者人数（1ヶ月6名を目標　年間72名以上）		計画	目標6件	目標6件 計12件	目標6件 計18	目標6件 計24	目標6件 計30	目標6件 計36	B	目標6件 計42	目標6件 計48	目標6件 計54	目標6件 計60	目標6件 計66	目標6件 計72	・年間目標72件件を達成	A	トータル89名であり、目標を達成することができた。
					実施	9名	6名 計15名	8名 計23名	7名 計30名	8名 計38名	13名 計51名		4名 計55名	4名 計59名	5名 計64名	14名 計78名	6名 84名	5名 計89名			
			⑧停止者人数（1ヶ月4名以下を目標　年間48名以下）		計画	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	B	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	・年間目標48件以下を達成 合計41名	A	トータル41名であり、目標を達成することができた。
					実施	2名	5名 未達成	2名	3名	2名	3名		3名	4名	5名	5名	2名	5名			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　介護センターさつき苑

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
7	(7)	特定事業所加算Ⅱの算定要件を確実に実施し適正利益を確保	①利用者に関する情報またはサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議を週1回以上開催（ケアマネ会議　毎週火曜日　13:30～）	佐々木	計画	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	B	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	・会議を毎週実施する	A	計画通り実施、業務効率化の観点から書式の見直し、会議方法等の改善が図れた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			
			②24時間常時連絡できる体制を確保し、かつ、必要に応じて利用者等の相談に対応する体制を確保（連絡体制作成・各自会社携帯所持し待期体制）		計画	連絡体制作成	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	D	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	・連絡体制の作成・更新	C	携帯電話、緊急連絡先一覧を作成できた。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施					ラインワークス					
			③介護支援専門員一人当たりの利用者数、介護予防支援は2分の1とし39名以下とする		計画	1人当たり39名以下	→	→	→	→	→		1人当たり39名以下	→	→	→	→	→	・39名以下であることを確認	A	39名以下であることを確認できた。
					実施	佐々木27 坂林36 佐藤恵36 山本31 佐藤晴9 阿田予防57	佐々木27 坂林36 佐藤恵36 山本31 佐藤晴9 阿田予防58	佐々木27 坂林36 佐藤恵36 山本31 佐藤晴9 阿田予防59	佐々木27 坂林36 佐藤恵36 山本31 佐藤晴9 阿田予防60	佐々木27 坂林36 佐藤恵35 山本30 佐藤晴9 阿田予防60	佐々木27 坂林36 佐藤恵35 山本30 佐藤晴9 阿田予防60	B	佐々木27 坂林36 佐藤恵35 山本30 佐藤晴9 阿田予防60	佐々木27 坂林36 佐藤恵35 山本30 佐藤晴9 阿田予防60	佐々木27 坂林28 佐藤恵31 山本正28 山本裕28 佐藤晴9 阿田予防63	佐々木25 坂林28 佐藤恵31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 阿田予防42	佐々木25 坂林28 佐藤恵31 山本正31 山本裕29 佐藤晴9 阿田予防42	佐々木25 坂林28 佐藤恵31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 阿田予防42			
			④計画的な研修を実施		計画	研修目標設定			進捗状況把握		進捗状況把握	C				進捗状況把握		達成状況記録	・目標を持って仕事を実施できる	C	コロナにより計画的な研修が実施できなかった。
					実施	目標設定済み			未実施		未実施					実施資					
			⑤地域包括センターとの連携 ・地域包括センターから支援困難な利用者の紹介があった場合に引き受けられる体制の整備（体制フローチャートの作成・受け入れマニュアルの作成） ・地域包括センター等が開催する事例検討会に参加（地域ケア会議の参加）		計画	体制フローチャート更新	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	C	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	・体制整備にて実施状況を管理できる	C	計画通り地域ケア会議には参加したがマニュアル整備にまで着手できなかった。
					実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施		会議実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施			
			⑥介護支援専門員現場実習の受け入れ		計画							D					実習受け入れ		・実習受け入れを実施できる ※主任介護支援専門員更新研修の要件	D	今年度は依頼がなかった。
					実施												なし			
			⑦他の法人が運営する指定居宅介護支援事業所者と協同の事例検討会、研修会等を実施（近郊居宅介護支援事業所と3回／年　実施）		計画	誠徳園訪問		事例検討会参加			事例検討会9/8(火)	C	事例検討会参加				事例検討会参加		・他法人の居宅介護支援事業所と事例検討会を3回実施できる	C	1回実施できたが、コロナにより1回中止となった。
					実施	コロナ終息後		未実施			10／7に延期		10/7参加 欠席佐藤				コロナ対策で中止			
			⑧居宅介護支援における特定事業所加算に係る基準の遵守状況に関する記録を毎月作成		計画	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	D	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	・事業所加算Ⅱの要件を毎月確認できる	D	法律上で必要ない書式ではあるがチェックしやすいかと計画に入れた。 着手できなかった。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
8	(8)	事業所の災害対策の体制を構築	①緊急時・利用者台帳・地図の更新	山本 坂林	計画			(台帳更新)			台帳・地図更新	A			(台帳更新)			台帳・地図更新	・2回／年情報を更新できる	A	計画通り実施できた。
					実施			実施			実施				実施			実施			

令和２年度　多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1.　総括

令和２年度は『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益の確保』の４つの重点目標をかかげ取り組んだ。

1）「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供」

毎月カンファレンスを実施しケアの見直しと統一を図ると共に、困難ケースにおいても状態悪化の予防に努めた。事故件数については、前年度より９件増。事故後の分析や再発防止に努めたが減少には至らず。

食事については、嚥下や咀嚼が困難な方へソフト食の提供、病状や状態に合わせて栄養補助食品との併用、副食の一部をソフト食で提供するなど、食事摂取量の維持に努めた。また、状態悪化により食事量が急激に減少した方がソフト食を提示したことで摂取量が安定し、結果、状態悪化を抑え徐々に常食に戻すことができ改めて口から食べることの重要性を確信できた。

疾病の管理では、入居者の重度化にともない早めに医療機関へ相談したことで、昨年度延べ９名だった入院者が今年度３名に減少。入院日数も７４日から６７日と減らすことができた。

感染症対応では、特に新型コロナウイルス感染予防の強化に努めた。卓上シールド・自動手指消毒器の設置、非接触型体温計の使用、手すりドアノブ等の消毒や感染状況に合わせて面会中止、面会制限（玄関での面会・窓越し面会）を実施した。全職員が防護服着脱の実技訓練を行ったが想像以上に難しく繰り返しの訓練の必要性を感じた。また、個々の私生活においても感染予防対策の徹底と強化に努めた。結果、感染症・集団感染共にゼロを維持することができた。

2）「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため、介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）の取り組みを掲げていたが、全職員の実践には至らなかった。

3）「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

継続し面談制度を実施したが、体調の悪化で１名の離職があった。有給休暇取得については、日数にばらつきはあったも全職員が５日以上の有給取得と常勤職員全員が連続休暇（７日間）を取得することで、リフレッシュを図ることができた。また、Hug（移乗サポートロボット）の導入は、小柄の職員や懐妊中の職員も無理なく移乗ができ介護負担の軽減に大きく繋がった。

4）「業務の効率化と適正利益の確保」

ケアアシスタントの導入に伴いオペレーションシートや従来のマニュアルの見直したことで、業務分担を具体的かつ明確にすることにより業務の効率化を図った。

適正利益の確保については、入院に伴う空床延べ日数が６７日と目標の５０日に抑えることはできなかった。退居から新規入居までの空床延べ日数については３０日。目標の 7 日以内の入居には至らなかったが、少しでも迅速な入居に繋げることができるよう小規模多機能ホームと連携を図った。年間平均稼働率は、９８.５％と目標稼働率の９８％を達成することができた。

2.　次年度に向けての展望

令和３年度は、引き続き「知識・技術の専門性の向上を図り、安全で根拠に基づく介護サービスを提供する」「主体性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める」「職員のチームワークが向上し、やりがいと働きがいのある職場をつくる」「業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する」の４つを重点目標にかかげ、確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

ケアについては、特変を早期に発見できるようダブルチェック、カンファレンスを更に強化し入居者の重度化にしっかり対応できる力をつける。また、楽しみや喜びのあるアクティビティーを計画・実施し QOL の向上に努める。

シルエット見守りセンサを導入することで、夜勤時の介護負担と不安の解消を図りたい。導入に向けてはユニット異動、人員配置の見直しが必要なため小規模多機能ホームと連携し計画的に実施する。また、ICT・IOT 化の推進をすることで職員の業務負担軽減と更なる業務の効率化を図る。

新型コロナウイルスワクチン予防接種を推進し、基本的な感染予防を徹底することで対面での面会や外出、行事の再開など以前の暮らしに少しでも近づくことで入居者の更なる QOL の向上を図る。

新たな加算を取得し、LIFE との情報連携を推進することでケアの質向上を目指す。
入院延べ日数６０日、目標稼働率９８％を達成し適正利益の確保を図る。

3. 運営状況・統計資料

（１）稼働状況

目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)
98.0%	98.5%	100.5%	98.3%

（２）グループホーム会議開催状況

日　　時	議　　題　　内　　容
４月２１日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・R2 年度事業計画・事業報告について・給食関係・その他
５月１９日	新型コロナウイルス流行に伴い書面で対応 （ケアカンファレンス・事故報告・その他）
６月１６日	新型コロナウイルス流行に伴い書面で対応 （ケアカンファレンス・事故報告・その他）
７月２１日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
８月１７日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
９月１５日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
１０月２０日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
１１月１７日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 キックオフミーティング
１２月１５日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
１月１９日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報・給食関係・その他
２月１６日	荒天に伴い書面で対応（ケアカンファレンス・事故報告・その他）
３月１７日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他

（３）環境整備他

日　　時	内　　容	ユニット	業　　者
５月上旬	卓上シールド（コロナウイルス感染予防）	全体	職員手作り
６月中旬	給湯器取替工事	洋	大洋設備（株）
６月中旬	台所流し台混合栓取替	洋	（株）斉藤工業所
７月下旬	マジックブレット	和・洋	（株）ヤマダ電機

７月下旬	居室洗面台排水管修理	和	（株）齋藤工業所
８月中旬	ホシザキ冷凍庫保守点検	全体	ﾎｼｻﾞｷ北海道(株)
８月中旬	浴室床タイル目地詰め修繕	全体	（株）盛永組
８月下旬	卓上シールド（コロナウイルス感染予防）	交流スペース	（株）テラニシ
８月下旬	非接触式温度計（コロナウイルス感染予防）	全体	楽天市場
８月下旬	自動手指消毒器（コロナウイルス感染予防）	全体	楽天市場
８月下旬	定量止水付サーモスタットバス水栓修理	洋・イス浴	（株）齋藤工業所
９月上旬	床フロアー補修等工事	全体	（株）盛永組
９月下旬	床洗浄ワックス塗布	全体	旭川ヒューマンサービスセンター
９月下旬	冷蔵庫購入	和	（株）ヤマダ電機
１０月下旬	加湿器購入	和	（株）ヤマダ電機
１月下旬	感染症廃棄物容器スタンド	全体	(株)アンビエンテ丸大
２月上旬	灯油配管閉塞修理	全体	大洋設備（株）
２月上旬	照明器具購入	和	（株）ヤマダ電機
２月中旬	非常用電池取替	全体	五光トータル防災（株）
２月中旬	自動洗浄装置取替	洋	（株）齋藤工業所
３月上旬	食洗機修理（ハンドル交換）	洋	パナソニック LS テクノサービス
３月中旬	電動ベッド手元スイッチ購入	和	合同会社セカンドライフ
３月下旬	居室洗面台排水管修理	和	（株）齋藤工業所

（４）ボランティア状況

新型コロナウイルス感染予防のため外部ボランティア受入を原則中止。

感染状況を把握した上で秋の一斉清掃（草取り）のみボランティア依頼。

（５）行事活動状況

日　　時	行　　事　　名	場　　所
５月９日	お花見ドライブ	パレッドヒルズ
８月１日	夕涼み会	なごみの家
１１月２４日	クリスマス会	なごみの家
１２月２４日	クリスマス会	なごみの家
１２月２６日	忘年会	なごみの家
２月３日	節分	なごみの家

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　多機能型グループホーム鷹栖なごみの家　　準]S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分　D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	(1)	安全で根拠に基づくサービスの提供	ケアチェック、根拠に基づきカンファレンスを実施し、中重度化に対応したケアを提供する	主任リーダー	計画	Wチェック モニタリング カンファレンス	→	→	→	→	→		Wチェック モニタリング カンファレンス	→	→	→	→	→	ケア困難ケースにおいて随時ケースカンファレンスをし本人の状態を維持する。	B	会議以外でも、都度困難事例のカンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めてた。
					実施	済	→	→	→	→	→	B									
			アセスメントシートの定期更新(ケアプラン更新時)	主任リーダー	計画	ケアプラン更新時アセスメントシート更新	→	→	→	→	→		ケアプラン更新時アセスメントシート更新	→	→	→	→	→	アセスメントシートの定期更新を実施する。	B	ケアプラン更新時にアセスメントシートの更新を実施。
					実施	済	→	→	→	→	→	B									
			安全で予防的なケアに努め、事故及び事故の再発を防ぐ	主任リーダー	計画	毎月の会議での事故報告・分析	救命救急研修						毎月の会議での事故報告・分析	→	→	→	→	→	転倒、転落事故　11件→5件 打撲　1件→0件 (事故件数R1年15件→R2年10件)	C	事故件数35件(昨年26件) 転倒転落事故21件(昨年15件) 打撲0件(昨年1件) 無断外出4件(昨年0件) 薬に関する事故3件(昨年8件) その他7件(昨年2件) ＜表皮剥離1件・内出血4件・爪切り2件＞
					実施	事故件数4件(洋2;和2)	事故件数3件(和3)	事故件数4件(洋3;和1)	事故件数5件(洋1;和4)	事故件数1件(洋)	事故件数4件(洋1;和3)	C	事故件数3件(洋1;和2)	事故件数2件(洋2)	事故件数2件(和2)	事故件数3件(洋1;和2)	事故件数3件(洋2;和1)	事故件数1件(洋)			
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	リーダー	計画				虐待予防研修	ターミナルケア研修					虐待予防研修				年2回研修を実施しする。 身体拘束・虐待0件。	B	7月・12月に研修を実施。 身体拘束・虐待0件
					実施				済	済		B			済						
2	(1)	安全で美味しい食事の提供	より見た目もきれいで美味しいソフト食の提供	リーダー栄養士	計画	ソフト食の提供	→	ソフト食勉強会	→	→	ソフト食の評価		ソフト食の見直し	ソフト食の提供	→	→	→	ソフト食の評価	嚥下困難な方が安全に食事(口腔摂取)ができる。	B	統一した固さのソフト食を出せるよう努めている。限られた時間の中で見た目もきれいに作れるよう配慮している。入居者の状況に合わせて副食の一部をソフト食で提示し食事量の維持に努めてた。
					実施	済	→	未実施	→	→	→	B	済	→	→	→	→	→			
			現病の悪化、既往症の再発予防するための治療食の充実化	リーダー栄養士	計画	治療食提供	→	→	→	→	治療食評価		治療食提供	→	→	→	→	治療食評価	現病の悪化、既往症の再発予防する。	B	必要な方に治療食を提示し、現病の悪化、既往症の再発予防に努めてた。現病の悪化、既往症の再発0名。
					実施	済	→	→	→	→	→	B	済	→	→	→	→	→			
3	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	ケアチェックを強化し病気の早期発見及び重症化や再発を防ぐ	主任リーダー看護士	計画	体調不良者・入院者の分析	→	→	→	健康診断	診断結果の分析(昨年との比較)		体調不良者・入院者の分析	→	→	→	→	→	病気の発症を防ぎ重症化や再発をさせない。 (入院延べ日数日R1年74日→R2年50日)	C	誤嚥性肺炎による入院1名(IVH治療を選択され退去) 骨折による入院1名
					実施	入院日数30日	入院日数10日	入院日数0日	入院日数0日	入院日数21日	入院日数0日	C	入院日数0日	入院日数0日	入院日数6日	入院日数0日	入院日数0日	入院日数0日			
			誤嚥性肺炎による入院者0名	主任リーダー看護士	計画	食事ケアチェック 口腔ケアの徹底	→	→	→	→	→		食事ケアチェック 口腔ケアの徹底	→	→	→	→	→	誤嚥性肺炎による入院者0名 (R1年1名→R2年0名)	C	食事ケアチェック、口腔ケアに気をつけ、誤嚥性肺炎の予防に努めるも、誤嚥性肺炎による入院1名。
					実施	済	→	→	→	→	→	C	済								
4	(1)	食中毒・感染症の予防	食中毒、感染症(ノロウィルス、インフルエンザ、コロナウイルス)の予防策を徹底と免疫力の向上を図り感染を防ぐ	主任リーダー	計画	ヨーグルト提供	→	食中毒研修	→	→	感染症予防研修会		ヨーグルト提供	→	→	→	→	→	食中毒、感染症の集団感染0件	B	食中毒、感染症の集団感染0件
					実施			済			済	B									
5	(2)	基礎介護力の向上	法人全体で段階ごとの基礎介護研修と外部研修の計画・実施で、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る	主任リーダー	計画				新任職員研修	基礎介護研修	基礎介護(トランスファー)		基礎介護研修 認知症実践者研修	基礎介護研修 認知症実践 リーダー研修		基礎介護研修	基礎介護研修 高齢者ケア研究会参加		経験・スキルに合わせた研修の実施により職員のケアのレベルアップができる。 外部研修に参加しケアの向上を図る。(職場に1つ以上還元する。	B	コロナ感染予防のため外部研修は中止。 基礎介護力向上研修については感染状況に応じて実施となった。テキストの見直しもあり職員のケアのレベルアップに繋がった。
					実施				中止	済	済	B	基礎介護力向上研修(資認知症実践者研修 中止	基礎介護力向上研修(資認知症実践 リーダー研修 中止		中止	基礎介護力向上研修(11月分)	高齢者ケア研究会参加			
6	(3)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実	利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアの展開とリハビリの実施によりQOL及びADLの向上を目指す	リーダー各担当	計画			面談による取り組み目標設定	・アセスメント(情報収集・課題分析)実施 ・ケアプラン立案	ケアプランに基づくケアの実施	モニタリングとケアプラン見直し		ケアプラン評価	ケアプランに基づくケアの実施	→	モニタリングとケアプラン見直し	ケアプラン評価	総括、成果の確認(面談)	全職員が、担当利用者のADLとQOLそれぞれの向上を目指したプランを立て、取り組み、成果をふりかえる。	C	全職員が計画するには至っておらず。
					実施							C									
7	(4)	開かれた事業所づくり	利用者、職員が地域社会の一員として豊かに暮らせるよう積極的に地域行事に参加する	課長主任	計画		チャレンジデー参加			慰霊祭 町民祭り	長生き感謝祭								地域の催しに積極的に参加し、天気の良い日は散歩を日常のプログラムに取り組む。地域の方になごみの家を認知していただく。	B	コロナ感染予防のため、地域の催しへの参加は中止。 日常の散歩は実施。
					実施		中止			中止	中止	C									
			交流スペースを地域の方に開放する	課長主任	計画	寺子屋俳句の会	→	→	広報にてPRする	→	→		寺子屋俳句の会	→	→	→	→	→	地域の方に開放することによりなごみの家の認知度を高める。	D	コロナ感染予防のため、地域との交流は中止。
					実施	中止	→	→	→	→	→	D									

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　多機能型グループホーム鷹栖なごみの家　　準]S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分　D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
8	(3)	働きやすい職場づくり	不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、職員面談を実施する 退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	主任 リーダー	計画	退職者0		面談の実施					退職者0	面談の実施					面接を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。	C	面談を行う事で不安や悩みの軽減・解消に努ていたが体調の悪化で退職者が出てしまった。
					実施				面談実施			B			面談実施	退職者1名					
			リフレッシュ7連休の実施と有給休暇の計画的消化	課長 主任	計画	連続有給休暇調整		連続有給休暇取得					連続有給休暇取得						1人7日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を3日つける) 有給休暇は、年間5日以上とする。	B	リフレッシュ休暇(7日)、5日以上の有給消化(対象者)は計画通り取得できた。
					実施			1名	2名		2名	B	2名	3名	1名	1名	2名	1名			
			介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボットの導入とICT、IOT化の検証	課長 主任	計画		介護ロボット導入						介護ロボット導入						介護ロボットの導入とICT、IOT化をすすめ、介護負担の軽減と業務の効率化を図る。	A	介護ロボット(Hug)については予想以上に介護負担の軽減と業務の効率化が図れた。
					実施		未					C			介護ロボットHug導入						
9	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任 リーダー	計画	毎日の引継で目標を共有する							毎日の引継で目標を共有する						思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。	B	持ち回りで1週間の目標を立て、目標を現場と照らし合わせチームワークの強化が図れた。
					実施	済						B	済								
			職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	主任 リーダー	計画	取り組み内容決定	取組み						取組み			取り組みのまとめ	サービス向上発表会参加		一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。	B	コロナ禍のなか出来る範囲でチームで決めた目標に取り組み、取り組んだ日々のケアをサービス向上発表会で発表する事が出来た。
					実施	内容決定	取り組み開始											サービス向上発表会参加			
10	(5)	業務の効率化	業務の見直しを行い業務分担を明確にする	主任 リーダー	計画			業務整理	業務見直し										業務を見直し、業務分担を明確にすることにより、業務の効率を図る。	B	オペレーションシートの見直し、業務分担表等、会議内で検討し都度変更を行っている。
					実施	済						B									
			従来のマニュアルの見直しと整理	主任 リーダー	計画					従来マニュアルの確認	マニュアルの整備								従来のマニュアルの見直しと整理	B	ケアアシスタント導入に伴い、清掃マニュアルの見直しを実施。
					実施	済						B									
			ケアアシスタントの導入	主任 リーダー	計画	ケアアシスタント導入							ケアアシスタント導入						ケアアシスタントを導入し業務の効率化を図る。	S	ケアアシスタントを導入したことで業務の効率化が図れた。
					実施	済						B									
11	(5)	適正利益の確保	ケアの質向上により入院者数の減少、入退居時の迅速な手続きを行い、目標稼働率98%を達成する	主任 リーダー	計画	稼働率98%							稼働率98%						長期入院者を出さない。(入院延べ日数50日) 入退居時の迅速な手続き(7日以内)	C	今年度稼働率　　平均98.5% 今年度入院延べ日数　67日(昨年74日)
					実施	94.4%	98.2%	100.0%	100.0%	95.2%	100.0%		100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%			
			光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める	主任 リーダー	計画		節約運動強化月間		節約運動強化月間		節約運動強化月間			節約運動強化月間			節約運動強化月間		光熱使用量を前年度より3%削減する。	B	電気代:　約2%の削減 灯油代:　単価低下により、約13%の削減 ガス代:　約1.1%の削減 上下水道料:　約1.8%の増
					実施		済		済		済	B		済			済				

令和２年度

多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

現況報告書

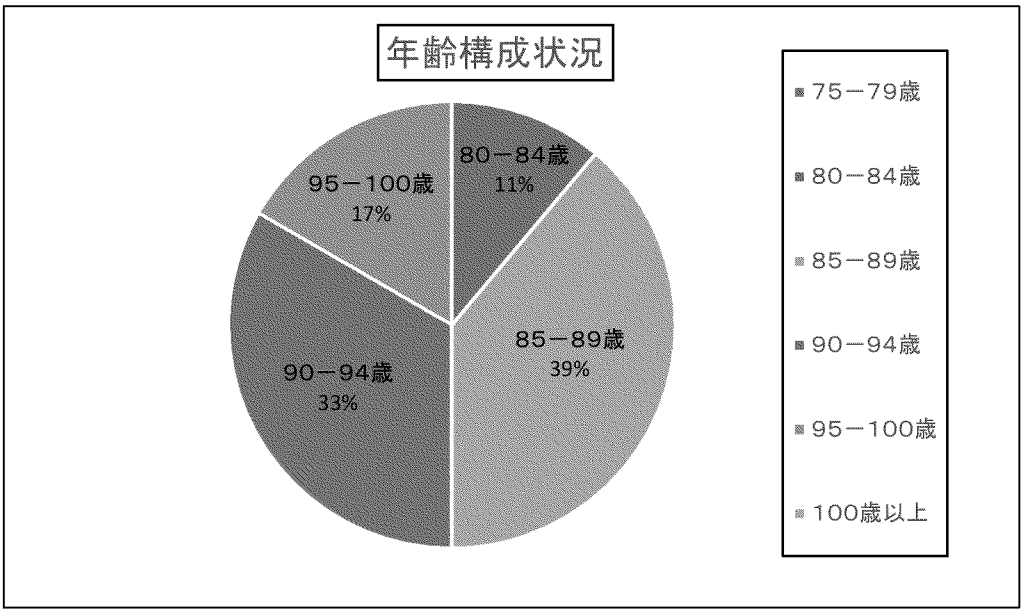
（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月３１日）

1　入退所状況

入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男　　性	女　　性
4	4	長期入院のため1名 病院にて死去3名	18	2	16

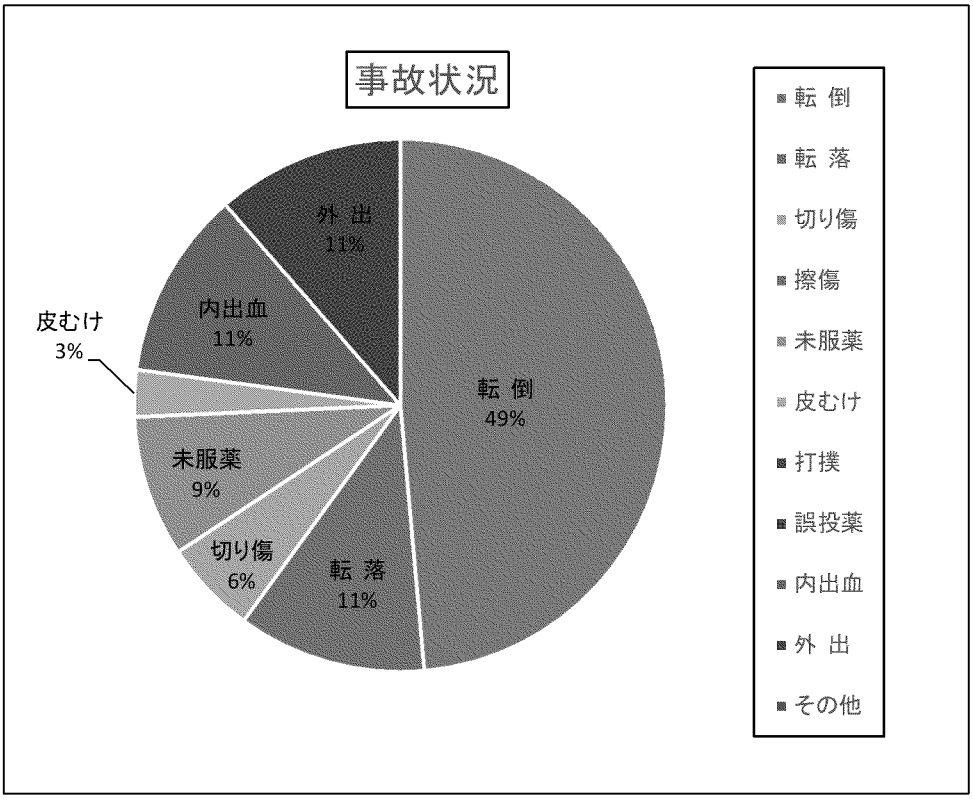
2　年齢別

	男　　性	女　　性	合計
75－79歳	0	0	0
80－84歳	1	1	2
85－89歳	1	6	7
90－94歳	0	6	6
95－100歳	0	3	3
100歳以上	0	0	0
合　　計	2	16	18
平均年齢	84	90.1	89.5
最高年齢	85	99	
最低年齢	83	83	



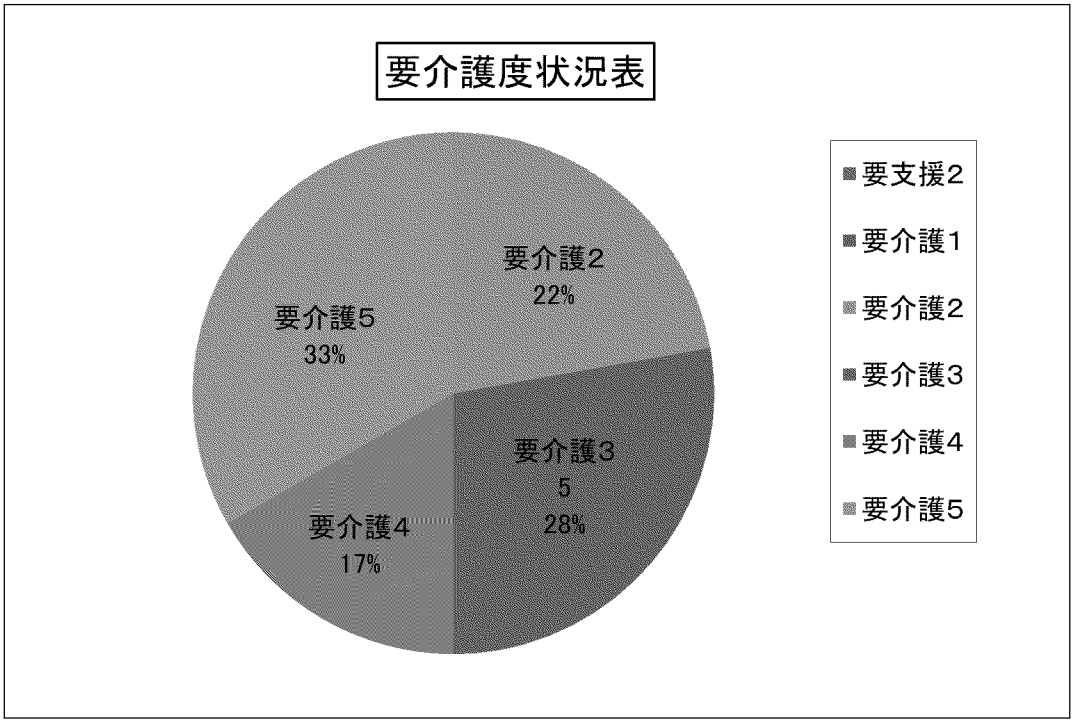
3 事故状況

	洋	和	合計
転 倒	5	12	17
転 落	1	3	4
切り傷	0	2	2
擦傷	0	0	0
未服薬	1	2	3
皮むけ	1	0	1
打撲	0	0	0
誤投薬	0	0	0
内出血	3	1	4
外 出	4	0	4
その他	0	0	0
合 計	15	20	35



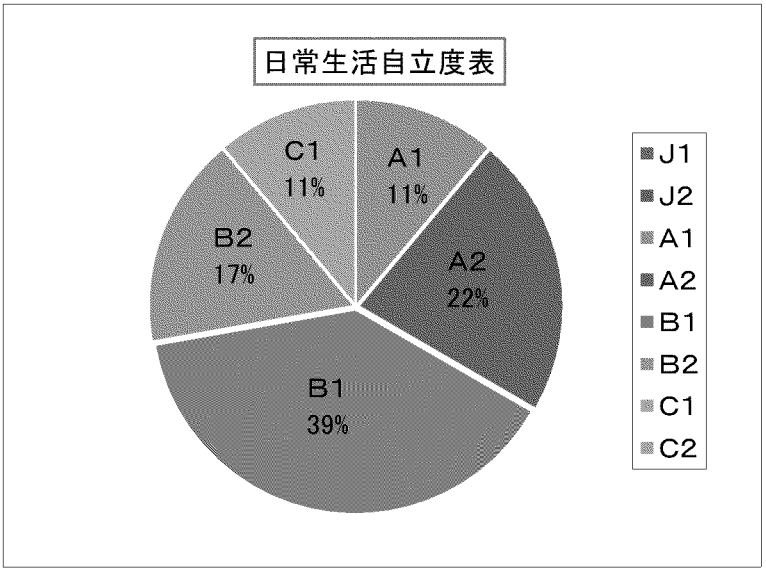
4 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	0	0	0%
要介護2	0	4	4	22%
要介護3	1	4	5	28%
要介護4	0	3	3	17%
要介護5	1	5	6	33%
合　計	2	16	18	100%



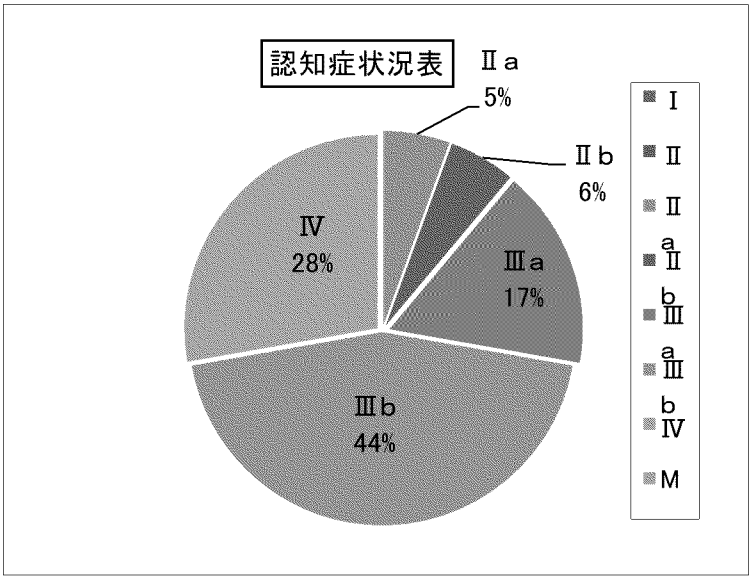
5 日常生活自立度

	洋	和	合計	構成比
J1	0	0	0	0%
J2	0	0	0	0%
A1	1	1	2	11%
A2	2	2	4	22%
B1	4	3	7	39%
B2	2	1	3	17%
C1	0	2	2	11%
C2	0	0	0	0%



6 認知症状況

	洋	和	合計	構成比
Ⅰ	0	0	0	0%
Ⅱ	0	0	0	0%
Ⅱa	0	1	1	6%
Ⅱb	0	1	1	6%
Ⅲa	1	2	3	17%
Ⅲb	7	1	8	44%
Ⅳ	1	4	5	28%
M	0	0	0	0%

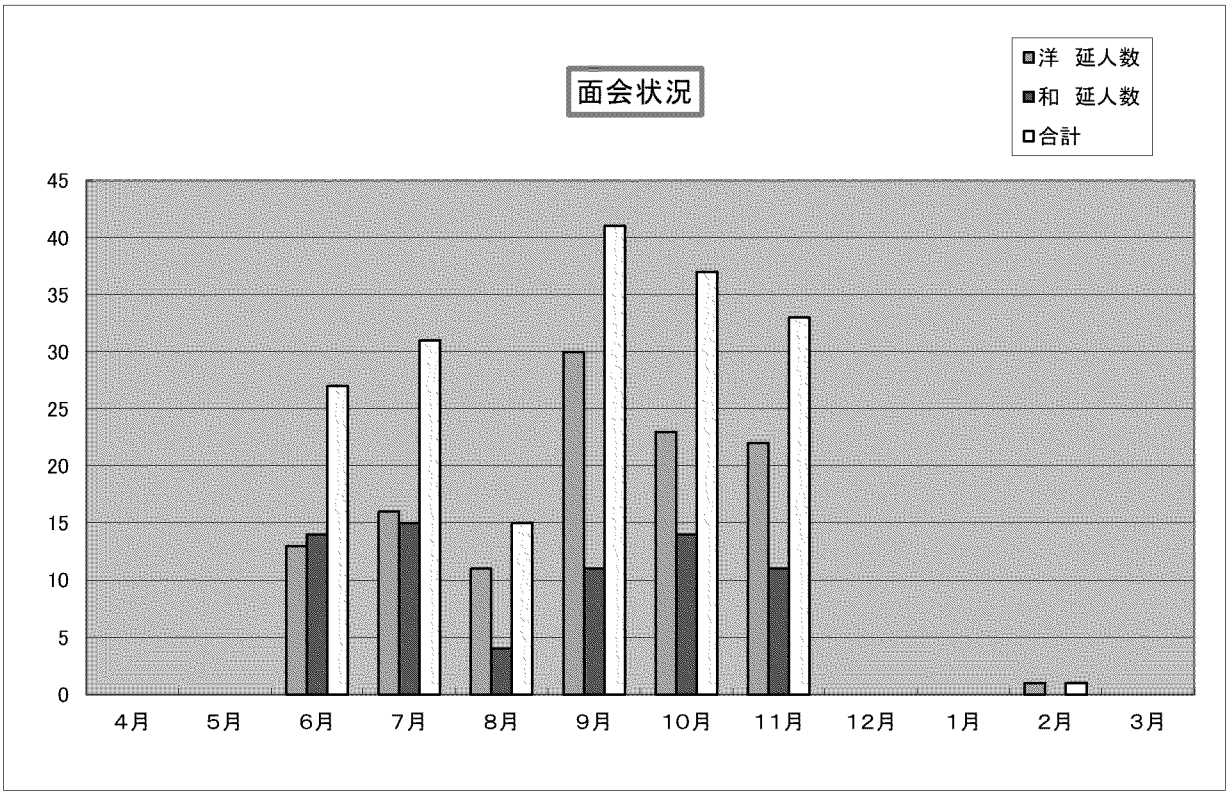


7 入院状況

	実人数	延日数
整形外科系	1	40
精神科系	0	0
内科系	1	21
消化器系	0	0
脳神経系	1	6
合計	3	67

8 面会状況

	洋　延人数	和　延人数	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	13	14	27
7月	16	15	31
8月	11	4	15
9月	30	11	41
10月	23	14	37
11月	22	11	33
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	1	0	1
3月	0	0	0
合計	116	69	185



令和２年度　小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1.　総括

令和２年度は『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の効率化と適正利益の確保』の４つの重点目標をかかげ取り組んだ。

（１）「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供」

毎月カンファレンスを実施し、ケアの見直しと統一したケアに努めた。困難ケースにおいては、随時ケースカンファレンスを行い、本人の状態の維持に繋げるよう努めた。

事故件数は１８件で、中でも薬に関する事故が１０件と多く、服薬ルールの徹底が不十分で、再発防止に繋ぐことができなかった。

食事については、嚥下・咀嚼状態の低下が見られる方に安全に召し上がっていただけるよう、適切な食事形態の提供や、食前の口腔内マッサージを行い、食事量の維持、誤嚥予防に努めた。さらに自宅でもマッサージが行えるよう介護者への指導を行う事ができた。また、嗜好を取り入れた季節感のある食事やおやつを提供することで利用者に楽しんでいただいた。

食中毒･感染症の集団感染に関しては、手洗いうがいの徹底、室温・湿度管理や換気・消毒の強化を行ったことと、新型コロナウイルス感染対策については、フロアー内のテーブル全てに卓上シールドを製作し設置。自動手指消毒器・非接触型体温計の購入、送迎時には利用者・家族の健康観察記録の確認を徹底し、車輌乗り込み前には手指消毒と、車輌使用後には毎回消毒の実施をした。防護服着脱の実技訓練も行い、さらに職員個々の私生活での感染予防対策の徹底と強化に努めた。疾病の管理では、医療機関との連携を図っていたが３名の方については長期治療が必要となり利用停止となった。

（２）「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）に連動させながら利用者一人一人の「ハピネスプラン」を計画していたが全利用者の実施はできなかった。実施できた方に対しても評価まで至らなかった。

学習療法に関しては、学習参加人数の増加を目標にしていたが、参加人数を増やすまでには至らなかった。新型コロナウイルス感染予防の関係でサポーターの協力を中止し今年度は職員のみでの学習支援となった。

アクティビティーについては、コロナ禍で外出等制限のある中でも、「心に残る楽しいひととき」を目標に、新たな内容を取り入れ利用者の満足度を高めることができた。

（3）「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期面談を実施することで不安や悩みの軽減を図ることができた。計画的連続休暇については、常勤職員全員が７日間取得することができリフレッシュを図ることができた。有給休暇についてはパート職員も含め５日以上取得することができた。また、グループホームの職員が小規模多機能ホームの勤務を兼務することでなごみの家全体で協力するチーム体制の継続ができた。

（4）「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

ケアアシスタントの導入を行い、業務の分担、業務の効率化を図ることができた。

今年度新規登録者は居宅からの以降を含め５名。登録終了者は１０名（内長期入院により３名。施設入居４名）月平均登録者数２２．７名。目標の２３名を達成することはできなかった。登録定員には余裕があったが、継続泊まりや通いの利用頻度が高い方が多くなったことと訪問件数の増加があったことで、泊まり・訪問のニーズのある新規登録者の受け入れができなかった事が要因としてあげられる。

2. 次年度に向けての展望

令和３年度は前年度実施することができなかった活動内容を確実に実施できるよう、より具体的な計画を立て取り組む。

働きやすい職場づくりのため、新たなケアアシスタントの受け入れや介護ロボットの導入、ＩＣＴ，ＩＯＴ化の推進をし、職員の業務負担を減らし業務の効率化を図る。さらにリフレッシュ休暇（８連休）の取得を継続する。

『仕事の目的と最適な手段を考えて、自ら進んで行動する』を職場目標にかかげ「介護過程の展開」を職員一人ひとりが自ら進んで取り組み、職員・利用者共に、楽しみ・やりがい・達成感を感じられる暮らしづくりを実践する。

また、利用者の在宅生活の継続が困難にならないよう、生活状況の確認、多職種協働での健康状態の把握・悪化の予測をし、医療連携を密に行うことで入院による登録終了者を減らし、適正利益の確保を図る。

３．運営状況・統計資料

（１）　小規模多機能ホーム会議開催状況

月　日	議　題　内　容	出席者
４月２１日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者の状況と対応・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・ケアアシスタント、SH 電話回線、新型コロナウィルス関係、個別入浴介助について・行事について・学習療法月次検討会について	１１名
５月１９日	新型コロナウィルスの流行に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（チャレンジデー、手作りおやつなど）について・利用者様担当、畑について・学習療法月次検討会について）	１２名
６月１６日	新型コロナウィルスの流行に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（避難訓練など）について・利用者様、行事の担当について・オペレーションについて・キックオフミーティング・学習療法月次検討会について）	１２名
７月２１日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・利用者担当、今年度の行事について・学習療法月次検討会について	１０名
８月１８日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事について・食事形態について・学習療法月次検討会について	１０名
９月１５日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事について・利用者担当について・言葉遣いについて・学習療法月次検討会について	１０名
１０月２０日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・・利用者様担当について・学習療法月次検討会	９名
１１月１７日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（クリスマス・忘年会）について・利用者様担当、大掃除について・学習療法月次検討会	８名
１２月１５日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（クリスマス、忘年会、柚子湯など）について・利用者様担当、牛乳、タイムカードについて・学習療法月次検討会・キックオフミーティング	８名
１月１９日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告と今後の対応・行事（節分）について・タイムカードについて・学習療法月次検討会	８名

２月１６日	荒天に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・令和３年度小規模目標・行事・月レク担当・誕生日プレゼントについて・学習療法月次検討会	１２名
３月１６日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・令和３年度 SH 目標、誕生日について・令和３年度月のレク、行事担当について・小規模サービス評価について・事業計画について・学習療法月次検討会	７名

（２）　小規模多機能ホーム事故状況

月　日	内　容	結　果
６月　５日	未投薬（７９才・女性）	異常なし
６月１６日	未投薬（７６才・女性）	異常なし
８月　３日	重複薬（９０才・男性）	異常なし
１０月１８日	未投薬（９１才・女性）	異常なし
１１月２３日	未投薬（７７才・女性）	異常なし
１１月２３日	転倒（９１才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
１１月２６日	単独外出（９１才・女性）	自宅へ向かって歩いているのを発見。外傷痛みなし・その後も異常なし
１２月　２日	転倒（８５才・女性）	背中に赤みがあるも、痛みなし・その後も異常なし
１２月　６日	未投薬（７９才・女性）	異常なし
１２月２０日	単独外出（９１才・女性）	なごみ近くを歩いているのを発見。外傷痛みなし・その後も異常なし
１２月２２日	未投薬（７７才・女性）	異常なし
１月　７日	転倒（８２才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
１月１６日	未投薬（７７才・女性）	異常なし
２月２３日	未投薬（７９才・女性）	異常なし
３月　３日	尻もち（８２才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
３月１１日	未投薬（９０才・女性）	異常なし
３月１４日	転落（８２才・女性）	右額に発赤、腫れあり冷やす・その後は異常なし
３月３１日	転落（８２才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし

（３）　小規模多機能ホーム行事活動報告

日　　時	行　　事　　名	場　　所
５月５日	菖蒲湯	なごみの家
５月１４日	ドライブ	鷹栖町内
１０月２０日	ドライブ	嵐山
１２月２１日	柚子湯	なごみの家
１２月２６日	忘年会（会食無し）	なごみの家
２月　２日	節分	なごみの家

（４）手作りおやつ

今年度はコロナの流行に伴い、中止とする。

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家　　準)S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分　D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	(1)	安全で根拠に基づくサービスの提供	アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	主任 リーダー	計画	データ更新開始							データ更新						アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	C	新規利用者様のみ導入の為。
					実施	新規利用者						C	新規利用者								
			ダブルチェック、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する	主任 リーダー	計画	Wチェック モニタリング カンファレンス							Wチェック モニタリング カンファレンス						ケア困難ケースにおいて随時ケースカンファレンスをし本人の状態を維持	B	会議以外でも、都度困難事例のカンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めている。
					実施	済						B	済								
			安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画	毎月の会議での事故報告・分析	救命救急研修						毎月の会議での事故報告・分析						事故件数前年度比－9件(R1年度24件→R2年度15件) 薬に関する事故0件。	C	事故件数18件(昨年24件) 骨折事故0件 薬に関する事故10件 転倒転落事故6件 その他2件(単独外出2件)
					実施	0	0	事故2件	0	事故1件	0	C	事故1件	事故3件	事故4件	事故2件	事故1件	事故4件			
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	主任 リーダー	計画				虐待予防研修						虐待予防研修				年2回研修を実施しする。 身体拘束・虐待0件。	B	上期研修を実施。虐待該当なし。
					実施				実施			B			済						
2	(1)	安全で美味しく楽しみのある食事の提供	個別に合わせた適切な食事形態を提供する	主任 栄養士	計画	食事ケアチェック							食事ケアチェック						食事形態の多様化により、全員口腔摂取ができ、食事量が安定する。	B	個別に合わせた提供方法を検討し、実施した。
					実施	済						B	済								
			利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画し実施する	主任 栄養士	計画	出前 昭和の日	開設記念日 こどもの日 憲法記念日	外食ツアー	潤…素麺		敬老の日 秋分の日 外食ツアー		体育の日	出前 文化の日 勤労感謝の日	クリスマス 忘年会 天皇誕生日	おせち料理 成人の日	節分 建国記念日 室内パーティー	ひな祭り 春分の日	満足度調査を実施し、食事に関して90％が良いの評価。	B	行事食、一部未実施はあったが、季節に合わせた物を提供し、食事に関しての満足度調査結果も90％以上良いの評価。
					実施	行事食 実施	行事食 実施	中止	中止		外食は中止	B	行事食 実施	行事食 実施	行事食 実施	行事食 実施	行事食 実施	行事食 実施			
3	(1)	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症(ノロウイルス・インフルエンザ・コロナウイルス)の予防策を徹底し感染を防ぐ(集団感染0件)	主任 看護師 課長	計画				食中毒研修		感染症予防研修会								食中毒、感染症の集団感染0件	B	食中毒・感染症に関しての研修を実施したり、うがい・手洗いの励行し、集団感染の予防に努めている。
					実施			食中毒研修実施				B	感染症予防研修								
			感染症発症者(ノロウイルス・インフルエンザ・コロナウイルス)の在宅では対応困難な方の受け入れと支援の実施(マニュアル作成)	主任 看護師 課長	計画	発症者の受け入れ訪問対応							発症者の受け入れ訪問対応						感染症発症者への泊まりサービスの実施。在宅での対応支援の為の訪問サービスの実施。	C	該当者はいないが、マニュアル作成には至らず。
					実施	済						C	済								
4	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	ケアチェックを強化し、病気の発症及び重症化を防ぐ。医療と介護連携により入院での利用休止を減らす	看護師 主任	計画	的確なケアチェック	受診時の同行支援必要者随時同行						的確なケアチェック・受診時の同行支援必要者随時同行						健康管理・病状の把握(利用者全員、血液検査データを提出してもらう) 入院による利用休止を減らす。 (R1年度2名→R2年度1名)	C	入院者1名。血液データの提出が揃っていない。
					実施	済						B	済								
			誤嚥性肺炎による入院者0名	看護師 主任	計画	食事ケアチェック 口腔ケアの徹底							食事ケアチェック 口腔ケアの徹底						誤嚥性肺炎による入院者0名	C	誤嚥性肺炎による入院者1名。
					実施	済					1名入院	C	済								
			水分摂取量の把握を行い、適切な水分管理を本人、家族と共に取り組む(脱水者0名)	看護師 主任	計画	水分摂取量の数値化、在宅での水分摂取支援							水分摂取量の数値化、在宅での水分摂取支援						脱水症による入院者0名	B	水分量の把握に取り組み、脱水による入院者0名。
					実施	済						B	済								
			在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康管理を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う)	看護師 主任	計画		再アセスメント 在宅版総合記録シート導入者ピックアップ	在宅版総合記録シート導入	モニタリング		評価 カンファレンス サービス提供の見直し		在宅版総合記録シート		モニタリング		モニタリング	評価 カンファレンス サービス提供の見直し	あったかす健康ノートを使用し、在宅での生活習慣、状況の把握。病状悪化を防ぎ、在宅生活の継続ができる。 (あったかす健康ノート取り組み4名→7名)	C	活用により、在宅生活を継続できている(取り組み者3名)。
					実施		済	済	未実施	済	未実施	C	済	済	未実施	済	未実施	未実施			
			総合記録シート・あったかす健康ノートの活用をし、主治医・かかりつけ医との医療連携の強化を図る。	看護師 主任	計画	総合記録シート見直し・改善 受診時同行・連携シート持参							受診時同行・連携シート持参						・総合記録シートの改良(医療連携欄の 追加) ・受診時の同行、もしくは連携シートの持参で医療連携を図る	C	受診時、活用できているが、改良には至らず。
					実施	済						C	済								

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

準]S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分　D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
5	(1)	基礎介護力の向上	法人全体で段階別基礎介護研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る	主任 リーダー	計画					基礎介護研修			基礎介護研修	基礎介護研修		基礎介護研修	基礎介護研修		経験・スキルに合わせた研修の実施により職員のケアのレベルアップができる。	B	段階的に基礎介護研修を実施し、職員のケアのレベルアップに努めている。
					実施						基礎介護(トランスファー)	B	済	済		中止	済				
			外部研修の計画・実施	主任 リーダー	計画				新任職員研修				認知症実践者研修				高齢者ケア研究会参加		外部研修に参加し、ケアの向上を図る(職場に1つ以上還元する)	D	コロナの流行により、予定していた研修は中止の為。
					実施				中止			D	中止				不参加				
6	(2)	アクティビティの充実	楽しみ・喜び・やりがいのあるアクティビティーを計画・実施する(思い出に残る物、持ち帰りできる物、成果のある物、発表・展示できる物)	リーダー 月担当	計画	月のレク 作品づくり	花見ドライブ 春のチャレンジデー	買い物・外食ツアー	流し素麺 ドライブ	慰霊祭 町民祭り 盆踊り	ドライブ・外食 →		運動会 買い物ツアー 月のレク 作品づくり	出前 青年会との食事会	餅つき 忘年会		節分 室内パーティー	桃の節句 →	計画どおり実施でき、持ち帰りのできる作品作りや成果の見えるアクティビティーを取り入れる。	C	外出行事は中止となる。大きな作品は作っていたが、持ち帰りの作品はできなかった。
					実施		ドライブのみ実施	中止	中止	中止	中止	C	中止	出前実施	忘年会実施		節分実施	実施			
			学習療法をより多くの方に参加していただくために、定期的に利用者・ご家族へPRを行う。定期的に楽習診断を行い、評価を行う。	学習療法マスター	計画	学習療法案内配布				学習療法案内配布					学習療法案内配布				学習療法参加人数の確保 (R1年度3名→R2年度5名)	C	学習療法参加人数の増加には至らず(現在2名)。
					実施	未実施				未実施		D			未実施						
			利用者一人ひとりの「ハピネスプラン」を計画・実施する	主任 リーダー 各担当	計画	個別のハピネスプラン計画	ハピネスプラン実施(1～2名)				→		ハピネスプラン実施(1～2名)					→	個別の楽しみや喜びを探り、かなえる。	C	新規の方の計画が未実施。
					実施		6名実施					C									
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	施設内の装飾品や植物を適切に管理し潤いある生活空間を作る	環境係 リーダー	計画	月担当しつらえ (植物管理含む)					→		月担当しつらえ (植物担当管理)					→	四季の感じられるしつらえを楽しんでいただく。植物を置いて担当が管理する。	C	各月の担当が設えを検討し、実施。植物の管理が一部不十分。
					実施	済					→	C	済								
			利用者が安心して穏やかに過ごせる環境作りを行う	環境係 リーダー	計画	フロアーのしつらえ					→		フロアーのしつらえ					→	認知症の症状の重い方が安心して落ち着いて過ごせる環境ができる。	C	フロアーの設えは定期的に変えている。落ち着かなくなる方がいるので、穏やかに過ごせる様に、続けていく。
					実施	済					→	C	済								
8	(4)	開かれた事業所づくり	利用者・職員が地域社会の一員として豊かに暮らせるよう積極的に地域行事・活動に参加する	主任 リーダー 課長	計画		チャレンジデー参加	鷹栖保育園運動会見学		慰霊祭 町民祭り			チャレンジデー参加						地域の催しに積極的に参加し、天気の良い日は散歩を日常のプログラムに取り組む。地域の方になごみの家を認知していただく。	D	コロナの流行に伴い、地域との交流は中止している(利用者様の希望で、散歩する事がある程度)。
					実施		中止	中止		中止	保育園児散歩にて来訪	D	中止								
			小規模多機能ケアをより多くの方に理解して頂く為に地域の方々に向け情報発信すると共に交流スペースを地域の方に開放する	主任 リーダー 課長	計画	寺子屋 俳句の会			広報にてPRする	見学会計画 (民生委員・地域住民)	→		寺子屋 俳句の会	見学会実施 (民生委員・地域住民)				→	小規模見学会を開催し、地域住民・民生委員の方に、小規模多機能ケアについての説明行い、理解していただく	D	コロナの流行に伴い、地域との交流は中止。
					実施	中止			中止	中止		D	中止	中止							
			地域住民の学習療法サポーターの育成を行い、役割と生きがいをつくる	学習療法マスター	計画						サポーター研修・交流会						サポーター研修・交流会		交流会の実施で不安の解消や充実感の共有の場を設け、やりがいや楽しみに繋げる。(アンケートで80%以上「楽しい」と評価)	D	コロナの関係で、交流会やサポーターさんの来所共に中止。
					実施						中止	D					中止				
9	(3)	働きやすい職場づくり	勤務体制の一部見直し	主任 リーダー	計画			訪問サービスの調整	勤務体制の見直し										訪問のニーズに柔軟に対応できる体制をつくる	B	グループホームからの協力を得て、必要に応じた訪問を行っている。
					実施							B									
			不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期に職員面談を実施する	課長 主任 リーダー	計画			面談の実施					面談の実施					→	面接を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。	B	面談を行う事で、不安や悩みの軽減・解消に努めた。
					実施				面談実施			B				面談実施					
			リフレッシュ7連休の実施と有給休暇の計画的消化	課長 主任	計画			連続有給休暇調整	連続有給休暇取得		→		連続有給休暇取得					→	1人7日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を3日つける) 有給休暇は、年間5日以上とする。	A	予定通り取得できた。
					実施				1名	1名	1名	B	1名	1名			1名	1名			
			退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	課長 主任 リーダー	計画	退職者0		面談			→		退職者0	面談				→	結婚・出産以外での退職者をださない。	C	退職者1名(定年による退職)。
					実施	0			面談実施			B				面談実施		退職1名 (定年)			
			介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT、IOT化の検証	課長 主任	計画								介護ロボット導入					→	介護ロボットの導入とICT、IOT化をすすめ、介護負担の軽減と業務の効率化を図る。	C	介護ロボットの説明を受ける。次年度、導入予定。
					実施								研修								

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家　　準）S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分　D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
10	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任 リーダー	計画	個目の引継で目標を共有する	→	→	→	→	→		個目の引継で目標を共有する	→	→	→	→	→	思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。	B	持ち回りで1週間の目標を立て、目標を現場と照らし合わせチームワークの強化が図れた。
					実施	済	→	→	→	→	→	B	済	→	→	→	→	→			
			職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む（サービス向上発表会等での発表）	主任 リーダー	計画		取り組み内容決定	取組み	→	→	→		取組み	→		取り組みのまとめ	サービス向上発表会参加	→	一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。	D	取り組み内容は未決定であった
					実施							D									
			ユニット間の職員の交流を図る	課長 主任	計画	シフト間交流	→	→	→	→	→		シフト間交流	→	→	→	→	→	ユニット固定の勤務を見直し、職員が互いに協力できる体制をつくる。	B	グループホームとの協力はできていた。
					実施	実施	実施	実施	未実施	未実施	未実施	B	実施	実施	実施	実施	未実施	未実施			
11	(5)	業務の効率化	業務の見直しを行い、業務分担を明確にし見える化する	課長 主任 リーダー	計画			業務整理	業務見直し	→	→		→	→	→	→	→	→	業務分担を明確にし見える化することで、業務の効率化を図る。	B	オペレーションシートの見直し、業務分担表など会議内で検討し、都度変更を行っている。
					実施				整理・見直し実施			B									
			従来のマニュアルの見直しと整理	主任 リーダー	計画			従来マニュアルの確認	マニュアルの整備										従来のマニュアルの見直しと整理	D	未実施。
					実施							D									
			ケアアシスタントの導入	主任 リーダー	計画	ケアアシスタント導入	→	→	→	→	→		ケアアシスタント導入	→	→	→	→	→	ケアアシスタントを導入し業務の効率化を図る。	A	業務の効率化を図る事ができた。
					実施	済	→	→	→	→	→	A	済	→	→	→	→	→			
12	(7)	適正利益の確保	新規登録者の確保の為の計画を立てPR活動を行う（目標登録人数23名）	主任 リーダー	計画	新規利用者の確保	→	→	→	→	→		新規利用者の確保	→	→	→	→	→	新規登録者の確保と登録人数の維持 （R1年度13名→R2年度10名） （登録目標人数23名）	B	新規登録者5名（前年度13名）、登録人数は、目標には届かなかったが、月平均22.7名であった。
					実施	0	0	0	1名	1名	0	C	0	1名	2名	0	0	0			
			目標介護保険事業収入65,403,134円（前期65,195,000円）	主任 リーダー	計画														目標介護保険事業の到達	B	介護保険事業収入65,187,122円。目標介護保険事業収入には到達しなかった。
					実施																
			ダブルチェックの徹底と総合記録シートを活用し予防的なケアに努め、長期入院、施設入居を減らす	主任 リーダー	計画	体調不良者・入院者の分析	→	→	→	→	→		体調不良者・入院者の分析	→	→	→	→	→	長期入院での停止者・施設入居での登録終了者を減らす。 （R1年度長期入院停止者2名→R2年度1名）（R1年度施設入居停止者4名→R2年度3名）	C	登録終了者10名。入院者3名、入居者7名（前年度入院者2名、入居者4名）。
					実施		長期入院1名	施設入居1名			GH入居1名	C		施設入居2名	GH入居1名		GH入居1名、長期入院2名	GH入居1名			
			光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める（前年度より－3%）	主任 リーダー	計画		節約運動強化月間		節約運動強化月間		節約運動強化月間			節約運動強化月間			節約運動強化月間		光熱費を前年度より3%削減する。	B	電気代：　約2%の削減 灯油代：　単価低下により、約13%の削減 ガス代：　約1.1%の削減 上下水道料：　約1.8%の増
					実施							B									

令和２年度

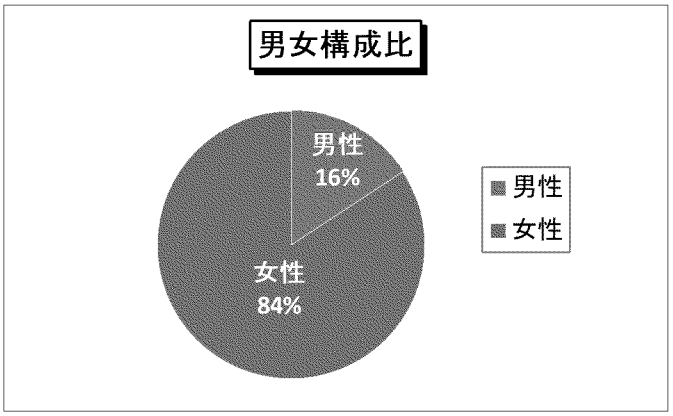
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

現況報告書

（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月３１日）

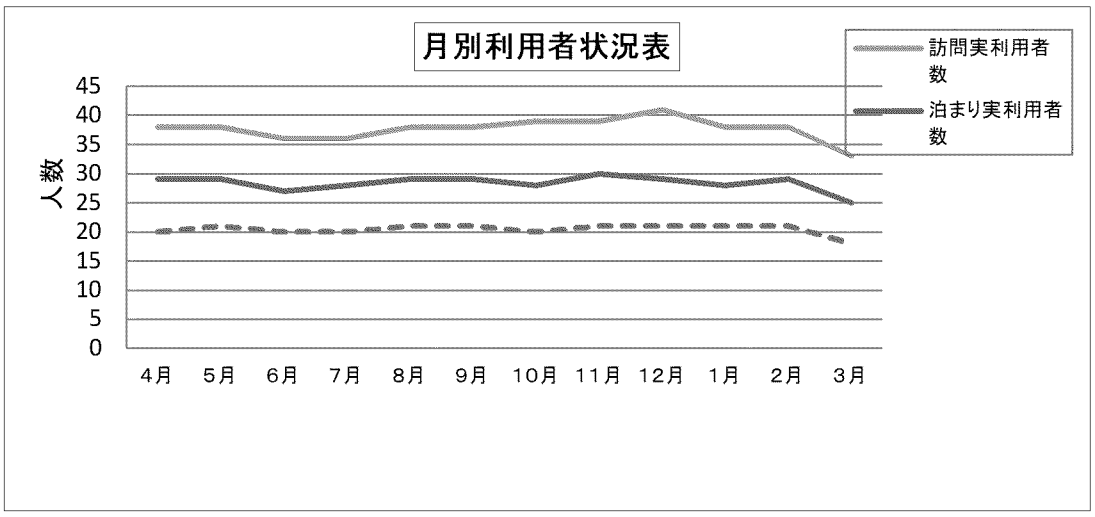
1．利用登録者（令和3年3月31日現在）

男性	女性	合計
3	16	19



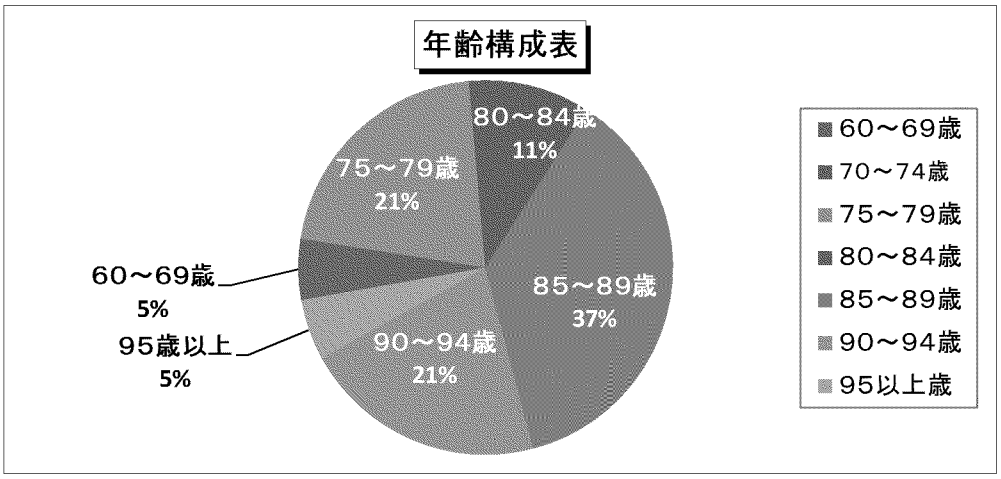
2．月別利用者状況

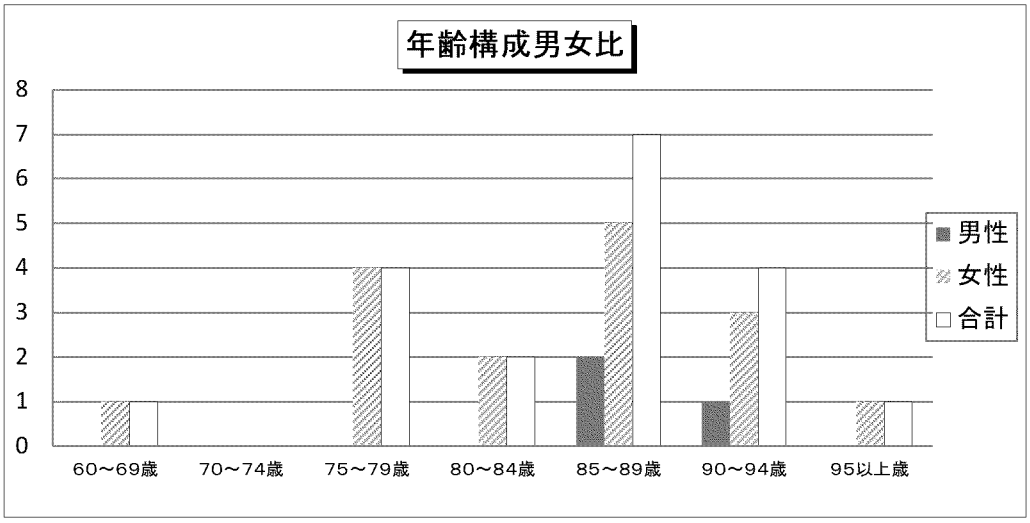
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	月初登録者数
4月	20	9	9	0	0	23
5月	21	8	9	1	1	23
6月	20	7	9	0	1	22
7月	20	8	8	0	0	22
8月	21	8	9	0	1	23
9月	21	8	9	1	0	22
10月	20	8	11	1	0	23
11月	21	9	9	1	2	24
12月	21	8	12	1	1	24
1月	21	7	10	1	0	23
2月	21	8	9	2	3	23
3月	18	7	8	0	1	20
平均	20.4	7.9	9.3	0.7	0.8	22.7



3. 年齢

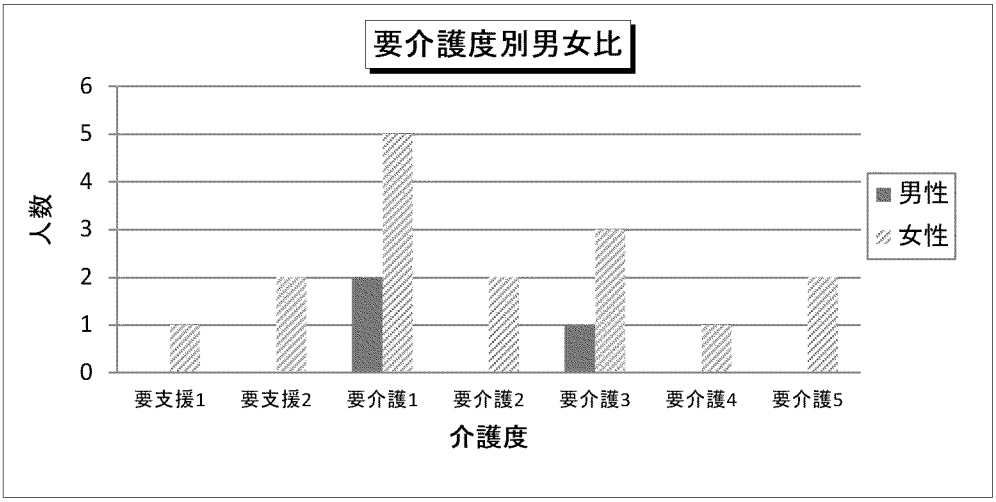
年齢	男性	女性	合計
60～69歳	0	1	1
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	4	4
80～84歳	0	2	2
85～89歳	2	5	7
90～94歳	1	3	4
95以上歳	0	1	1
合計	3	16	19
平均年齢	85.5	84.7	84.8
最高年齢	91	95	95
最低年齢	86	64	64

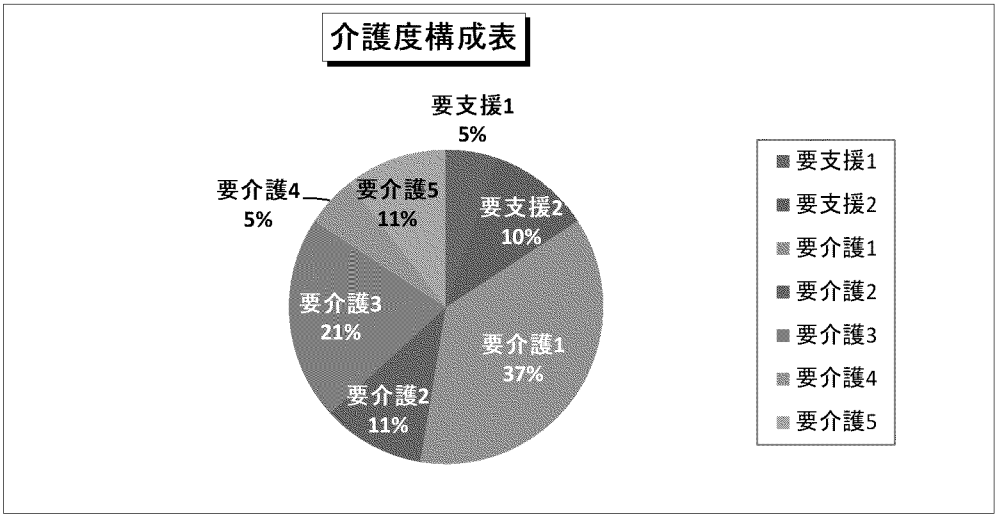




4. 要介護度別

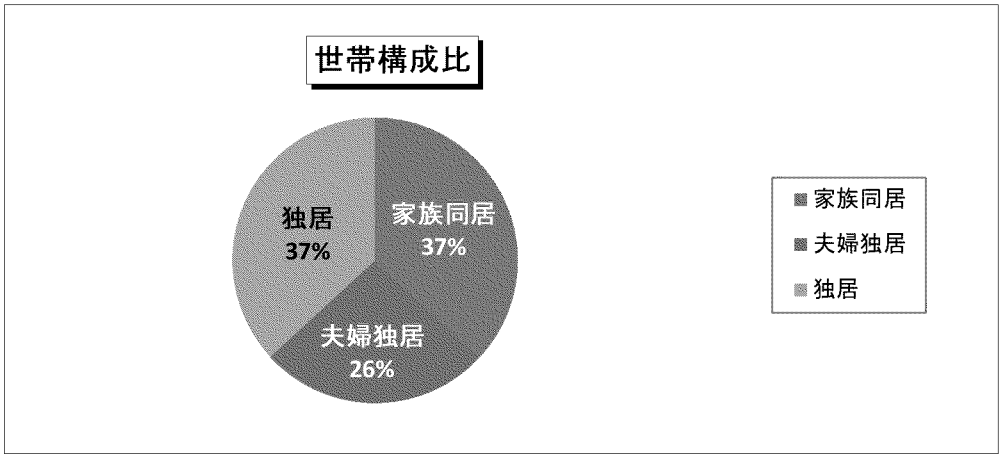
介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	5%
要支援2	0	2	2	10%
要介護1	2	5	7	37%
要介護2	0	2	2	11%
要介護3	1	3	4	21%
要介護4	0	1	1	5%
要介護5	0	2	2	11%
合計	3	16	19	100%





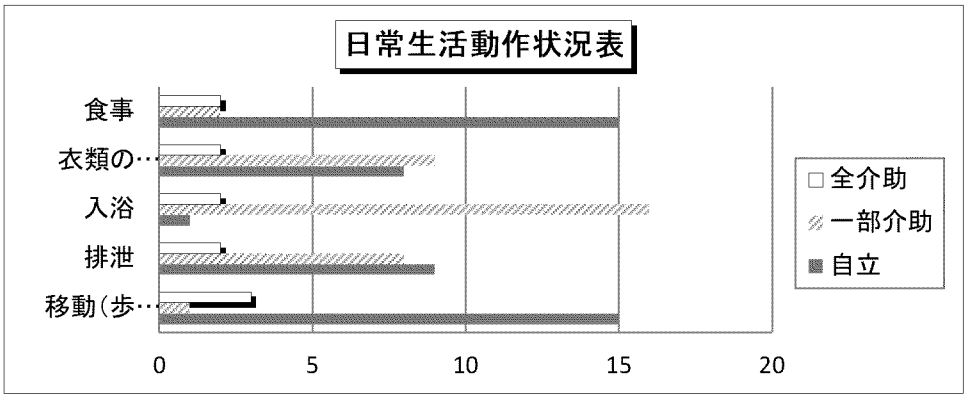
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
7	5	7	19



6. ADL(日常生活動作)状況

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	15	1	3	19
排泄	9	8	2	19
入浴	1	16	2	19
衣類の着脱	8	9	2	19
食事	15	2	2	19

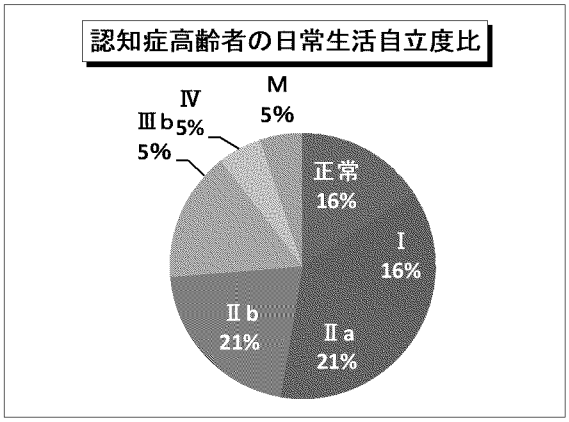


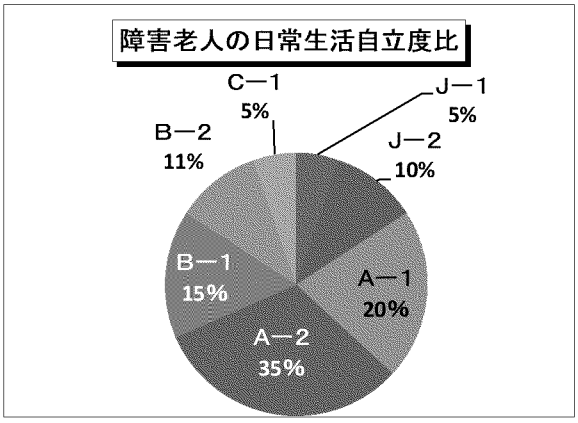
7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
Ⅰ	3
Ⅱ	0
Ⅱa	4
Ⅱb	4
Ⅲ	0
Ⅲa	2
Ⅲb	1
Ⅳ	1
M	1
合計	19

8. 障害老人の日常生活自立度

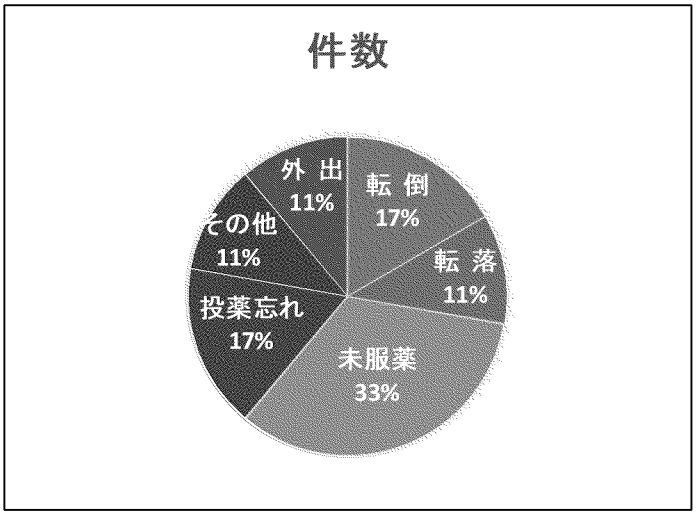
自立度	人数
J—1	1
J—2	2
A—1	4
A—2	6
B—1	3
B—2	2
C—1	1
C—2	0
合計	19





9. 事故状況

内容	件数
転　倒	3
転　落	2
切り傷	0
表皮剥離	0
未服薬	6
誤飲	0
投薬忘れ	3
誤投薬	0
打撲	0
外　出	2
その他	2
合　計	18



令和２年度 地域密着型特別養護老人ホーム ぬくもりの家えん 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和 2 年度は新型コロナウィルスの全国的な流行により、感染予防を徹底しながらの事業推進となった。感染予防対策としては、研修会の実施、毎日の消毒作業、食卓のパーテーションの設置、万が一のクラスターを想定したオペレーションの作成、個人防護服の脱着訓練、ゾーニングなどを実施した。年度当初予定した行事については、感染リスクが高いイベントについて縮減し実施。それに合わせ、毎年多くの来場客がある友の会の皆さんによる朝市も中止となり、その他のボランティア活動も自粛することとなった。ご家族との面会制限も長期間にわたり実施させていただき、入居者には我慢の一年となった。職員では毎日 2 回の検温と体調観察を徹底。ほぼ通年にわたり大人数での飲食や流行地域への立ち入り制限など感染予防策を徹底した。各地の施設でクラスターが相次ぐ中、入居者、家族、地域の皆さまのご協力とスタッフの尽力により、ぬくもりの家えんはもとより、さつき会全ての事業所において感染者をひとりも出すことなく経過している。

ケアについては、担当スタッフによる介護過程の展開が 2 年目となり個別のニーズに合わせたケアの提供を継続している。入居者の健康管理については、感染予防の徹底と細やかな状態観察により特変者が減少。状態変化があった際にも迅速に対応し、一年で入院をされた方はのべ 4 名、年間入院日数は 28 日間と前年 225 日間から大きく減少し目標を達成することができた。また、排泄ケアでは新たな高性能オムツの導入を検討。スタッフ全員が研修を受講し認定試験を受け「オムツマイスター」の資格を取得した。入居者の夜間の安眠と排せつ後の不快感の軽減、そしてスタッフの介護負担を軽減している。

働きやすい職場づくりの取り組みとしては、リフレッシュ休暇を希望するスタッフ全員が取得。ケアスタッフの離職も昨年に続きゼロであった。

新たな取り組みとしてはコロナウィルスの感染対策により急速に普及したオンライン会議や研修などを積極的に活用。旭川大学短期大学部からの介護実習では、パソコンやビデオカメラを活用したリモート実習を実施し、剣淵高校からははじめて介護実習生を受入れた。

整備事業では、非常災害時等による停電の際に施設全体の電力供給が可能な非常用電源設備を設置したほか、令和 3 年度に導入を予定している介護記録の電子化にむけたネットワーク環境を強化・整備した。また、スタッフの介護負担の軽減を図りつつも安全に移乗動作ができる移乗支援ロボットを導入した。

最後に、適正収益の確保では、特養事業の目標 98%以上（目標介護保険収入 100,408,130 円）に対し、実績は稼働率 99.4%（介護保険収入実績 106,084,239 円）であった。年度当初予定していた新たな加算の取得は達成できなかったが、入院者数の大幅な減少と平均要介護度の重度化（前年 3.9→R2 年度 4.1）により収益が増収した。光熱水費については使用量費用ともに減少した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和3年度も「良いケア、良い職場、良い経営」を基本方針として取り組む。最重要課題は新型コロナウィルスの感染予防であり、より一層警戒心を高めて取り組む。5月・6月には新型コロナ感染予防ワクチンの接種を予定しており、感染拡大状況を注視しつつ、昨年活動自粛してきた行事やてくてく朝市、ボランティア活動について、安全・安心の対策を講じながら再開・実施したい。また、感染対策の長期化により生じるスタッフの負担感についても対策を講じていきたい。

今年度は介護保険制度改定年であり、大きな改定内容の一つに科学的介護情報システム（LIFE）との情報連携がある。LIFEは、提供された情報を分析し施設にフィードバック・活用することでケアの質の向上につなげるという仕組みであり、今後、施設での運用は必須となる。また多職種連携もより一層強化することが求められる。年度内に導入を予定している介護記録の電子化と合わせ、現在のケアチェックの仕組みを踏襲しながら従来のケアシステムに加えて、LIFE 運用の仕組みを整え標準化させる。また、システムの移行により、より質の高いケアサービスの提供を実現しつつ、スタッフの業務効率化と省力化を図る。

「平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり」では、ご利用者と職員がともに喜びや楽しみが感じられる行事やレク活動を取り入れ計画的に実施し、住環境についても整理整頓の定期的な確認と潤いある環境をつくる。

「働きやすい職場づくり」では、リフレッシュ休暇の取得に加えて連休が取得できる体制をつくる。IOT・ICTに関する情報を収集し、生産性の向上にむけ調査研究する。はじめて就労する外国人スタッフが安心して働き、地域で生活できるようチームでサポートする。

最後に、適正収益の確保では特養事業の目標稼働率は 98%以上（目標介護保険収入102,317,000円）を達成する。未然に防げる事故を減少させ、再発リスクの高い疾患のあるご入居者への予防的ケアの実践により目標入院のべ日数を50日以内とする。また、使用物品のコスト意識を持ち日用品などの支出前年比－5%を目指す。

以上を次年度に向けた展望とする。

３．運営状況・統計資料

（１）業績報告

①ベッド稼働率

目標ベッド稼働率（A）	実際ベッド稼働率（B）	達成率(B)/(A)×100
98.0%	99.3%	101.3%

②延べ入居者数（単位：人）

目標延べ入居者数（A）	実際延べ入居者数（B）	達成率(B)/(A)×100
7,154	7,256	101.4%

③事業収入(単位：千円)

目標収入（A）	実際収入（B）	達成率(B)/(A)×100
100,540	106,252	105.7%

（２）ボランティアの受け入れ

①ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2	2	13
延人数	0	0	0	0	0	2	12	20	12	10	10	13	79

②ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・シーツ交換 ・洗面台清 ・除雪
絵画サークル虹の会	・絵画展示

（３）外出・外泊・面会状況

年月	面会延べ人数(名)	外出回数（回）	外泊回数（回）
令和２年４月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0

8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	00	0
12月	0	0	0
令和3年1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

※窓越し面会は数に含まず

（4）行事

日時	行事名	場所
令和2年5月1日	えん開設記念日	そら･はなリビング
令和2年6月12日	花壇整備	えん庭
令和2年7月28・31日	えん祭り	てくてく
令和2年8月4日	味覚祭	えん庭
令和2年12月18日	忘年会	そら・はなリビング
令和2年12月24日	クリスマス会	そら・はなリビング
令和3年2月2日	豆まき	はなリビング
令和3年3月3日	ひな祭り	はなリビング

（5）リーダー会議（計12回）

月日	議題内容	参加人数
令和2年4月21日	･ケースカンファレンス･褥瘡発症者の経過･栄養状況の悪い方･抑制廃止の取り組み･苦情について･事故報告について･行事出張について･各事業所の実績報告･その他の検討事項(ボランティアの手紙、加湿器片付け、コロナ関係)･スタッフマネジメント	10名

令和2年5月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント(異動職員のエルダーについて、コロナ関係)	10名
令和2年6月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(テーナ研修について、コロナ関係)・スタッフマネジメント	10名
令和2年7月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	10名
令和2年8月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	10名
令和2年9月23日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(面会制限について)・スタッフマネジメント	10名
令和2年10月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント(異動について)	10名
令和2年11月19日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(キックオフミーティング)・スタッフマネジメント	10名
令和2年12月22日	・令和3年度事業計画策定会議	10名
令和3年 1月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(・スタッフマネジメント	10名

令和３年２月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項（オペレーションについて、外国人スタッフ受け入れについて、SH夜勤の入り時間について）・スタッフマネジメント	10名
令和３年３月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項（オペレーションについて、メッシュパンツについて、夜勤の休憩室について）・スタッフマネジメント	10名

（６）特養会議（計12回）

月　日	議題内容	参加人数
令和２年４月１日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(清掃方法について、オペレーションについて)	9名
令和２年５月11日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(新型コロナウイルスについて、人事異動について、花壇整備・春の清掃について)	9名
令和２年６月８日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（はなリビングについて、オペレーションについて、食事の下膳について）	12名
令和２年７月６日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、家族への手紙作りについて、コロナ対策について、さつき苑への応援について）	11名
令和２年８月３日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検	11名

	討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、ターミナルケア研修について、卓上シールドについて）	
令和２年９月７日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、ボランティア再開について、異動について）	10名
令和２年10月５日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて）	10名
令和２年11月２日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、在庫物品管理表について）	10名
令和２年12月７日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて）	10名
令和３年１月４日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、服薬について）	９名
令和３年２月１日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（会議の開始時間について）	10名
令和３年３月１日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、SH 夜勤開始時間の変更について、ご家族様への電話について）	９名

（７）給食会議（計 11 回）

月日	議題内容	参加人数
令和２年４月 23 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（調理スタッフ入院について）	８名
令和２年５月 21 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(異動スタッフについて)	８名
令和２年６月 18 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(食中毒研修の実施について)	９名
令和２年７月 20 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(味覚祭について、調理スタッフ復帰について)	９名
令和２年８月 20 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他	10 名
令和２年９月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(敬老の日について、調理員 Line 開設について)	10 名
令和２年 10 月 22 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（給食献立について、職員異動について）	10 名
令和２年 11 月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(クリスマス会について、給食会議担当変更について、残った食材について)	11 名
令和２年 12 月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(Line ワークスについて、生ゴミバケツの保管場所について)	９名
令和３年１月 21 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（生ゴミバケツの保管場所について）	10 名
令和３年２月 18 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（ゴミの分別について、調理員 Line ワークスについて）	９名
令和３年３月 18 日	・栄養士不在につき未実施	０名

（８）入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
厚生病院	内科	誤嚥性肺炎・脱水	5 月 24 日	6 月 8 日	14
森山病院	脳神経外科	てんかん発作	8 月 19 日	9 月 2 日	11

（９）通院状況

病院名	診療科目	計（人）	病院名	診療科目	計（人）
浅井医院	内科	9	永山腎泌尿器科 CL	泌尿器科	7
旭川赤十字病院	泌尿器科	4	なかの呼吸器内科 CL	呼吸器内科	4
	脳神経外科	1	たかはし整形外科 CL	整形外科	3
市立病院	皮膚科	6	森山病院	外科	8
	循環器内科	2	森山メモリアル病院	整形外科	9
旭川医療センター	神経内科	15	片山整形 CL	整形外科	3
林歯科	歯科	15	いまだ耳鼻科	耳鼻科	4
鷹栖歯科	歯科	1	もとまち皮膚科 CL	皮膚科	4
くりやま歯科	歯科	1			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　地域密着特別養護老人ホーム　ぬくもりの家　えん

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)(3)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らしづくりを行う。	①病気の悪化を防ぎ、予防的なケアを実践する。また日々の健康管理を適切に行い、脱水症、低栄養を予防。	課長 課長補佐 主任 看護師	計画	ケアチェックとカンファレンス徹底	食事形態見直し	脱水予防確認 水分量の見直し	定期検査（血液）	定期検査（血液）	定期健康診断	A	入院延べ日数 28日間 (昨年同期167日間)	水分表・食事形態見直し	定期検査（血液）	定期検査（血液）	食事形態見直し	定期検査（血液）	定期検査（血液）	・脱水症・低栄養・誤嚥性肺炎による入院ゼロ。 ・体調不良時等7日以内のカンファレンス実施。 ・入院90日以内。	A	低栄養による入院はなかったが、脱水症・誤嚥性肺炎による入院は年間で1名だった。脱水・誤嚥リスクの高い方については早期に予防的対応を検討し徹底する必要がある。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
2			②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。	リーダー リスクマネジメント委員会	計画	事故検証再発防止	→	→	→	→	→	C	事故件数 64件 (昨年同期 55件)	事故検証再発防止	→	→	→	→	→	・事故件数前年比-10%。 ・服薬・骨折事故ゼロ。	C	事故件数123件(前年99件) 誤投薬6件・骨折2件 事故は前年度より24%増加。 事故の検証と再発防止の徹底が必要。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
3			③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	褥瘡アセスメントの準備	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(1)(6名)	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(2)(8名)	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(3)(8名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(1)(6名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(2)(8名)	C	情報収集のみにとどまり実際の評価までは至らず。	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(3)(8名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(4)(6名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(5)(8名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(6)(8名)	以降継続	以降継続	・全入居者の褥瘡リスクのアセスメントの実施を標準化。 ・褥瘡のリスクをスタッフ間で共有し、新たな褥瘡発症をゼロにする。	C	情報収集のみにとどまり実際の評価までは至らず。 褥瘡の早期発見と適切なケアの実践に努め、重症化は防ぐことが出来たが褥瘡発症を防ぐことはできず。
					実施	未実施	未実施	情報収集のみ	情報収集のみ	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
4			⑤快適な生活を守るため新規おむつの導入。 ⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	下剤使用者の確認 新しいおむつの導入検討	排せつに関するアセスメント準備 新しいおむつの導入	→	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	C	情報収集のみにとどまり実際の評価までは至らず。	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	モニタリング	・刺激性下剤の使用5%以内の維持。 ・排せつケアに関するアセスメント・計画・評価の標準化と加算の取得。	C	刺激性下剤の使用5%以内は維持できた。 9名の入居者に夜間帯、テーナ導入できた。 加算の取得には至らず。
					実施	情報収集	情報収集	新しいオムツ導入にむけた準備	未実施	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施	未実施	テーナ導入の準備	テーナ導入			
5	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり	⑦感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザの、食中毒等の感染予防に努める。 ⑧非常災害に対する意識啓発と緊急時に備えた非常用電源設備の設置。	看護師 栄養士	計画	感染症研修（新任）	避難訓練（日中想定）				感染症予防研修（法人）	B	予定通り実施。感染症研修では、コロナウィルスの内容も盛り込み実施することができた。	感染症対策確認 加湿器設置 避難訓練（夜間想定）	インフルエンザ予防接種 感染予防強化	感染予防強化	→	→	年間報告	・感染症集団感染ゼロ。	A	食中毒、インフルエンザ、ノロウィルスの集団感染、発症は0件だった。 新型コロナウィルスについても、感染予防を徹底した。
					実施	実施	延期		避難訓練（日中想定）実施		実施			実施 避難訓練未実施	実施	実施	実施	実施	実施			
6	(1)(3)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。	栄養士 調理員 感染症対策委員会	計画	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	食中毒予防研修（法人）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	B	食中毒予防研修を実施し、衛生管理の再確認を実施できた。また、会議内で調理法の統一を実施することで安全な食事の提供ができた。	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	1年間のモニタリング	食中毒感染者ゼロ。	B	食中毒予防研修を実施し、衛生管理の再確認を実施できた。また、会議内で調理法の統一を実施することで安全な食事の提供ができた。
					実施	実施	実施	実施（給食会議内）	食中毒予防研修実施（会議）	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
7			②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案・実践。 ③治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供。	栄養士 看護師 リーダー	計画	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	B	食事状況を確認しながら 状態にあった食事が提供できるよう、必要に応じて食事形態の見直しを実施することができた。 検食を実施し、食事の味・温度を確認することができた。	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認		・食事形態の多様化により、全員経口摂取ができる。 ・適時適温ができ、満足度調査80%満足が得られる。	B	入居者の状態に合わせ、随時食形態の見直しができた。検食を実施し食事の質の向上を図ることができた。満足度調査において89%の満足を得ることができた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施				
8			④栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。	栄養士 調理員 課長	計画	ケアマネジメントカンファレンス	→	→	→	→	→	B	栄養ケアマネジメントを実施し、多職種と連携をとりながら必要な栄養量を提供することができた。	ケアマネジメントカンファレンス	→	→	→	→	→	・状態や健康状態に合わせた食事提供を実施できる。	B	栄養マネジメントを実施し、多職種間のチームケアを推進することができた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
9			⑤入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。	栄養士 調理員 アクティビティー委員会	計画		開設記念 こどもの日 憲法記念日	買い物外食	海の日 流しソーメン	お盆 北野神社祭	敬老の日 秋分の日	S	コロナの影響で流しそうめんなど感染のリスクの高い行事は中止したが、敬老の日はお弁当箱で華やかさを演出して提供することができた。また、栄養士による手作りおやつの提供を実施できた。	十五夜 出前の日	文化の日 勤労感謝の日	クリスマス忘年会 天皇誕生日	おせち料理 成人の日	節分 建国記念日	ひな祭り 春分の日	・年間計画に基づいた行事食の実施。 ・満足度調査を実施し、食事に関して80%が良いの評価を得る。	S	コロナの影響で行事が縮減する中、祝い膳や季節感のある食事、栄養士の手作りおやつを提供することで日々の楽しみを作ることができた。
					実施		実施 栄養士手作りおやつ（ソフト食かしわもち）の提供	中止	中止	味覚祭 栄養士手作りおやつ（七夕ゼリー）の提供	実施			栄養士手作りおやつ（お月見水まんじゅう）の提供	実施	実施	実施	実施	実施			
10	(1)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり	①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。	課長補佐 主任 リーダー 担当	計画	手作り昼食	花見 チャレンジデー 畑作り	買い物 運動会見学	さつき祭 流しソーメン	夕涼み会 北野神社祭 味覚祭&[illegible]	買い物 手作り昼食	B	コロナの影響で予定していたイベントのほとんどが中止を余儀なくされたが、代替のイベントを実施し楽しみの機会をつくることができた。		手作り昼食	クリスマス会 餅つき&忘年会		豆まき	ひな祭り 年間報告	・ご入居者やご家族が楽しく、笑顔あふれる思い出ができる。 ・職員も楽しむことができる行事の実施。 ・ブログを計画通りアップする。 ・ボランティアに感謝の気持ちを伝えることができる。	B	前期はコロナの影響で予定していたイベントの中止が相次いだが、代替のイベントを実施することができた。 後期は内容を一部変更し実施することができた。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	えん祭り 味覚祭	未実施				未実施	クリスマス会 忘年会		豆まき	ひな祭り			
11			③介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくり。	リーダー 主任 各担当	計画	介護過程の展開の継続実施	→	→	各担当がモニタリング～ケアプランの立案	→	→	B	介護課程の展開のスタートは遅れたが、アセスメントの見直しまで一連の流れを実施することに着手できている。	介護過程の展開ケアプランの立案	→	→	→	→	→	・スタッフが担当入居者1名の介護過程の展開ができる。 ・再アセスメントからケアプランの立案まで担当スタッフができるようになる。	B	常勤職員全員が介護過程の展開に取り組み、実施することができた。
					実施					実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
12			④共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑤心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持。	環境委員会 リーダー	計画	春のしつらえ 居室環境確認	→	夏の準備	夏のしつらえ	秋の準備 ワックスがけ	秋のしつらえ 委員会活動報告	B	予定通り、季節に合わせたしつらえを飾ることができている。	冬の準備	冬のしつらえ				年間報告	・季節に合わせた環境作りと入居者の居室環境を清潔に維持することができる。	B	季節に合わせたしつらえとケアアシスタント導入により居室の清潔の維持はできた。 共有スペースの清掃についてはオペレーションの見直しにより改善されたが不十分。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施 ワックスがけは10月実施	実施			実施	実施							

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　地域密着特別養護老人ホーム　ぬくもりの家　えん

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
13	(3)	新任・現任職員の育成と働きやすく、チームワークの高い職場の風土づくり	①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成。	課長 主任 リーダー エルダー	計画						6ヶ月面談		対象者なし						12ヶ月面談	・新任職員の退職ゼロ。		対象者なし。
					実施						対象者なし								対象者なし			
14			②基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ③すべての職員が気持ち良い接遇ができる。 ④現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。	課長 課長補佐 主任 リーダー	計画		救急救命研修(たかは合同)	マナーモラル研修 定期面談	全道老人福祉施設研究発表大会	ターミナルケア研修	認知症実践リーダー研修 ユニットリーダー研修	C	予定していた外部研修の多くが中止となった。9月からの基礎介護研修は実施され受講することができている。	認知症実践者研修	基礎介護研修(1) 定期面談(後期) 道北老施協介護職員研	基礎介護研修②	基礎介護研修③	先端ケア研究会 基礎介護研修④ 虐待予防研修	サービス向上発表会	・現任職員が研修等を通じて成長ができる。 ・すべての職員が気持ちの良い接遇ができる。 ・現任職員の退職ゼロ	C	予定していた外部研修の多くは中止となる。基礎介護研修も12月以降は延期のため受講できず。先端ケア研究会はオンラインにて参加。
					実施		中止	実施	大会中止	実施	研修中止			研修中止	一部実施	延期	延期	一部実施	延期			
15			⑤業務改善により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑥介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の検証。 ⑦有給休暇と連休の取得を推進。	課長補佐 主任	計画	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得 書類の整理	→	→	→	介護ロボット等の導入検証(1)	介護ロボット等の導入検証②	B	介護ロボットの導入やICT推進は継続的に検証。有給休暇は計画的に取得できている。	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得	→	→	→	→	→	・業務改善を随時行い、働きやすい環境をつくる。 ・介護ロボットの導入やIOT・ICTの活用により労働環境を向上する。 ・常勤職員全員が7連休を取得できる。 ・退職者ゼロ。	A	業務改善を随時行い、介護ロボット(ハグ)を導入することで労働環境を向上できた。 リフレッシュ休暇は常勤職員全員取得。
					実施	実施	実施	実施	実施	未実施	検証			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
16	(5)	適正収益の確保	①ケアの質向上により入院者を減少させ、目標稼働率を達成する。 ②全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。 ③新たな加算を取得。	課長 主任 リーダー おむつ担当	計画	業績・収支状況確認 (毎月継続)	褥瘡マネジメント加算の取得	排せつ支援加算の取得	→	→	上半期評価	A	前期平均稼働率99.2 %。 入院日数 28 日間(167) 入院延べ人数4名 (15) 入院実人数2名(7) 目標 50,540,077円に対し 実績 52,885,879円(+2,669,379円)	業績・収支状況確認 (毎月継続)	→	→	→	→	年間報告	・稼働率98% 目標達成。(目標介護保険収入100,408,130円) ・毎月の業績を確認する。 ・消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(おむつ、電気、水道、灯油使用量-3%) ・新たな加算を取得する。	A	体調や病状の変化に早期に対応することで入院日数28日(昨年197日)と大幅に減少し、平均稼働率99.4%、介護保険収入106,084,239円と目標を達成することができた。 新たな加算は取得に至らず。
					実施	入院0日間	入院7日間	入院8日間	入院0日間	入院12日間	入院1日間			入院0日間	入院0日間	入院0日間	入院0日間	入院0日間	入院0日間			

令和２年度　地域密着型特別養護老人ホーム

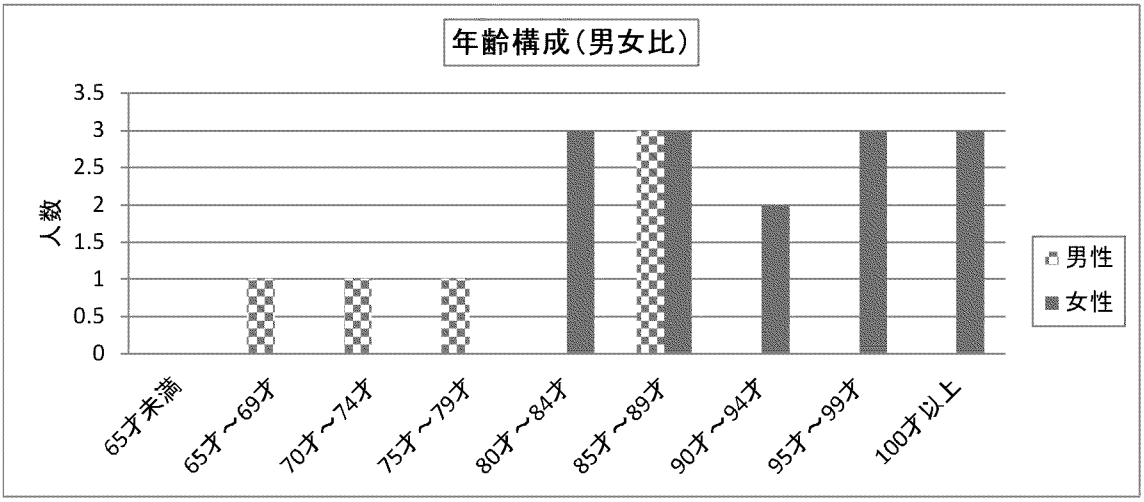
ぬくもりの家えん

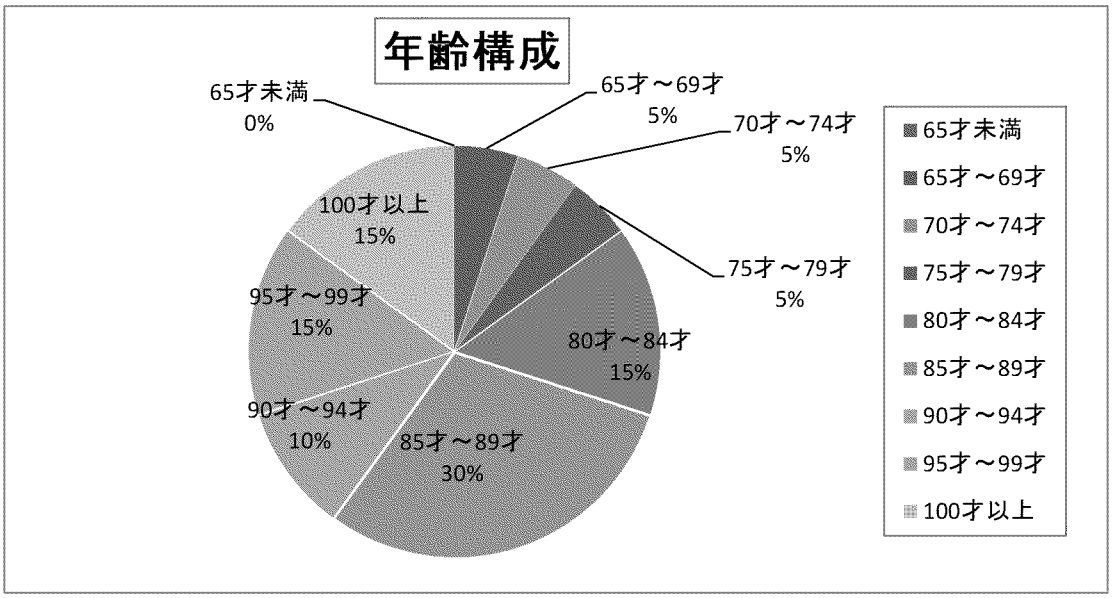
現況報告書

（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月31日）

1.入居者年齢構成（令和3年3月31日現在）

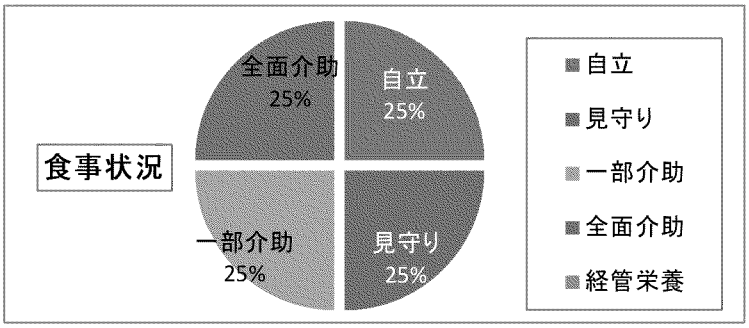
	在 籍 者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	【最高年齢】 男性 88 歳 女性 103歳 【最低年齢】 男性 65歳 女性 83歳 【平均年齢】 男性 79.2歳 女性 92.6歳 全体 88.5歳
65才～69才	1	0	1	
70才～74才	1	0	1	
75才～79才	1	0	1	
80才～84才	0	3	3	
85才～89才	3	3	6	
90才～94才	0	2	2	
95才～99才	0	3	3	
100才以上	0	3	3	
計	6	14	20	





2.食事状況（令和3年3月31日現在）

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	1	2	0	3	0	6
女性	4	3	5	2	0	14
合計	5	5	5	5	0	20



3.移動状況（令和3年3月31日現在）

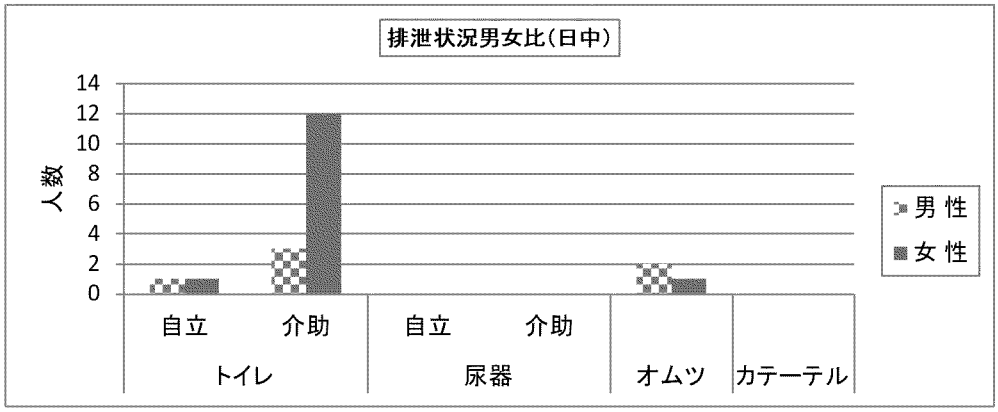
	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	1	0	0	0	0	2	3	6
女性	0	2	0	0	0	3	9	14
合計	1	2	0	0	0	5	12	20

4.入浴状況（令和3年3月31日現在）

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男 性	0	2	4	6
女 性	0	7	7	14
合 計	0	9	11	20

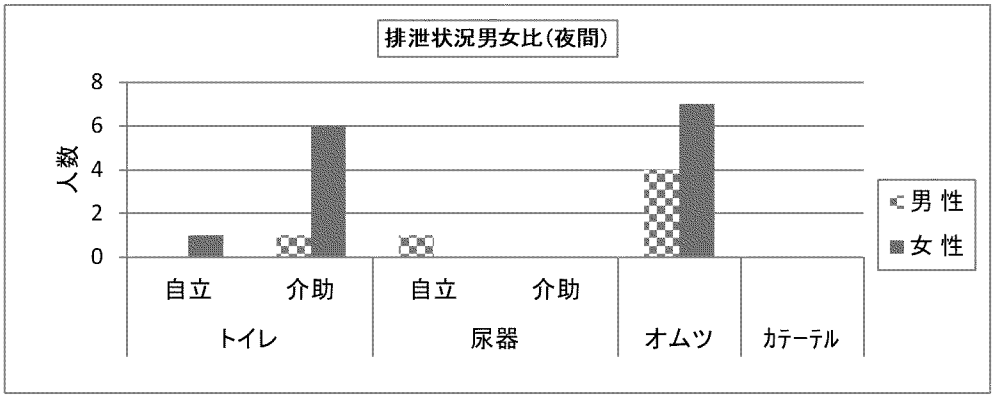
5.排泄状況（令和3年3月31日現在）
日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男 性	1	3	0	0	2	0	6
女 性	1	12	0	0	1	0	14
計	2	15	0	0	3	0	20



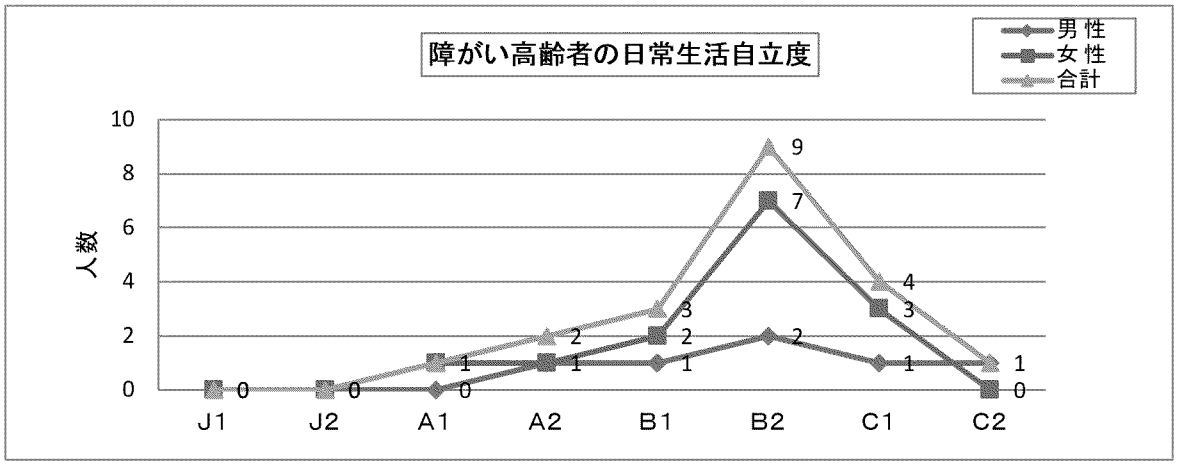
夜間

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	1	1	0	4	0	6
女性	1	6	0	0	7	0	14
計	1	7	1	0	11	0	20



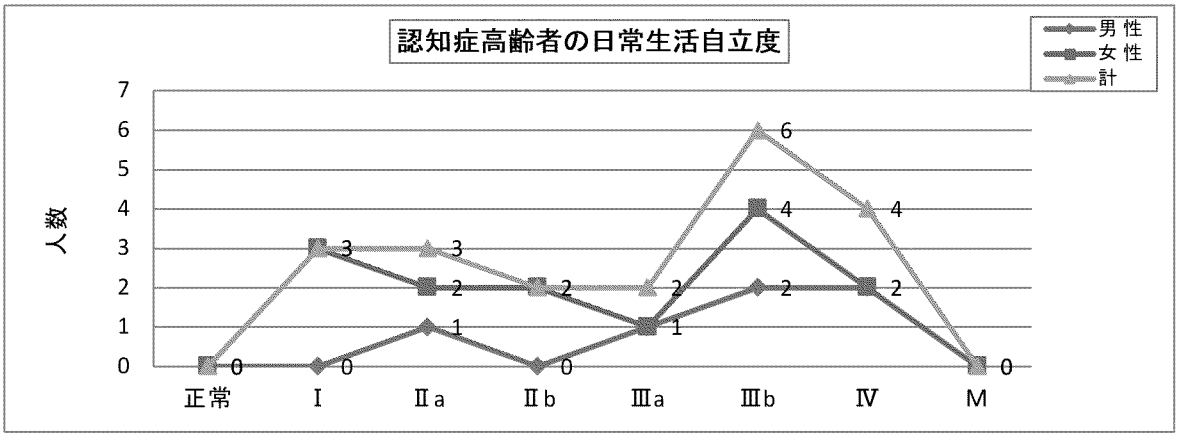
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
男性	0	0	0	1	1	2	1	1	6
女性	0	0	1	1	2	7	3	0	14
合計	0	0	1	2	3	9	4	1	20



7.認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

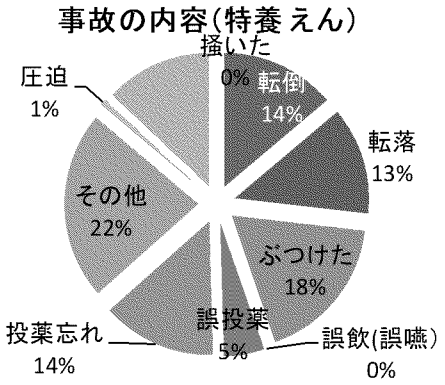
	正常	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	計
男性	0	0	1	0	1	2	2	0	6
女性	0	3	2	2	1	4	2	0	14
計	0	3	3	2	2	6	4	0	20



8.事故の状況

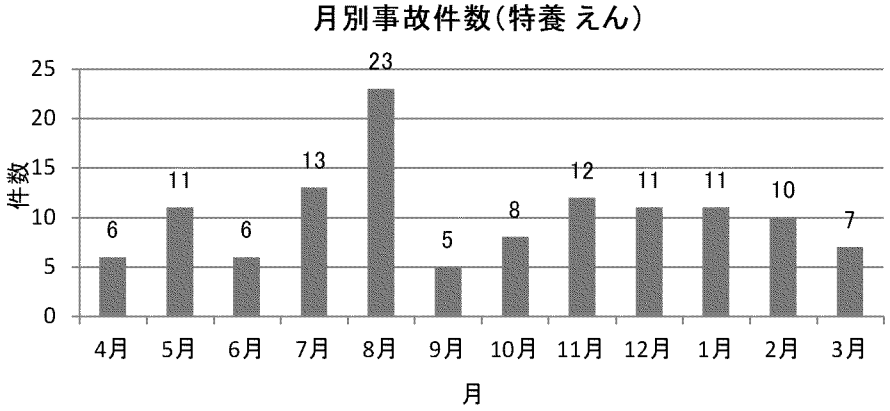
(1)内容

内　容	件数
転倒	17
転落	16
ぶつけた	22
誤飲(誤嚥)	0
誤投薬	6
投薬忘れ	17
異食	0
その他	28
圧迫	1
掻いた	0
不明	16
	123



(2)月別発生件数

発生月	件数
4月	6
5月	11
6月	6
7月	13
8月	23
9月	5
10月	8
11月	12
12月	11
1月	11
2月	10
3月	7
	123



(3)けがの程度

程　度	件数
無傷	42
発赤(後に消失)	2
擦り傷	7
切り傷	1
内出血	35
やけど	0
腫れ	0
骨折	2
死亡	0
その他	19
打撲	0
表皮剥離	9
出血	6
打撲、裂傷、腫れ	0
	123

9. 入院状況

	病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
1	厚生病院	内科	誤嚥性肺炎・脱水	5月24日	6月8日	15
2	森山病院	脳外科	てんかん発作	8月19日	9月2日	13
						28

10. 通院状況

病院名	診療科目	計(人)	病院名	診療科目	計(人)
浅井医院	内科	9	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	7
旭川赤十字病院	泌尿器科	4	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	4
	脳神経外科	1	たかはし整形外科CL	整形外科	3
市立病院	皮膚科	6	森山病院	外科	8
	循環器内科	2	森山メモリアル病院	整形外科	9
旭川医療センター	神経内科	15	片山整形CL	整形外科	3
林歯科	歯科	15	いまだ耳鼻科	耳鼻科	4
鷹栖歯科	歯科	1	もとまち皮膚科CL	皮膚科	4
くりやま歯科	歯科	1			

令和２年度　小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

１．総括

新型コロナウイルスの流行により、感染症予防対策として、毎日の消毒、食事席のパーテンションの設置、個人防護服の着脱訓練を行った。また、ご家族による毎日の健康観察、職員ひとり一人が意識した日常生活を送っていることで、利用者・職員共に感染者はなかった。

コロナ禍のため、年度当初計画していた外出を含む多くの行事が中止となった。しかし、職員自ら計画した行事も多くあり、少しでも利用様に楽しんでもらいたいと工夫し、大盛況となった。利用者の喜びだけでなく、スタッフのモチベーションにも繋がった。満足度調査においても、76%の利用者はレクリエーションが楽しいと感じており、更なる充実を図っていきたい。

医療と介護の連携により入院による停止者を増やさないと目標に掲げていたが、循環器疾患が悪化し３名が停止となった。脱水や栄養状態の悪化からの入院者はいなかったが、既往や現病歴からの予測や体調を管理し、医療機関との連携の必要性を再確認した。

介護過程の展開を通して、体重・食事量減少者のケースについて、管理栄養士とカンファレンスを実施。ご家族とも連携し、方向性を明確にしたことで改善することができた。

事故予防は、リスクマネジメント委員会を中心に「昨年度より事故件数 20%減少」と「薬に関する事故を 50%減少」を目標に取り組んだ。チェック体制の見直しと事故の検証により、事故件数では 55 件が 30 件と 45%の減少。薬の事故に関しては、29 件が 11 件と 62%減少した。今後も継続し対応する。

今年度も自立支援・在宅生活が継続できることを目指し、認知症予防の学習療法(4 名)と、ＡＤＬ維持向上のため毎日の集団体操・嚥下体操を行った。学習療法サポーターがコロナ禍のため休止となったが、継続した支援が行えるよう法人内他事業所と協働し、スタッフ全員の学習療法実践士研修を行った。

働きやすい職場を目指しリフレッシュを目的に、７連休・有給取得を計画・実施することができた。育児休暇中のスタッフがいる中、チームとして協力し合い、退職者はいなかった。

今年度の新規利用者は10名（法人居宅の紹介７名、鷹栖町地域包括支援センター3名）。

法人内居宅からの紹介が半数を超えており、定期的な情報共有の機会をつくることが有効だったと考える。

月平均登録者数は 24.0 名と目標の 23.5 名に達し、介護保険事業収入は 58,919,862 円（前年比　＋102.2%）と、昨年度を上回る収益を確保することができた。

２．次年度に向けて

令和３年度は、重点目標を①コロナ禍の中、感染対策を継続し、小規模多機能サービ

スの内容を充実させ、目標利用者を確保する②健康管理を徹底し、地域・自宅で生活し続けられるケアの提供③適正利益の確保の３つに取り組む。

アクティビティに関する要望が高いことから、今後も、アクティビティの内容を充実させ、通うのが楽しみになる魅力ある事業所づくりを最重要課題として取り組む。

介護過程の展開を通して、日々気づいたことを話し合えるチームをつくり、各職員が責任を持ち、チームとしての力が発揮できる職場つくりを目指す。

適正利益の確保のため登録数は、平均登録者数23.5名とする。同法人内居宅との連携を密にし、地域への周知活動と、医療機関等との連携を図り、新規利用者の確保に努める。

３．運営状況・統計資料

＜事業活動の統計・データー＞

（１）小規模多機能ホーム会議開催状況

月　日	議　題　内　容	出席者
４月１日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・オペレーションについて・モニタリング	７名
５月１３日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて 事故の検討・新型コロナ感染対応について・朝市中止について	９名
６月１０日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・行事計画・委員会について・	９名
７月８日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・行事計画・委員会について	９名
８月５日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・行事計画・委員会について	９名
９月９日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・業務について・オペレーションについて	９名
１０月７日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・業務について	９名
１１月４日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療について・車輌事故について	８名
１２月９日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・オペレーション・医療について・介護過程の展開	９名
１月６日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・モニタリング・医療について・介護過程の展開	９名
２月３日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・オペレーションについて・医療について・介護過程の展開	９名

３月３日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・モニタリング・医療について・介護過程の展開	９名

（２）小規模多機能ホーム行事活動報告

日　　時	行　　事　　名	場　　所
5/1	開設記念日	てくてく
5/3～5/5	菖蒲湯	小規模
6/12	花壇整備	
7/28・31	えん祭	てくてく
8/4	味覚祭	てくてく
10/27～29	りんご湯	小規模
12/18	年忘れゲーム大会	てくてく
12/21～23	ゆず湯	小規模
12/24	クリスマス会	てくてく
1/5～7	初詣	鷹栖神社
2/2・3	豆まき	てくてく
3/3	ひな祭り	小規模リビング

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　小規模多機能ホーム　ぬくもりの家　えん

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画地	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1			①看護職員と介護職員と栄養士と連携を図り、日々の健康管理を適切に行う。（水分・必要栄養量の確認と把握） 医療と介護の連携により、入院による停止者を増やさない。（R1　2件→　2件）	課長 課長補佐 主任 看護師	計画	ケアチェックとカンファレンス徹底	水分表・食事形態見直し	脱水予防研修	ハイリスク者の血液データ確認	ハイリスク者以外の血液データ確認	モニタリング ダブルチェック	B	脱水・低栄養・誤嚥性肺炎での入院は無い。 入院による停止は1名。	水分表・食事形態見直し	ハイリスク者の血液データ確認	ハイリスク者以外の血液データ確認	食事形態見直し	水分表・食事形態見直し	モニタリング ダブルチェック	・脱水症・低栄養・誤嚥性肺炎による入院ゼロ。 ・体調不良時等7日以内のカンファレンス実施。 ・入院による停止者2名。	C	脱水・低栄養・誤嚥性肺炎による入院は無かったが、入院による停止者は3名。循環器疾患の悪化から入院となった。日常の体調管理を今後も継続していく。
					実施	実施済	実施済	未実施	3名実施	3名実施	遅れているが実施			実施済	2名実施	2名実施	該当者無し	実施済				
2			②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。 特に薬に関する事故を前年度件数より－50％（R1　29件→　12件） 家屋状況を確認し再発防止。	リーダー リスクマネジメント委員会	計画	事故検証再発防止	→ 家屋状況チェック	→ 家屋状況チェック	→ 家屋状況チェック	→	→	A	事故件数減少。事故件数前年同時期　25件が15件　40％減少 薬の事故件数前年同時期　15件が7件　53％減少 転倒による入院無し	事故検証再発防止	→	→	→	→	→	・事故件数前年比-20％。 ・薬の事故件数前年比－50％。 ・転倒による入院がゼロ（R1年度　1件）	A	事故件数は55件が30件と45％の減少。薬の事故は29件が11件と62％減少する事が出来た。チェック体制の強化と事故検証が出来ていたためと考える。 転倒による入院は無かった。
					実施	実施済	実施済	実施済　家屋チェック未実施	実施済　家屋チェック未実施	実施済　家屋チェック未実施	実施済　家屋チェック未実施			実施済	実施済	実施済	実施済					
3	(1) (2) (4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らしづくりを行う。	③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	褥瘡アセスメント	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(D)(5名)	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(D)(5名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(1)(5名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(2)(5名)	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(3)(5名)	B	褥瘡の予防や早期発見・対応は実施しており、褥瘡発症者は無し。 ハイリスク者のケアプランには記載されているが標準化にはなっていな	褥瘡ケアの評価（モニタリング）(4)(5名)	以降継続	以降継続	以降継続	以降継続	以降継続	・褥瘡リスクのアセスメントの実施。 ・褥瘡のリスクをスタッフ間で共有し、新たな褥瘡発症をゼロにする。	B	褥瘡の予防や早期発見・対応は実施しており、褥瘡発症者は無し。 会議の議事にてスタッフ間にて情報は共有されている。 ハイリスク者のケアプランには記載されているが標準化にはなっていない。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
4			⑤在宅生活を継続出来る様、訪問リハビリと連携し、自立支援を重視したケアを行う。	主任	計画		リハビリ対象者・内容検討	担当者会議開催				A	転倒による入院無し。訪問リハビリ導入や連携により介護度が改善。日常生活の過ごしやすくなっている。	担当者会議開催						・転倒による入院がゼロ（R1年度　1件）	A	転倒による入院無し。 訪問リハビリ導入や連携により介護度が改善。日常生活の過ごしやすくなっている利用者がいる（1名）。
					実施		実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			該当者無し	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
5			⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	下剤使用者の確認	排せつに関するアセスメント準備	→	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	B	排泄アセスメントは実施できていないが、ファイバー使用・ふんばる君使用により排便が促されている。	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	排せつアセスメントの実施（3名）	モニタリング	・刺激性下剤の使用者を4名から3名に減らす。 ・排せつケアに関するアセスメント・計画・評価の標準化。	B	排泄アセスメントは実施できていないが、ファイバー使用・ふんばる君使用により排便が促されている。 刺激性下剤使用者は3名。
					実施	実施済	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
6			⑦退院支援のシステム化を行い、入院時、迅速な状況把握を行い、在宅復帰への支援を提供する。	主任	計画		入院発生時の対応マニュアル作成	入院発生時対応実施				C	退院支援のシステム作りは出来ていない。 入院1週間以内に相談員への調整は実施し早期退院している。面会はコロナ禍のため実施出来ず。	入院発生時対応実施						・入院1週間以内に、面会・医療相談室と連携を行う。 ・入院中支援マニュアル作成し実施。	C	退院支援のシステム作りは出来ていない。 入院1週間以内に相談員への調整は実施している。面会はコロナ禍のため実施出来ず。
					実施		未実施	入院者発生時の対応は出来ている						入院者発生時の対応は出来ている	入院者発生時の対応は出来ている	入院者発生時の対応は出来ている	入院者発生時の対応は出来ている	入院者発生時の対応は出来ている	入院者発生時の対応は出来ている			
7	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザの、食中毒等の感染予防に努める。 ②感染症発症者が在宅では対応困難な場合の対応策と支援内容の明確化 ③地域との連携による緊急時（火災・行方不明）の体制の確認と訓練の実施を行う（年1回）	主任 看護師 栄養士	計画	感染症研修（新任）	避難訓練（日中想定）	感染症発症時に在宅対応困難者への対応策マニュアル作成			感染症予防研修（法人）	B	集団感染はしていない。法人全体として対応マニュアル作成されている。	感染症対策確認 加湿器設置 避難訓練（夜間想定）	インフルエンザ予防接種 感染予防強化	感染予防強化	→	→	年間報告	・感染症集団感染ゼロ。	A	集団感染はしていない。 法人全体として対応マニュアル作成されている。 コロナ禍の中で職員ひとり一人が意識した日常生活を送っていることで、感染は無かった。
					実施						10月実施			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　小規模多機能ホーム　ぬくもりの家　えん

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
8	(1) (4)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。	栄養士 調理員 感染症対策委員会	計画			食中毒予防研修（法人）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	B	食中毒感染者ゼロ。	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	給食会議での確認（毎月）	1年間のモニタリング	・食中毒感染者ゼロ。	B	食中毒感染者ゼロ。
					実施			実施済	実施済	実施済	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
9			②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案・実践。	栄養士 看護師 リーダー	計画	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	B	食事形態は必要時見直ししている。	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認	食事形態見直 適温確認		・食事形態の多様化により、全員経口摂取ができる。 ・適時適温ができ、満足度調査80%満足が得られる。	B	全員経口摂取出来ており、必要に応じて、形態は見直しをしている。 満足度調査にて、食事は美味しいと81%が評価している。
					実施	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
10			③栄養スクリーニングを行い、年齢、病状、家庭の状況をみて摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。	栄養士 調理員 主任	計画	ケアマネジメント カンファレンス 評価	→	→	→	→	→	A	食事量減少者のカンファレンスを行い、管理栄養士と連携し改善することが出来た。家庭の状況に応じて家族とも連携が出来た。	食事形態見直適温確認	→	→	→	→	→	・状態や健康状態に合わせた食事提供を実施できる。	A	前期と同様に、食事量減少者のカンファレンスを行い、管理栄養士と連携し改善することが出来た。家庭の状況に応じて家族とも連携が出来た。
					実施	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
11			⑤利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。満足度調査による評価の実施。	栄養士 調理員 アクティビティー委員会	計画		開設記念 こどもの日 憲法記念日	買い物 外食	海の日 流しソーメン	お盆 北野神社祭	敬老の日 秋分の日	S	コロナ禍の中、外出を含む行事が中止となった。少しでも利用者に楽しんで貰いたいと企画した「えん祭り・味覚祭」は成功だっ	体育の日 出前の日	文化の日 勤労感謝の日	クリスマス 忘年会 天皇誕生日	おせち料理 成人の日	節分 建国記念日	ひな祭り 春分の日	・年間計画に基づいた行事食の実施。 ・満足度調査を実施し、食事に関して80%が良いの評価を得る。	S	コロナ禍のため外出行事は実施出来なかったが、日々を楽しんでいただける行事や食事は工夫した。 満足度調査にて、食事は美味しいと81%が評価している。
					実施		実施済	未実施	流しそうめん未実施	北野神社祭未実施。えん祭り実施	味覚祭実施。実施済			出前は未実施	実施済	餅つきは未実施だが、出前を取った	実施済	実施済	実施済			
12	(1)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり	①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。	課長補佐 主任 リーダー 担当	計画		花見 チャレンジデー 畑作り	買い物 運動会見学	さつき祭 流しソーメン	夕涼み会 北野神社祭 味覚祭&ボラ集 手作りおやつ	買い物 手作り昼食	S	コロナ禍の中、外出を含む行事が中止となった。少しでも利用者に楽しんで貰いたいと企画した「えん祭り・味覚祭」は成功だった。ボランティアの皆様には近況報告と共に写真入り葉書を送付した。	手作りおやつ	手作り昼食	クリスマス会 餅つき&忘年会	手作りおやつ	豆まき 手作り昼食	ひな祭り 手作りおやつ 年間報告	・ご利用者やご家族が楽しく、笑顔あふれる思い出ができる。 ・職員も楽しむことができる行事の実施。 ・ブログを計画通りアップする。 ・ボランティアに感謝の気持ちを伝えることができる。	S	コロナ禍の中、ご家族やボランティアと共に過ごす機会をつくることは出来なかったが、行事を工夫しスタッフも共に楽しむことが出来た。満足度調査においても76%が楽しいと回答している。 ブログも行事毎に総合職と一緒にアップした。 ボランティアへも感謝のハガキを出すことが出来た。
					実施		未実施	未実施	未実施	えん祭り実施	味覚祭			未実施	未実施	餅つきは未実施だが、出前を取った	未実施	豆まき実施済 手作り昼食は未実施	ひな祭は実施済 手作りおやつは未実施			
13			③利用者・家族に成果の見えるアクティビティの実施。	アクティビティ委員会	計画		創作系アクティビティ計画作成	創作系アクティビティの実施	楽習診断評価	創作系アクティビティの実施	創作系アクティビティの実施	S	毎月作成した物は、壁に掲示し、利用者の楽しみ	創作系アクティビティの実施	創作系アクティビティの実施		創作系アクティビティの実施	楽習診断評価	創作系アクティビティの実施	・満足度調査を実施し、80%が良いの評価。	S	満足度調査では76%が楽しいと回答している。 毎月の創作物は掲示され、利用者の楽しみになっており、自宅への持ち帰りもご家族と話題を共有するきっかけになっている。
					実施		実施済	実施済	未実施	実施済	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	未実施	実施済			
14			④介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくり。	リーダー 主任 各担当	計画	介護過程の展開の継続実施	→	→	各担当がモニタリング～ケアプランの立案	→	→	C	モニタリングは実施してるが、介護過程の展開は実施できていない。	介護過程の展開ケアプランの立案	→	→	→	→	→	・スタッフが担当利用者1名の介護過程の展開ができる。 ・再アセスメントからケアプランの立案まで担当スタッフができるようになる。	A	介護過程の展開の開始は後期になったが、利用者1名ずつ実施する事が出来、疾患の理解やケア内容の変更に繋がっている。
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			介護過程の展開スケジュール作成		介護過程の展開2名ずつ実施	介護過程の展開2名ずつ実施	介護過程の展開2名ずつ実施	介護過程の展開3名ずつ実施			
15			⑤共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑥心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持。	環境委員会 リーダー	計画	春のしつらえ 居室環境確認（以降継続）	→	夏の準備	夏のしつらえ	秋の準備 ワックスがけ	秋のしつらえ 委員会活動報告	B	定期的に実施出来ている。	冬の準備	冬のしつらえ				年間報告	・季節に合わせた環境作りと入居者の居室環境を清潔に維持することができる。	B	定期的に実施出来ている。
					実施	実施済	実施済	実施済	実施済	ワックス掛けは10月	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　小規模多機能ホーム ぬくもりの家 えん

［評価基準］S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
16	(3)	ご家族・住民との協働	①地域住民の学習療法サポーターの育成を行い、役割と生きがいをつくる。また、サポーター間の意見交換や実施報告等の機会を設ける。	主任 担当	計画					味覚祭とボランティアの交流会	学習療法サポーター交流会	C	コロナ禍の為、ボランティアとの交流は実施出来ていない。					学習療法サポーター交流会	友の会総会にて報告	・ボランティアとの交流が継続出来る。 ・学習療法サポーター交流会にてやりがいや役割を再確認することが出来る。	C	コロナ禍のためボランティアとの交流や学習療法サポーター交流会の実施する事は出来なかった。
					実施					味覚祭のみ9月に実施	未実施							未実施	総会は実施したが報告内容無し			
17			②2ヶ月に1回の運営推進会議開催と家族会・ぬくもり友の会・行政機関等の第三者からの意見や要望を取り入れた健全で地域に根付いた事業所運営を行う。	課長 課長補佐 主任	計画		運営推進会議		合同運営推進会議		運営推進会議	B	コロナ流行による緊急事態宣言を受け、会議開催は延期していた。合同での会議は今年度は実施しないこととした。		合同運営推進会議		運営推進会議		運営推進会議	・計画通りの実施が出来る。	B	コロナ流行による緊急事態宣言を受け、会議開催は延期していた。合同での会議は今年度は実施せず。会議は4回開催した。
					実施		未実施		未実施	運営推進会議実施	未実施				合同では実施せず、えんのみで開催		実施済		実施済			
18	(4) (5)	新任・現任職員の育成と働きやすく、チームワークの高い職場の風土づくり	①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成。	課長 主任 リーダー エルダー	計画	1週間毎の面談	1週間毎の面談	新任職員研修 2週間毎の面談	面談	面談	6ヶ月面談	B	異動者に対して面談実施。						12ヶ月面談	・新任職員の退職ゼロ。	B	新任職員はいなかったが、異動者に対して必要時、面談を行った。
					実施	対象者なし	対象者なし	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施								対象なし			
19			②基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ③すべての職員が気持ち良い接遇ができる。 ④現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。	課長 課長補佐 主任 リーダー	計画		救急救命研修(たかほ合同)	マナー・モラル研修 定期面談	全道老人福祉施設研究発表大会	ターミナルケア研修	認知症実践リーダー研修 ユニットリーダー研修	C	外部研修は未実施。定期面談は遅れての実施だった。	認知症実践者研修	基礎介護研修① 定期面談(後期) 道北老施協介護職員研修	基礎介護研修②	基礎介護研修③	先端ケア研究会 基礎介護研修④ 虐待予防研修	サービス向上発表会	・現任職員が研修等を通じて成長ができる。 ・すべての職員が気持ちの良い接遇ができる。 ・現任職員の退職ゼロ	S	外部研修は未実施。 介護過程の展開を通して疾患や利用者の理解に繋がった。また、担当した行事や業務について自ら考え計画することができており、成長している。 現任職員の退職ゼロ。
					実施		未実施	未実施	未実施	未実施	定期面談			未実施	定期面談実施済	延期	延期	先端ケア研究会はリモートにて参加 [illegible]	延期			
20			⑤業務改善(仕事の見える化、ファイリング、オペレーションの見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑥介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の検証。 ⑦有給休暇と連休の取得を推進。	課長補佐 主任	計画	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得 書類の整理	→	→	→	介護ロボット等の導入検証①	介護ロボット等の導入検証②	B	介護ロボットの導入は出来ていない。業務改善は随時実施出来ている。7連休も取得出来ている。	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得 介護ロボットの導入	→	→	→	→	→	・業務改善を随時行い、働きやすい環境をつくる。 ・介護ロボットの導入やIOT・ICTの活用により労働環境を向上する。 ・常勤職員全員が7連休を取得できる。 ・退職者ゼロ。	B	介護ロボットの導入は出来ていない。 業務改善は随時実施出来ている。 7連休も取得出来ている。
					実施	実施済	実施済	実施済	実施済	未実施				業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済	業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済	業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済	業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済	業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済	業務改善・オペレーション見直し・連休の取得実施済			
21	(6)	適正収益の確保	①利用者目標人数23.5名(R1 24.4名)。新規登録者8名を増やす。 (目標介護保険事業収入56,390,451円) ②市内病院の相談室・老人保健施設を訪問し、新規利用に繋げる。 町内の児童民生委員総会にて説明会を開く(年1回) ③全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。	課長 主任 リーダー	計画	業績・収支状況確認(毎月継続)	地域への啓発活動(児童民生委員総会)	啓発活動(病院・老人保健施設)	業績・収支状況確認(毎月継続)	→	→	A	啓発活動は実施出来ていないが、同法人内からの紹介により新規利用者5名。平均登録者数24.2 名。目標介護保険事業収入27466817	業績・収支状況確認(毎月継続)	業績・収支状況確認(毎月継続) 啓発活動(病院・老人保健施設)	業績・収支状況確認(毎月継続)	→	→	年間報告	・登録者数23.5名目標達成。(目標介護保険収入56,390,451円) ・毎月の業績を確認する。 ・地域への啓発活動が実施出来る。 ・消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(電気、水道、灯油使用量-3%)	A	啓発活動は実施出来ていないが、同法人内からの紹介も含め新規利用者10名。平均登録者数 24名。 介護保険事業収入 58,919,862円で102.2%と目標をクリアしている。
					実施	実施済	未実施	未実施	実施済	実施済	実施済			実施済	啓発活動未実施	実施済	実施済	実施済	実施済			

令和２年度　小規模多機能ホーム

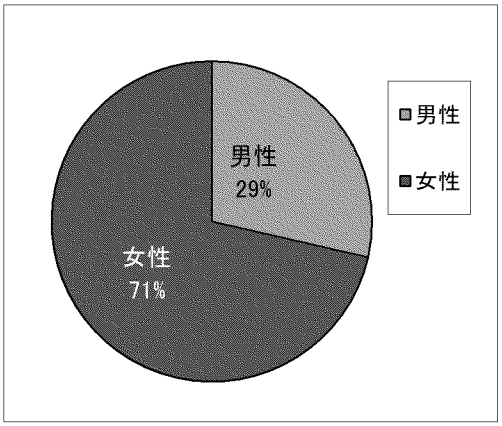
ぬくもりの家えん

現況報告書

（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月31日）

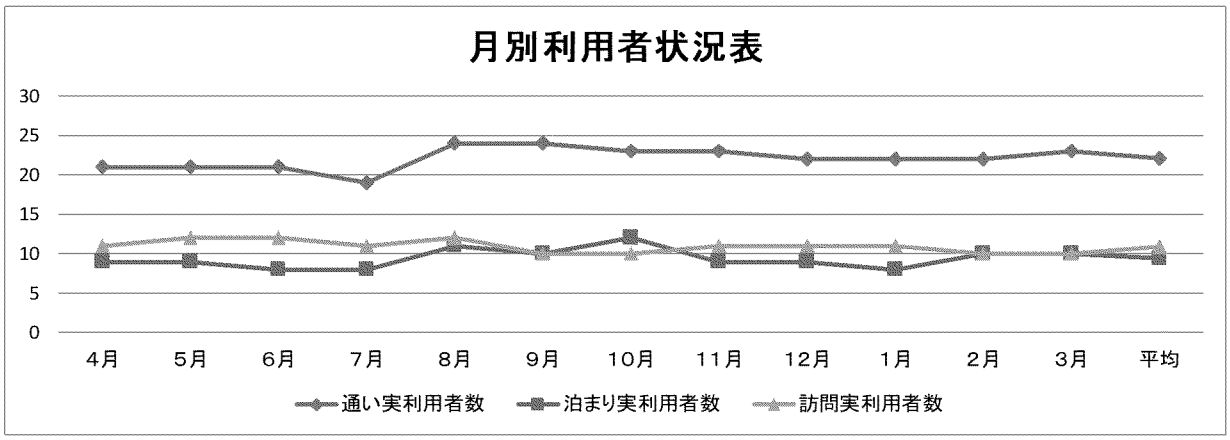
1. 利用登録者（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

男性	女性	合計
10	25	35



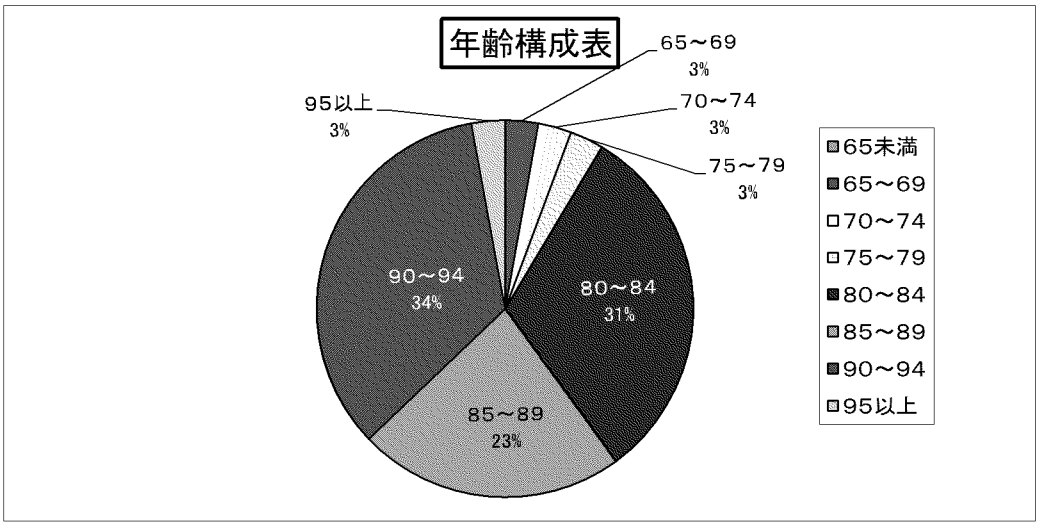
2. 月別利用者状況

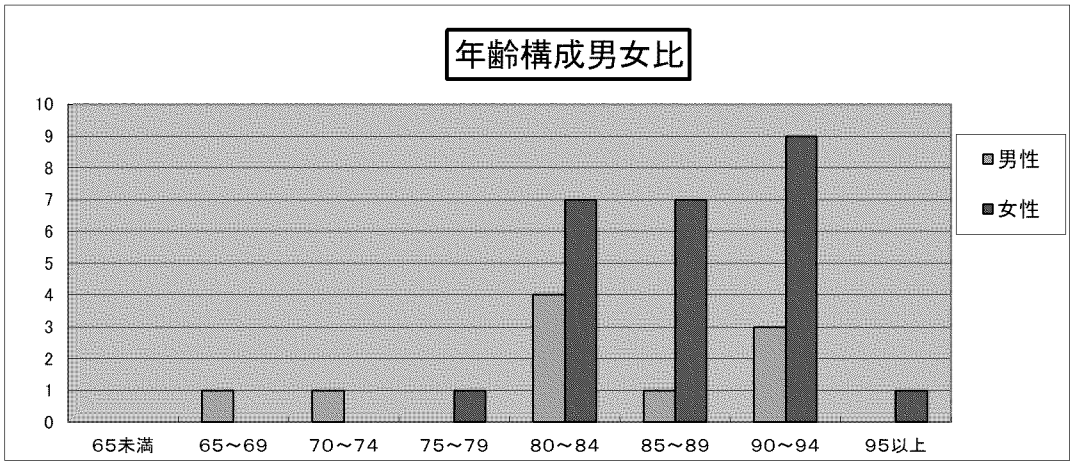
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	21	9	11	2	0	1
5月	21	9	12	0	0	0
6月	21	8	12	0	0	3
7月	19	8	11	0	0	0
8月	24	11	12	0	0	2
9月	24	10	10	0	0	0
10月	23	12	10	0	0	1
11月	23	9	11	1	0	1
12月	22	9	11	1	0	0
1月	22	8	11	2	0	2
2月	22	10	10	0	0	0
3月	23	10	10	0	0	0
平均	22	9	11	1	0	1



3. 年齢

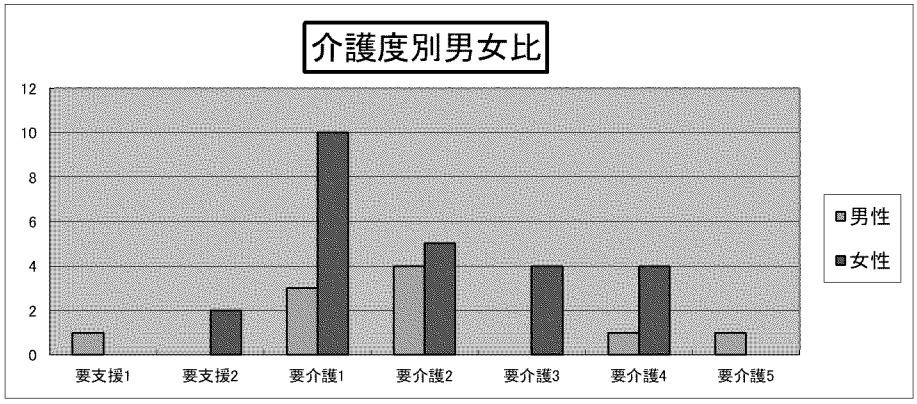
	男性	女性	合計
65未満	0	0	0
65～69	1	0	1
70～74	1	0	1
75～79	0	1	1
80～84	4	7	11
85～89	1	7	8
90～94	3	9	12
95以上	0	1	1
合計	10	25	35
平均年齢	85.3	87.5	86.4
最高年齢	92	97	
最低年齢	65	79	

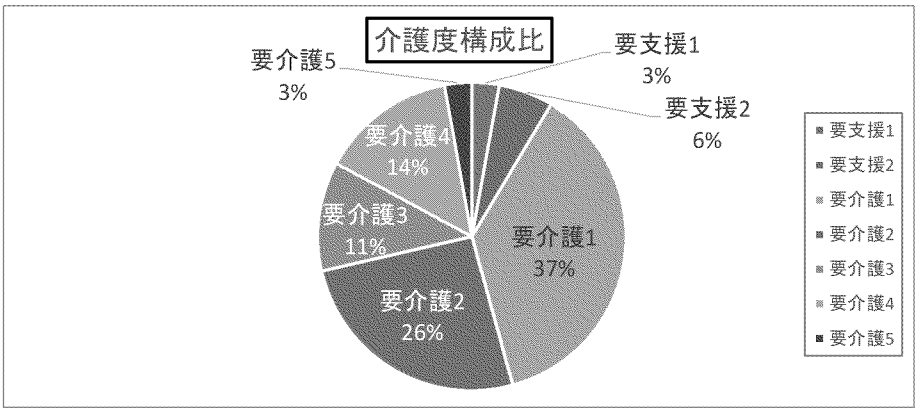




4. 要介護度別

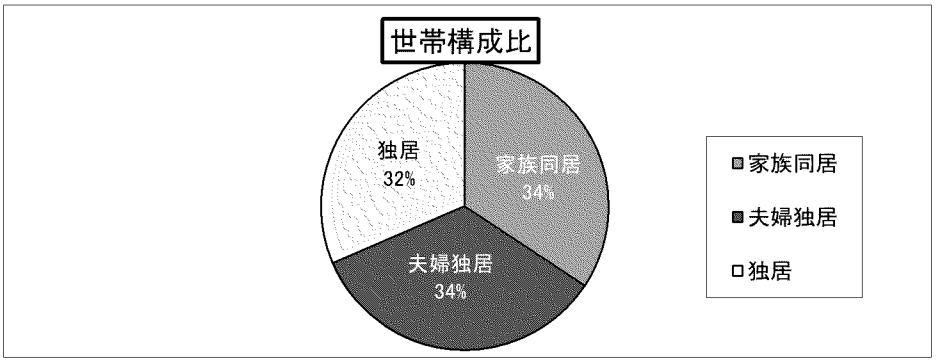
	男性	女性	合計	構成比
要支援1	1	0	1	3%
要支援2	0	2	2	6%
要介護1	3	10	13	37%
要介護2	4	5	9	26%
要介護3	0	4	4	11%
要介護4	1	4	5	14%
要介護5	1	0	1	3%
合計	10	25	35	100%





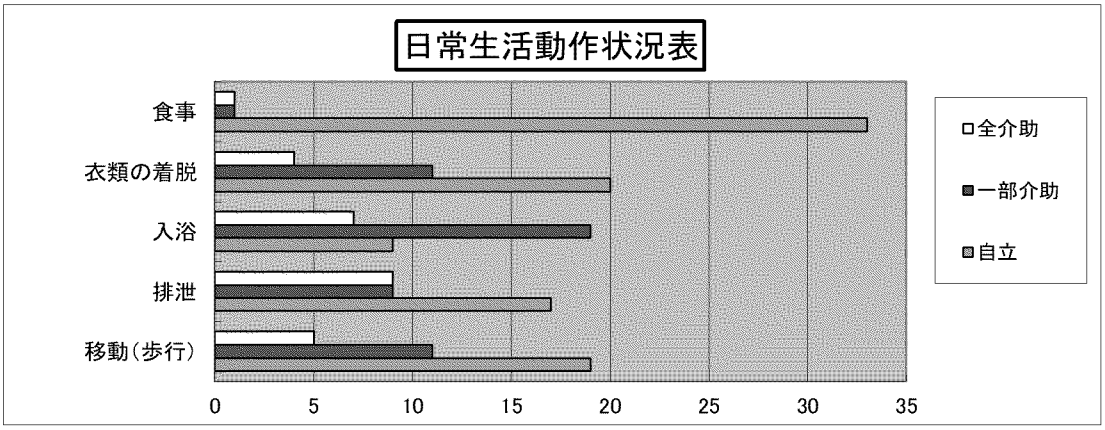
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
12	12	11	35



6. ADL(日常生活動作)状況

	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	19	11	5	35
排泄	17	9	9	35
入浴	9	19	7	35
衣類の着脱	20	11	4	35
食事	33	1	1	35

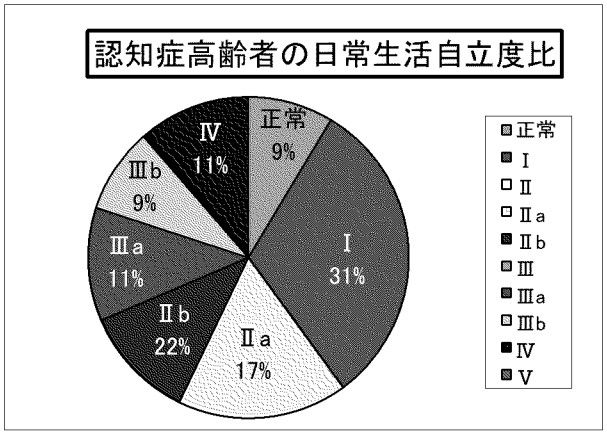


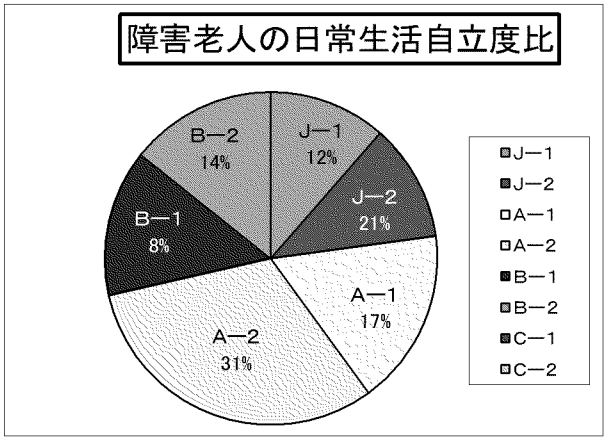
7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
Ⅰ	11
Ⅱ	0
Ⅱa	6
Ⅱb	4
Ⅲ	0
Ⅲa	4
Ⅲb	3
Ⅳ	4
Ⅴ	0
合計	35

8. 障害老人の日常生活自立度

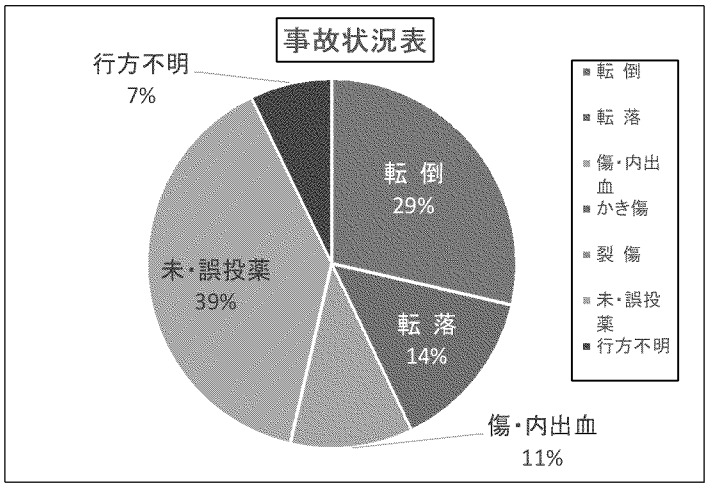
自立度	人数
J―1	4
J―2	4
A―1	6
A―2	11
B―1	5
B―2	5
C―1	0
C―2	0
合計	35





8. 事故状況

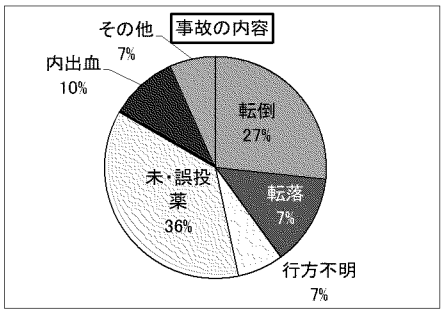
内容	件数
転　倒	8
転　落	4
傷・内出血	3
かき傷	0
裂　傷	0
未・誤投薬	11
行方不明	2
その他	2
合　計	30



令和2年度 事故発生状況

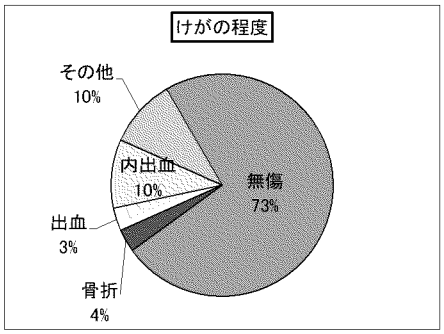
【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	8	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2
転落	4	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
行方不明	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
未・誤投薬	11	0	0	1	1	5	0	0	0	1	0	3	0
内出血	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



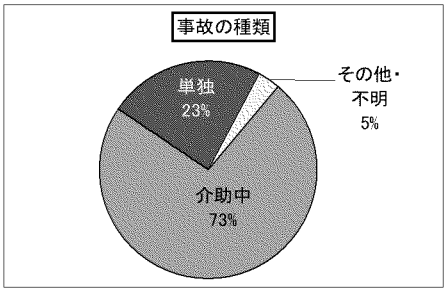
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	22	1	2	1	1	5	1	3	0	1	0	4	3
骨折	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
出血	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内出血	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
やけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫れた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



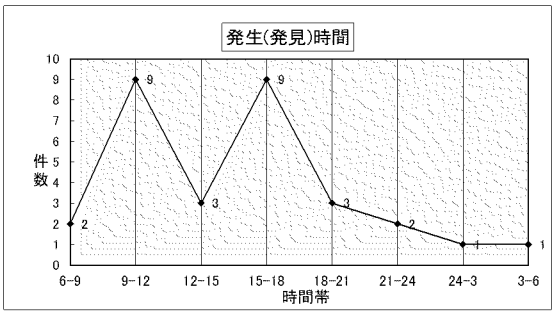
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	22	1	2	2	1	6	1	1	0	1	0	4	3
単独	7	1	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他または不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



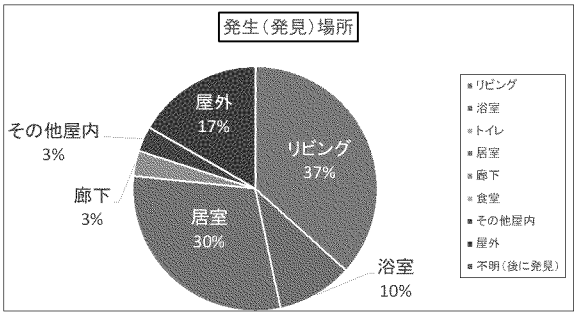
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9-12	9	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4	1
12-15	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15-18	9	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	2
18-21	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
21-24	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
24-3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
3-6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



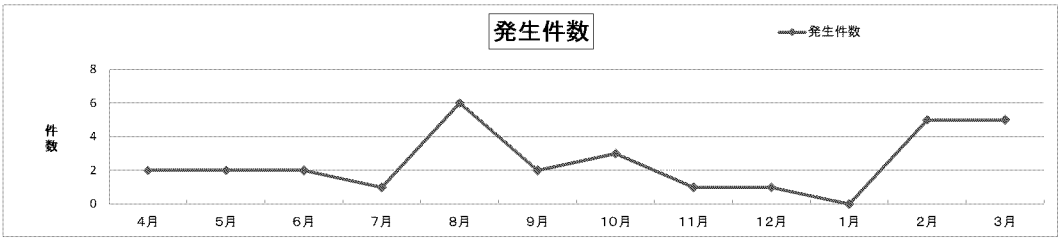
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リビング	11	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	3	3
浴室	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居室	9	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	2	1
廊下	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他屋内	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
屋外	5	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0
不明(後に発見)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5
(受診をした件数)	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0



令和２年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針とし、取り組んだ。

入居者のADL・QOLの向上については、平均要介護度でみると昨年度の1.00に対し、今年度は1.13と若干の上昇。要支援・要介護の割合に大きな変化はないが、状態に合わせて適宜区分変更を行ったことが要因のひとつと考えられる。今年度、開設後初めて入居者の死去による退居があり、体調悪化の前兆を見逃さないために、日々の入居者の状態観察から得られる情報を都度確認・検証することが重要であり、水分・食事の摂取状況を確認することから取り組む。

昨年度から継続してフィットネスクラブの活用推進、あったかすリハビリ体操教室やふまねっと教室の開催等、身体を動かす機会の提供と習慣につなげるための働きかけを行っていたが、コロナウイルス感染症の流行に伴い、教室の開催そのものが中止せざるを得ない状況が続いた。外出や他者との交流の自粛、地域での行事が軒並み中止となり、教室の開催再開には時間を要した。再開後の教室やふまねっと教室については参加率も安定しており、定期的な運動機会の確保ができている。フィットネスクラブの活用については都度声かけを行い、定期的な利用につながった入居者は3名だった。不定期ではあるが、入居者同士で声をかけあいフィットネスクラブを利用する場面もあった。引き続き法人PTとも連携し、入居者の健康管理と介護予防の知識の向上を図るための手段として利用促進をすすめる。

事故については、事故のない月が年間を通して2ヶ月のみで、多い月は5件発生した。今年度は総数28件で、昨年に比べ2件増えている。昨年度に引き続き同じ入居者の転倒・転落事故が目立ち、骨折に至る事故が3件にのぼった。事故は単独がほとんどであり、目の行き届かない場所（自室内）や時間の多いサ高住特有の傾向となっている。都度環境の見直しやサービスの入り方を検討・調整し、安全に過ごせる住環境の整備に取り組む。

全国的な新型コロナウィルス感染症の流行により、全入居者の検温を実施。入居者のインフルエンザ及び新型コロナウィルスの罹患はなく、毎日の消毒作業および入居者への衛生管理を徹底することの成果と考えている。引き続き入居者やサ高住（フィットネス・地域交流スペース利用者含む）に出入りする業者を含めた来訪者と全スタッフへの手洗い・うがいの励行、手指消毒、体調管理およびマスク着用の周知・徹底に努め、感染者を一人も出すことがないよう取り組む。

入院については年間の延べ入院者数は10名以内、年間入院延べ日数を150日以内とすることを目標に取り組んだ。延べ入院者数は年間で7名、年間入院延べ日数は73日とそれぞれ目標を大幅に上回る結果を得られた。引き続き個々の既往歴・現病歴の把握と疾患に対する理解に努め、かかりつけ医との情報共有・連携を強化する。

退居者は4名。内訳としては有料老人ホームへの転居、特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑のロングショートステイ利用からの有料老人ホーム入居、小規模多機能から特別養護老

人ホーム鷹栖さつき苑のロングショートステイ利用、状態悪化による入院中の死去となっている。介護度が特別養護老人ホームの入居基準に満たない場合、旭川市内の有料老人ホームへ転居せざるを得ない状況にあり、住み慣れた地域での生活継続を支援するために必要なサービスの見極めを的確に行う必要がある。

食事の提供については、多くの入居者が自力での配膳・下膳を行うことができている。感染症の流行により黙食を余儀なくされ、食事に関する行事も中止となったため、入居者からは「寂しい」といった声があがった。感染症予防に努めながら食事を楽しめる工夫を模索し、安全・安心・楽しみのある食事の提供に努める。

入居者同士の関係性については良好な関係性を築けている一方で、部屋の行き来による密な空間での交流が増えており、感染症予防の観点からはリスクが生じやすい状況にある。入居者同士の交流は集団生活を送る上で楽しみのひとつであるため、状況をみながら適宜声をかけ密になりすぎない環境を整えていく。

適正利益の確保については、8月までは実績稼働率100%を維持していたが、その後空室を埋めることができず、1～2月に続けて2名の退居者があり、平均稼働率は94.9%と目標を大きく下回った。待機者は最大で8名いたが、状態変化による待機登録の辞退や保留の返答が続き、待機者登録者はいても入居につながらない状況にあった。次年度の課題として、安定した待機者の確保及び定期的な意向確認を行うこと、状態変化がみられる入居者に対して迅速に住み替えの提案を行うことができるよう情報収集しておくことがあげられる。

2．展望（次年度に向けて）

次年度に向けては、自立した生活が継続出来るよう、今年度同様ADL・IADL・QOLの維持向上に努める。入居者が安心して長く暮らせる住宅としての機能を維持できるよう、必要なサービスを細かく見極め、迅速な対応を心がける。

役割のある暮らしについても、引き続き地域住民やサロンと連携しながら、個々の能力や興味のある事柄を見定めて活躍の場を提供する。

健康管理においては感染症予防対策の徹底を継続する。また、急変時の対応を迅速に行うことができるよう入居者の水分管理に取り組み、他事業所との連携を密にしながら入居者個々の健康面のサポート強化に努める。

事故に関しては骨折に至る事故ゼロを目指す。訪問リハビリや、福祉用具専門相談員、法人PTの協力を得ながら個々の生活環境の見直しを適宜行うとともに、状況を見極めた早めの住み替えについても提案できるよう情報収集に努める。

適正利益の確保については、安定した待機登録者の確保と、次期入居者への打診を迅速に行うことにより空室期間の短縮を目指す。入居者確保のため、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所への営業活動を計画的に実施し、18名の入居を必達・維持することを目標とする（目標稼働率97%、17.5戸）。

３．運営状況・統計資料

（１）業績報告

①入居率

目標入居率（A）	実際入居率（B）	達成率(B)/(A)×100
17.5 名	17.1%	94.9%

②事業収入

目標収入（A）	実際収入（B）	差異(B)－(A)
27,496,000 円	28,369,724 円	873,724 円

（２）行事

日　　時	行　　事　　名	場　　所
令和２年５月 23 日	町内会花植え	町内会花壇
令和２年６月 11 日	花壇整備	たかほ花壇
令和２年８月 16 日	納涼花火会	たかほ駐車場
令和３年２月２日	豆まき	各部屋・食堂

（３）たかほ会議（計１２回）

月　日	議題内容	参加人数
令和２年４月８日	・入居者の状況（区分変更申請、認知症状進行への対応、新規入居者 等） ・事業活動計画進捗状況（今年度の活動計画書配布） ・設備管理（自動ドア・エレベーター保安点検） ・今月、来月の予定（コレカラ・あえーる休館）	６名
令和２年５月 13 日	・入居者の状況（区分変更申請、介護保険申請、ミールラウンド 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（電気保安点検） ・今月、来月の予定（コレカラ・あえーる休館、特別給付金申請）	７名

令和２年６月 10 日	・入居者の状況（区分変更結果、更新結果、成年後見手続き、行方不明対応用チラシ作成 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（新型コロナウィルス感染症対応） ・今月、来月の予定（支援員新規雇用）	７名
令和２年７月８日	・入居者の状況（退居予定、申請結果、区分変更申請 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（消防設備点検） ・今月、来月の予定（会議出席者変更）	７名
令和２年８月 12 日	・入居者の状況（区分変更結果、退院後のサービス調整、転倒事故 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（漏電） ・今月、来月の予定（地域食堂再開延期 等）	４名
令和２年９月９日	・入居者の状況（退居予定、サービス利用、食事姿勢の見直し 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（植木剪定、調理器具修理） ・今月、来月の予定（外国人実習生宿泊受け入れ）	４名
令和２年 10 月 14 日	・入居者の状況（成年後見決定、退院後のサービス利用調整、食事姿勢の見直し 等） ・事業活動計画進捗状況（営業方法） ・設備管理（冬囲い依頼、消防設備点検点検 等） ・今月、来月の予定（相談員勤務調整、調理員勤務）	４名
令和２年 11 月 18 日	・入居者の状況（サービス追加、感染症対応 等） ・事業活動計画進捗状況（避難訓練） ・設備管理（電気保安点検） ・今月、来月の予定（介護報酬改定会議、大掃除分担 等）	４名
令和２年 12 月９日	・入居者の状況（薬の見直し、認知症状進行への対応 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（感染症対策グッズ） ・今月、来月の予定（入居希望者の情報共有）	５名
令和３年１月 11 日	・入居者の状況（入院に至る経過の整理 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（ガス定期点検） ・今月、来月の予定（営業活動、入居者の健康管理）	５名

令和３年２月 10 日	・入居者の状況（退居予定、サービス追加、退院後のサービス内容 等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（駐車場排雪） ・今月、来月の予定（調理員見学、当直体験、入居募集チラシの作成、自動販売機撤去）	５名
令和３年３月 10 日	・入居者の状況（退居者について、認知症状進行への対応 等） ・事業活動計画進捗状況（行事の日程と詳細） ・設備管理（電気保安点検、ハウスクリーニング） ・今月、来月の予定（感染症によるコレカラ・あえーる休館、今後の予防対応策について）	５名

（４）運営会議（計１０回）

月　日	議題内容	参加人数
令和２年４月	新型コロナウィルス感染症予防のため中止	
令和２年５月	新型コロナウィルス感染症予防のため中止	
令和２年６月 24 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、７月からの総合事業体制） ・今月、来月の予定（サ高住相談員新規雇用） ・視察依頼、予定	３名
令和２年７月 30 日	・業績報告 ・業務改善（コレカラの営業体制変更） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者１名） ・今月、来月の予定（地域食堂の中止、コレカラ電話回線新設、ヘルパー管理者休み中の体制） ・視察依頼、予定	３名
令和２年８月 27 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラパーテーション設置） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者３名） ・今月、来月の予定（サ高住漏電） ・視察依頼、予定	３名
令和２年９月 24 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラパーテーション設置） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者１名） ・今月、来月の予定 ・視察依頼、予定	３名

令和２年 10 月 22 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラ利用制限解除） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者１名） ・今月、来月の予定（サ高住相談員・調理員の勤務） ・視察依頼、予定	３名
令和２年 11 月 26 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・今月、来月の予定（大掃除日程） ・視察依頼、予定	３名
令和２年 12 月 26 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者１名） ・今月、来月の予定（コレカラ年末年始営業、消耗品補充） ・視察依頼、予定	３名
令和３年１月 28 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・今月、来月の予定（高齢者ケア研究会日程確認） ・視察依頼、予定	３名
令和３年２月 18 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、営業チラシ配布） ・今月、来月の予定（コレカラサッシ水漏れ修理、当直の清掃業務見直し） ・視察依頼、予定	２名
令和３年３月 18 日	・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者１名） ・今月、来月の予定（サ高住調理員新規雇用、会議の統合） ・視察依頼、予定	３名

令和2年度　部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名　サービス付き高齢者向け住宅　ぬくもりの家たかほ　〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功　A:期待以上の結果　B:期待どおりの結果　C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	(1)	生活支援ならびに状況把握サービスの提供	①入居者一人ひとりに必要なサービス(介護保険サービス・有料サービスなど)を見極め、入居者・家族への提案や相談、関係各所との連携を速やかに行う。	佐藤 米澤	計画	モニタリング訪問 →	→	→	→	→	→		モニタリング訪問 →	→	→	→	→	→	遅滞なくケアマネジメント業務を行うことができる。	C	毎日の安否確認及び生活相談は実施。毎日の検温により、個々の平均体温を把握できた。ケアマネジメント業務においては、ケアプラン更新や担当者会議の開催、記録等滞る点が多く、結果不十分。
					実施							C									
			②入居者・家族同士と職員が意見交換や交流を図る機会を設ける。	佐藤 米澤	計画								入居者懇親会企画)	年末大掃除・入居者懇親会(準備)	年末大掃除・入居者懇親会				家族を交えた年1回の入居者懇親会(交流会)の開催。	D	新型コロナウィルス感染症の流行により、計画通りの実施ができなかった。
					実施							D									
2	(1)	入居者の健康管理	①入居者へ向けた健康講座の実施(月1回、15分程度)。	佐藤 米澤	計画	健康講座①	健康講座②	健康講座③	健康講座④	健康講座⑤	健康講座⑥		健康講座⑦	健康講座⑧	健康講座⑨	健康講座⑩	健康講座⑪	健康講座⑫	月1回の健康講座を計画通りに実施できる。	B	相談員があったかすリハビリ体操教室の時間を利用し、10分程度の健康教室を企画・実施(6月までコロナウイルス感染症予防のため未実施)。
					実施							C									
			②アセスメントを徹底し、既往歴や現病歴から起こりうるリスクを念頭に置いて日々の体調確認を行う。	佐藤 米澤	計画	訪室時の体調確認、会議内カンファレンス →	→	→	→	→	→		訪室時の体調確認、会議内カンファレンス →	→	→	→	→	→	目標年間入院延べ人数10名以内、目標年間入院延べ日数150日以内にする。	A	入院者5名、年間入院延べ日数73日と目標は達成。
					実施							A									
			②受診や服薬状況などを把握し、必要に応じて主治医や訪問看護との連携を図る。	佐藤 米澤	計画	薬剤情報の確認 口頭・書面での情報提供の実施 →	→	→	→	→	→		薬剤情報の確認 口頭・書面での情報提供の実施 →	→	→	→	→	→	入居者全員の最新の服薬情報を管理できる。	B	個々の受診日を把握し、自身での予約・管理が難しい方については代わりに対応。
					実施							B									
3	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①季節感のある食事や行事食を計画し、実施する。	佐藤 米澤 巳上	計画		こどもの日		焼き肉昼食 流しそうめん	流しそうめん	敬老の日				クリスマス 鍋昼食会	おせち料理	鍋昼食会	ひな祭り	祝日や季節の行事ごとに、季節を感じられる食事を提供することができる。	C	新型コロナウィルス感染症の流行により、計画通りの実施ができなかった。
					実施							C									
			②日々の聞き取りとともに、食事アンケートを行い質の向上に努める。	佐藤 米澤 巳上	計画	日々の聞き取り →	→	→	→	→	→		日々の聞き取り →	→	→	食事アンケート(作成)	食事アンケート(実施) →	→	食事アンケートを実施し、80%が「おいしい」「ちょうどよい」の評価になる。	A	アンケートの評価においては目標達成。
					実施							A									
4	(1)	心身機能の維持向上と日常生活の活性化	①指導士やサポーターの協力を得ながらあったかすリハビリ体操教室・ふまねっと教室を実施し、交流を楽しみながら心身機能の維持向上を図る。	佐藤 米澤	計画	リハ体操教室 ふまねっと教室 →	→	→	→	→	→		リハ体操教室 ふまねっと教室 →	→	→	→	→	→	あったかすリハビリ体操教室は週1回、ふまねっと教室は月2回実施できる。	C	新型コロナウイルス感染症予防のため、6月までは未実施。以降は感染予防を徹底し実施できた。
					実施							C									
			②併設のフィットネス倶楽部への登録・利用啓発。	佐藤 米澤	計画	登録者への利用啓発 新規開拓 →	→	→	→	→	→		登録者への利用啓発 新規開拓 →	→	→	→	→	→	入居者のフィットネス登録が半数(9名)以上になる。	B	フィットネス利用を都度すすめているが、登録者数の増加には至らず。
					実施							B									
5	(1)	安全で過ごしやすい環境づくり	①季節感のあるしつらえの実施。	佐藤 米澤	計画	鯉のぼり		夏のしつらえ	七夕飾り		秋のしつらえ			冬のしつらえ クリスマス	正月飾り	節分飾り	ひな飾り	春のしつらえ	玄関カウンター・エレベーターホール・食堂を、季節に合ったしつらえで飾ることができる。	A	都度季節に合わせたしつらえを実施。
					実施							A									
			②施設内・外の設備の定期点検およびメンテナンスを計画的に実施する。	佐藤 米澤	計画	環境整備表の作成	電気保安点検		電気保安点検		電気保安点検		消防設備点検	電気保安点検	除雪作業(～3月まで)	電気保安点検		電気保安点検	環境整備表を活用して、計画的に実施することができる。	B	計画通りに実施。
					実施							B									
6	(2)	役割のある暮らしの支援	①入居者の有する能力に応じた役割を選定し、声かけをはじめ掲示板や回覧を通して活動への参加を促す。	佐藤 米澤	計画		花壇整備 畑作業 →	→	→	→	→		植木の冬囲い 花壇片付け		正月用生け花 除雪作業	アイスキャンドル作り 除雪作業	おひな様飾り付け 除雪作業	除雪作業	地域や地域住民に関わりのある役割を、年間で2つ以上用意し実行する。	C	全入居者には実行できなかったが、畑作業や生け花等、個々に興味のある役割を提供できた。
					実施							C									
			②入居者の喜びや楽しみにつながるレクリエーションや行事を計画し、実施する。	佐藤 米澤	計画		チャレンジデー(春)		さつき祭観覧ツアー	ろうそくもらい 北野盆踊り			チャレンジデー(秋)		餅つき大会(さつき苑)	書き初め 正月遊び	豆まき	甘酒作り	計画通り行事を実施することができる。	C	新型コロナウィルス感染症の流行により、計画通り実施することができなかった。
					実施							C									
7	(3)	新規入居者獲得のための営業・広報活動強化	①近隣地域の包括支援センターを訪問し、新規入居者獲得につなげる。	佐藤 米澤	計画	訪問 →	→	→	→	→	→		訪問 →	→	→	→	→	→	待機者を確保し、退去後の速やかな契約手続きを行うことで、空室を最低限にとどめる。	C	支援センター等への営業活動や、入居者募集チラシの作成・配布を実施。待機登録者の保留が多く、空室が続いた。
					実施							C									
			②ホームページ上で空室状況等の情報を提供する。定期的にブログをあげ、興味を持ってもらうきっかけを作る。	佐藤 米澤	計画	HPの更新 ブログアップ	ブログアップ		ブログアップ	ブログアップ	ブログアップ		HPの更新		ブログアップ				半年に1回HPを更新、年に6回以上ブログをアップする。	C	ホームページの更新は未実施。ブログは行事毎や季節の挨拶等、定期的に上げることができた。
					実施							C									

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　サービス付き高齢者向け住宅　ぬくもりの家たかほ　　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
8	(3)	適正利益の確保	①満室18名を維持する。	佐藤 米澤	計画	待機者の確認・整理	→	→	→	→	→		待機者の確認・整理	→	→	→	→	→	目標稼働率97％（17.5戸）。	D	サ高住での生活が困難と判断した入居者が3名、死去により1名が退居。 9月以降空室を埋めることができず、2室空室のまま年度終了となった。
					実施							C									
			②コスト意識を持ち、消耗品や光熱費、暖房費の節約に努める。	佐藤 米澤	計画	節約の啓発	→	→	→	→	→		節約の啓発	→	→	→	→	→	前年度比－1％の削減を目指す。	C	住宅内共用部分の節電に取り組んだが、暖房設備の故障による電気代増があった。
					実施							C									

令和２年度　サービス付き高齢者向け住宅

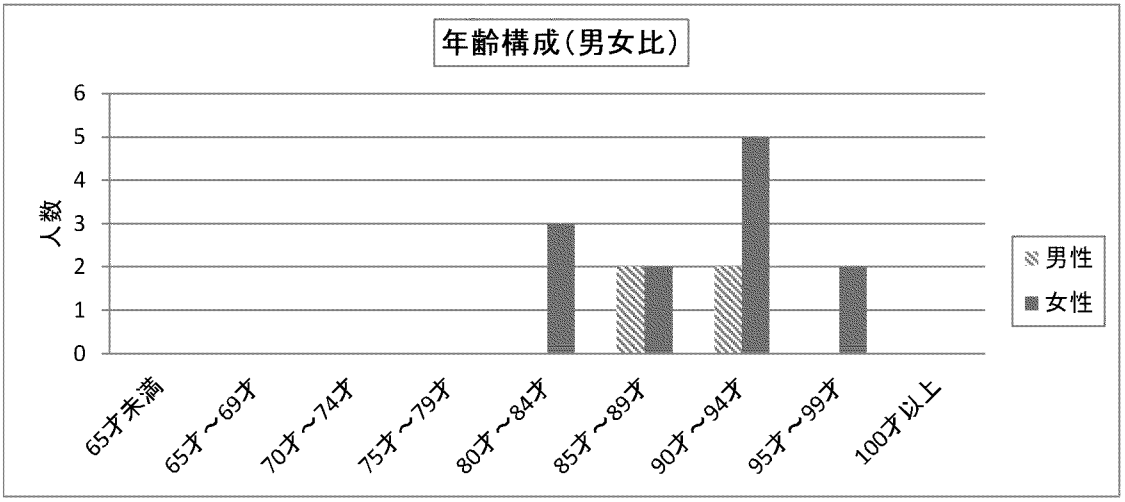
ぬくもりの家たかほ

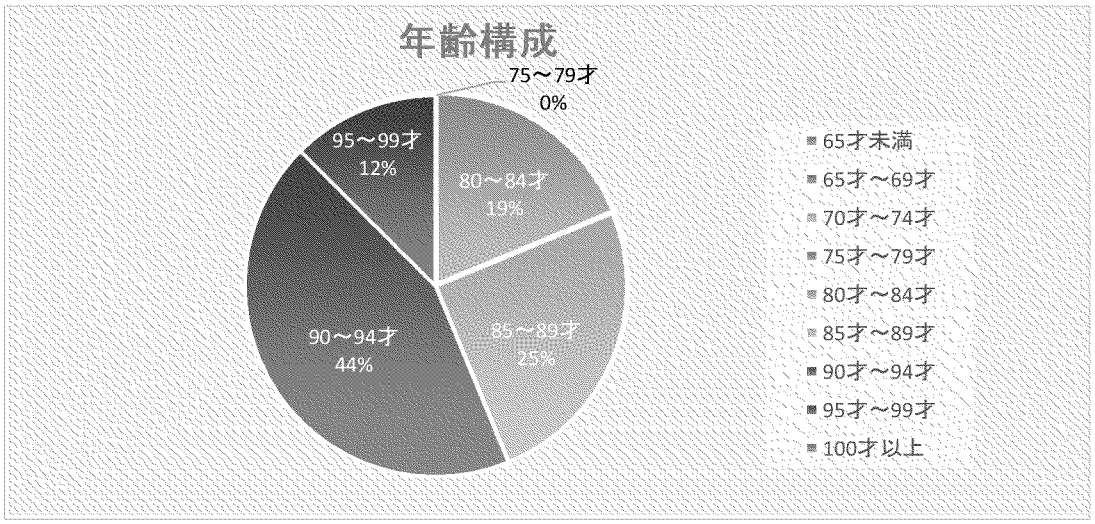
現況報告書

（自：令和２年４月１日　～　至：令和３年３月31日）

1.入居者年齢構成（令和3年3月31日現在）

		在　籍　者			
		男性	女性	計	
65才未満		0	0	0	【最高年齢】 男性　90 歳 女性　97 歳 【最低年齢】 男性　86 歳 女性　80 歳 【平均年齢】 男性　88歳 女性　89.6歳 全体　88.8歳
65才～69才		0	0	0	
70才～74才		0	0	0	
75才～79才		0	0	0	
80才～84才		0	3	3	
85才～89才		2	2	4	
90才～94才		2	5	7	
95才～99才		0	2	2	
100才以上		0	0	0	
計		4	12	16	





2.食事状況（令和3年3月31日現在）

		自立	見守り	合計
男性		4	0	4
女性		12	0	12
合計		16	0	16

3.移動状況（令和3年3月31日現在）

		歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
		自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性		3	0	0	1	0	0	0	4
女性		8	0	0	3	0	1	0	12
合計		11	0	0	4	0	1	0	16

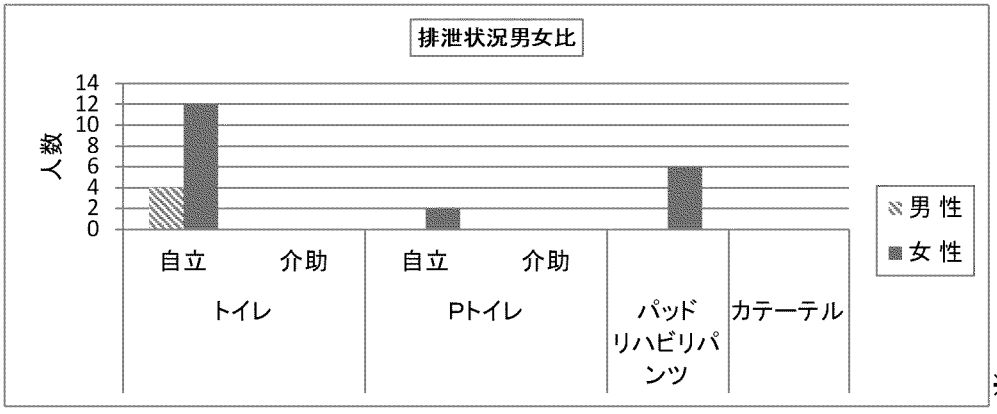
4.入浴状況（令和3年3月31日現在）

		一般浴		車いす浴	合計
		自立	介助		
男 性		4	0	0	4
女 性		0	12	0	12
合 計		4	12	0	16

5.排泄状況（令和3年3月31日現在）

		トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパンツ	カテーテル	計
		自立	介助	自立	介助			
男 性		4	0	0	0	0	0	4
女 性		12	0	2	0	6	0	20
計		16	0	2	0	6	0	24

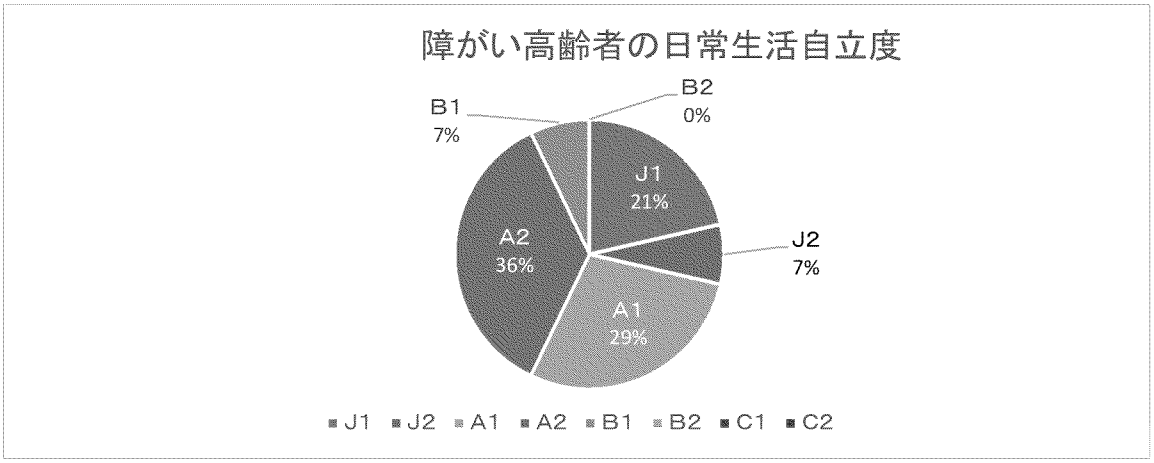
※重複あり



※重複あり

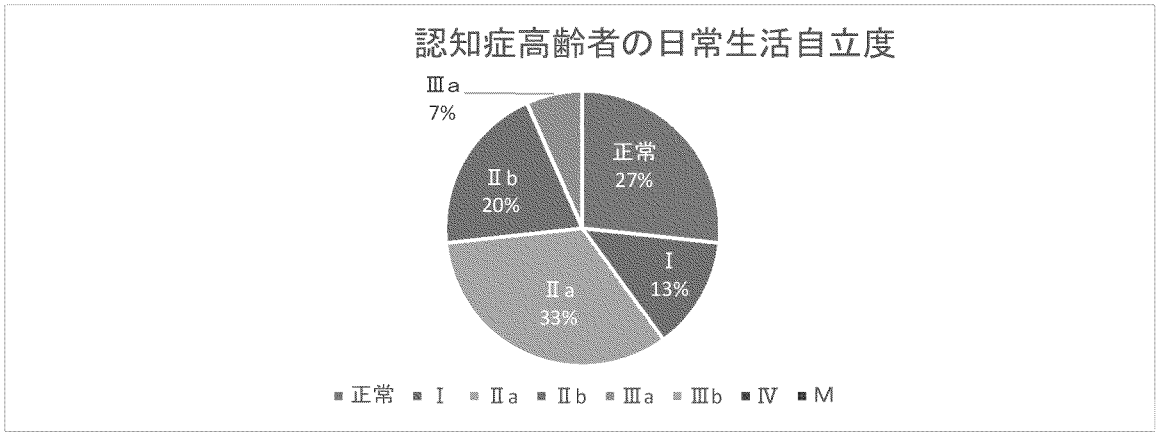
6.身体状況（障がい高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定）

	不明	Ｊ１	Ｊ２	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ１	Ｃ２	計
男 性	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
女 性	2	2	0	3	4	1	0	0	0	12
合計	3	3	1	4	5	1	0	0	0	17



7.認知症（精神）状況（認知症高齢者の日常生活自立度判定）

	不明	正常	Ⅰ	Ⅱａ	Ⅱｂ	Ⅲａ	Ⅲｂ	Ⅳ	Ｍ	計
男 性	1	1	1	2	0	0	0	0	0	5
女 性	1	3	1	3	3	1	0	0	0	12
計	2	4	2	5	3	1	0	0	0	17



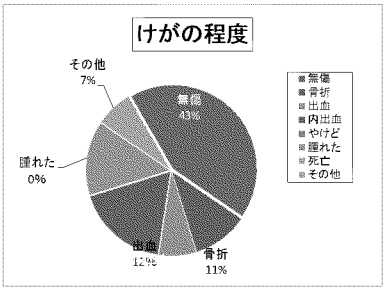
令和2年度 事故発生状況

【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	16	1	2		1	3	1	1		2	1		4
転落	6	2	2	1		1							
ぶつけた	5		1	2			1						1
誤飲(誤嚥)	0												
投薬事故	0												
異食	0												
その他	1									1			
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5

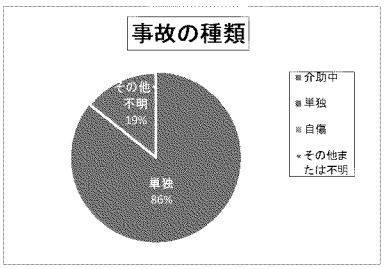
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	12	3	4	1		1				2			1
骨折	3				1	1							1
出血	2					1	1						
内出血	5		1	1		1				1	1		
やけど	0												
腫れた	4			1				1					2
死亡	0												
その他	2						1						1
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



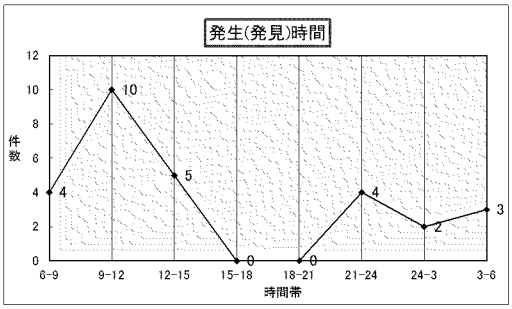
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	0												
単独	24	3	5	1	1	4	1	1		3			5
自傷	0												
その他または不明	4			2			1				1		
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



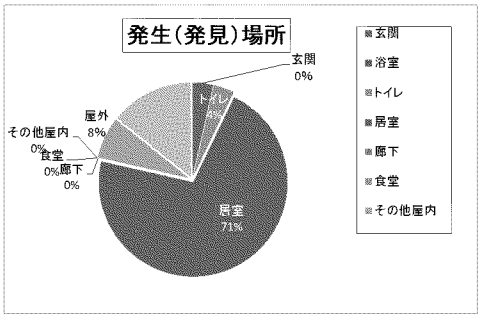
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	4		1		1								2
9-12	10	2	1	1			1			2			3
12-15	5		1	2		1					1		
15-18	0												
18-21	0												
21-24	4		1			1	1			1			
24-3	2	1				1							
3-6	3		1			1		1					
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



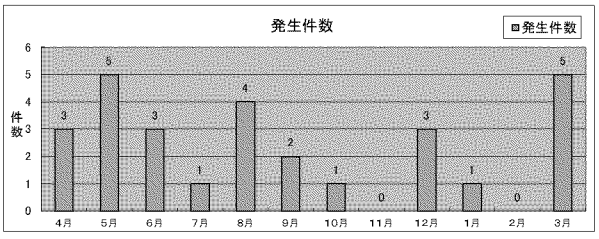
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玄関	1												1
浴室	0												
トイレ	1						1						
居室	20	3	5	1	1	3		1		2			4
廊下	0												
食堂	0												
その他屋内	0												
屋外	2					1				1			
不明(後に発見)	4			2			1				1		
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5
(うち受診をした件数)	6	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2



令和２年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

１.総括（今年度の取り組の成果）

令和 2 年度は「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」の基本方針に重点をおき取り組んだ。

「良いケア」ではケアプランに基づき訪問介護計画書を作成。さらに、サービスの提供方法の標準化・統一を図る為、昨年に引き続き訪問介護計画書に手順書、留意点、時間配分を記載しヘルパー、利用者ともにケアの内容がより明確に分かるよう改善した。また、毎日の業務日誌での引き継ぎ、毎月のヘルパー会議でケアの情報共有を図ることを継続したことで、個別に自立支援のサービス提供が行えた。そして何より、ケアの提案、実践をしっかりと行うことができた。

「良い職場」では、職員が少しでも働きやすくなるよう、それぞれの思いを聞き確認した。その中でも、移動時間を設けることで安全に訪問ができるよう業務改善を図った。また、個別の生活に合わせて出勤時間や、勤務時間を調整することで、安心して働ける職場を目指した。

「よい経営をみんなの力で創る」では、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化を図った。新規利用者獲得は勿論だが、現利用者と関わる中で信頼・安心・満足感を持って頂けたことが経営基盤の安定に繋がった。昨年に以降はコロナ感染予防のため、毎年行っていた食事会の開催を断念し、茶話会でも飲食を行わない対応へと変更をした。

業績については、年間訪問件数が令和元年度は 10，077 件に対し令和２年度は 10，988 件と前年度より 911 件増加した。月間の目標件数は当初 950 件であったが人員の確保が困難となり、途中 850 件へと目標を修正した。その結果月間目標平均 916.7 件に対し、月間平均 915.7 件と僅かではあるが未達成となった。新規利用者は、昨年に引き続き旭川市の方も増加しているが、今年度は鷹栖町の利用者が増加した。（令和２年度新規利用者数　旭川市 13 名、鷹栖町　20 名）

次年度も茶話会での地域住民への周知活動および、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化により努める。

２.展望（次年度に向けて）

令和３年度も、「良いケア、良い職場、よい経営をみんなの力で創る」ことを目標に掲げ、

「良いケア」では利用者へのケア向上のため個々のニーズに合わせた支援、専門職として常に予測されるリスクを考慮し、支援内容を考えケアの見直しを提案・実践していくことは基より、何よりも丁寧な対応を行っていきたい。

「良い職場」では誰もが働きやすく、居心地がいい環境は勿論だが各ヘルパーが提案と実践を確実に行うこと、内部研修での講師を行うことでやりがいを感じられる職場作りをすすめる。

「よい経営をみんなの力で創る」ためには、先に述べた「良いケア、良い職場」が不可欠であり、この２点に重点を置き取り組むことで、「よい経営」を継続し安定した利用者の確保と、適正収益が得られるように努める。

３．運営状況・統計資料

(1) 業績

（単位　千円）

目標収益（A）	実際収益（B）	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入（C）	伸長率 (B/(C)×100
35,715	39,723	111.2%	35,069	113.3%

(2) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	北斗・北成	北野地区
	7月5日	7月5日	未実施	2月12日
参加人数	16名	18名	未実施	9名

(3) 食事会開催状況

日程	メニュー	参加人数
	コロナ感染予防対策のため未実施	

(4) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
7月16日	食中毒の予防研修	己上	10人
9月11日	トランスファー	大矢・大河原	8人
9月15日	トランスファー	大矢・大河原	1人
10月15日	食事ケア研修・中級	森	8人
10月15日	食事ケア研修・初級	志知	1人
10月26日	感染症対策研修	藤川	12人
11月12日	排泄ケア研修	秋保	5人
2月12日	排泄ケア研修	秋保	6人

(5) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
3月6・7日	先端ケア研究会研修（ｵﾝﾗｲﾝ）	米澤
3月22日	セルフマネジメント・アンガーマネジメント研修（ｵﾝﾗｲﾝ）	米澤

(6) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
令和2年 4月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（感染対策の消毒について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご家族からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
5月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況（予定行事について）業務改善（利用者への声かけと働きかけについて、ヘルパーの欠員について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
6月25日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会について）業務改善（ケアの見直し、ケアマネへの報告、プランの変更について、感染対策継続について、訪問前の計画書の確認について、掃除用具の確認について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（7件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
7月16日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会について）業務改善（物品の取り扱いについて、利用者の特変時の報告について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
8月27日	① 業績報告・活動報告進捗状況（お食事会の中止について）業務改善（利用者宅での起居動作、物品の取り扱いについて）②ケースカンファレンス③事故報告2件④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
9月24日	① 業績報告・活動報告進捗状況（感染対策研修について）業務改善（訪問時間に遅れる際には連絡を入れる、マスクで表情が伝わりにくいため言葉や声のトーンに気をつける）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
10月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況（研修日の変更について）業務改善（業務日誌・ヘルパー間の引き継ぎについて、提供表のチェック）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
11月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第4回茶話会について）業務改善（提供時間について、提出物の期限について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望（2件）・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名

12 月 17 日	① 業績報告・活動報告進捗状況（次年度の個別研修の目標について）業務改善（健康管理記録について）②ケースカンファレンス③事故報告（1 件）④ご本人からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10 名
1 月 21 日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会ついて）業務改善（車輌の取り扱いについて）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（2 件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10 名
2 月 18 日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会の日にち変更について）業務改善（使い捨て手袋について、事務所の直通電話について、ヘルパー回線が鳴った際の対応について）②ケースカンファレンス③事故報告（1 件）④ご本人からの要望（1 件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10 名
3 月 26 日	① 業績報告・活動報告進捗状況（令和 2 年度の訪問件数と次年度の目標の組み直しについて、バディプロジェクトについて）業務改善（支援内容の変更時の連絡、確認について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望 4 件・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10 名

(7) 事故発生状況

	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年
私物破損	2 件	1 件	4 件
訪問忘れ	2 件	2 件	1 件
苦情	1 件	1 件	2 件
救急搬送	0 件	0 件	0 件
車両関係	0 件	2 件	4 件
転倒など	2 件	2 件	2 件
誤投薬	1 件	0 件	0 件
死亡発見	0 件	0 件	1 件
合計	8 件	7 件	14 件

(8) 令和２年度私物破損内容

発生日	内容	原因	対策
7 月 9 日	掃除機ノズル部位の破損	使用前の確認不足	使用前に不具合がないか確認する。
7 月 21 日	駐車の際に縁石に当たり	不注意・確認不足	安全な位置を確認し駐車

	公用車に傷がつく		する。
8月25日	掃除機のサイクロン部分の装着が不十分で落下しタイヤ部分が破損した	掃除機使用後のゴミ捨て後に、装着の仕方が誤っていた	外す前、ゴミ捨て後にはきちんとサイクロン部分が装着されているか確認する
9月8日	壁に掛けてあったハンディモップに体が当たり落下し、持つ手が破損	移動時の不注意	周りを確認しながら行動する
11月9日	車両が当たり利用者宅のポストが破損	積雪がある敷地内での駐車位置が不適切だった	冬期は敷地の奥へは入らず、沿道側へ停める
1月14日	利用者宅の車庫前で、車両が雪に埋まり、フェンダーが外れた	積雪量が多かったが、無理に車庫へ入れようとしたため	積雪の状況を確認し、必要に応じ除雪を行う
2月9日	車両の左側ホグランプ部カバーが外れ紛失	停める際に道幅が狭く、雪に左側が埋まるような状態で駐車した	駐車スペースの確保・確認を事前に行う

(9) 令和２年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
7月11日	訪問中の物品破損に対し、その後の職員の対応について	破損時に謝罪の言葉が足りなかった	誠意をもって謝罪の言葉を最初に伝える
10月22日	訪問中の掃除の仕方、態度に不満がある	コミュニケーション不足と、掃除の仕方について細かな指導が不足していた	細かな引き継ぎ、指導を行い、個別に理解度や支援の手順を確認する

(10) 訪問内容別活動時間　　(単位　時間)

訪問内容	令和元年度月平均時間	令和２年度月平均時間
身体介護	406	369.3
生活援助	76.5	68.6
複合介護	132.8	184.6
介護予防訪問介護（独自Ⅰ）	91.8	115.8

介護予防訪問介護（独自Ⅱ）	78	112.6
介護予防訪問介護（独自Ⅲ）	51	53.8
私的契約	6.6	11.4

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑　　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)	根拠に基づくサービス提供	①丁寧なアセスメントを行い、課題・ニーズを的確に捉え、自立支援の視点から、質の高いサービスを提供する。	伊藤 米澤	計画	←居宅支援計画更新後2週間以内にケアプランを更新する→							←居宅支援計画更新後2週間以内にケアプランを更新する→						従来のプランを見直し、利用者の自立支援を具体的に盛り込んだプランを遅滞なく作成する。	A	自立支援の内容を取り入れた計画書を作成し、計画書に沿った支援を行えた。
					実施							B									
			②訪問後の報告を受け、次回訪問時の留意点をヘルパーに伝え、きめの細かいサービスを提供する。	米澤 伊藤	計画	←　報告、連絡、相談を迅速に行う　→							←　報告、連絡、相談を迅速に行う　→						ミーティングの内容を業務日誌に記録し、把握した課題を放置せず、改善への取り組み、評価を行うことで利用者の生活改善が実現できる。	B	報告、引き継ぎが数日遅れてしまうことがあった。
					実施							B									
			③サービス提供後の効果を把握するため、モニタリングを実施し、サービス提供の効果や変更の必要性について確認する。	深瀬 上野 伊藤	計画	←　モニタリングを遅れずに実施する　→							←　モニタリングを遅れずに実施する　→						毎月モニタリングと都度ケアマネジャーへの報告を行い、改善点があれば速やかに居宅支援事業所、地域包括支援センターに提案する。	A	概ね毎月のモニタリングを行い、ケアマネジャーへ報告することが行えた。
					実施							A									
2	(1)	サービスの内容及び提供方法の標準化	①利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書と配置図を作成する。	米澤 伊藤	計画	←　手順書見直し　→							←　手順書見直し　→						訪問介護計画書に手順書を載せ、利用者の「できること」を盛り込み、ヘルパーの支援のポイントを示す手順書を作成する。新規利用者の手順書は初回訪問から2回目の訪問時には作成できる。	B	計画書に自立支援へのポイント・手順書を記載し、新規利用者へも遅延なく作成できた。配置図は特定の方のみで全利用者には作成できなかった。
					実施							B									
			②定期的な同行訪問を行い、ケアの質の向上やサービス内容の見直しを図ることで業務改善を図る。	米澤 伊藤	計画	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問		同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問後、サービス内容の見直しが必要かを迅速に判断し1週間内にケアマネジャーへ報告、検討ができる。	C	同行訪問時に見直しが必要なことは、ケアマネジャーへと報告できたが、定期的には行えていなかった。
					実施							C									
			③ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し、標準化を図る。	米澤 上野 伊藤	計画	←　カンファレンスの開催　→							←　カンファレンスの開催　→						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。（年間20件以上）	A	毎月の会議で事例検討を行い、ケアの統一を図ることができた。
					実施							A									
3	(2)	サービス評価と自己研鑽の取り組み	①より質の高いサービス提供ができるよう、各自が目標を立て、会議や研修を通じて個々の能力や技術の向上を図る。	米澤 深瀬	計画	ヘルパー研修	ヘルパー研修	ヘルパー研修	ヘルパー研修		ヘルパー研修		個別研修	個別研修	個別研修	個別研修	個別研修		効果測定を年1回行い、自分が立てた目標に対しての評価を行うことで自己研鑽ができる。	C	コロナ感染予防のため、外部研修や内部研修の延期、中止等があり予定通りには参加ができなかった。また、効果測定も未実施となった。
					実施							C									
			②利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	伊藤 上野	計画									満足度調査票作成	満足度調査の実施			調査結果公表	満足度調査を実施し、「良い」「概ね良い」の回答がH30年を上回り40名以上になる。（H30年度　良い：43名　概ね良い：3名）	A	68名中「良い」44名「概ね良い」24名の回答をいただくことができた。（R1年度　70名中　良い：50　概ね良い20名）
					実施							A									
4	(2)	地域・家族との関係強化の取り組み	①ケアマネ・家族と連携して、総合記録シートを活用し、健康管理を行い、基礎体力の維持向上を図る。	米澤 伊藤	計画	←　ヘルパー会議で体調に関する情報交換　→							←　ヘルパー会議で体調に関する情報交換　→						健康状況を把握して入院件数を月間3名以下にする。	C	ケアシートの記入から、健康管理や入院予防へと繋げることはできず、今年度の入院件数は大幅に増えていた。
					実施							B									
			②茶話会や食事会を継続して行い、職員自身が地域を知り、学び、地域住民の潜在しているニーズを把握する。	深瀬 上野	計画		茶話会準備	茶話会（高住2回）	茶話会準備	茶話会（下旬）						茶話会準備	茶話会	茶話会準備	茶話会	年4回の茶話会を開催し、参加延べ人数60名を目標とする。各地域の住民と交流会を行うことで、事業所を知っていただき関係性を築ける。（各回・目標参加者15名）	C	3回の開催しか行えず、参加延べ人数も43名と目標を達成できなかった。
					実施							C									
5	(2)	利用者・家族・職員との交流促進	①利用者・家族と職員との繋がりを大切にし、お互いの交流を促進するため、年1回交流会を開催する。	深瀬 伊藤	計画					食事会計画書作成	案内文書配布		食事会実施日						利用者・家族、35名以上の参加を得る。（H30年度参加者29名）	D	コロナ感染予防のため、行事を中止し
					実施							D									
			②入院中の利用者を見舞い、退院後の生活に向け、情報を得る。	深瀬 米澤	計画	お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い		お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い	お見舞い	入院中の利用者を見舞い、利用者・家族を励まし、利用再開ができる。（1入院に1回以上）	D	コロナ感染予防のため、見舞いを行えなかった。
					実施							D									
6	(3)	専門性と介護技術の向上	①計画的な外部研修の参加と、内部研修での講師等を通し、各自が知識・技術の習得を図る。	上野 深瀬	計画		外部研修参加				外部研修参加								年2回以上、外部研修に参加し、事業所内報告会で他のヘルパーと知識を共有する。	C	複数参加はできなかった。
					実施							C									
			②ヘルパー会議を月1回定例で開催し、事業所内の問題解決の協議やヘルパー内のケアの統一を図ることで、サービスの質の向上を図る。	米澤 上野 伊藤	計画	←　ヘルパー会議の開催　→							←　ヘルパー会議の開催　→						ヘルパー会議を月1回開催し、他事業所と連携し、利用者ニーズに即した サービスを提供する。居宅・包括に対しサービス向上について年間10件以上の提案ができる。	A	外部居宅事業所との連携も図ることができ、利用者のニーズに即したサービス提供が行えた。
					実施							A									
7	(3)	職場環境の改善	①面談や訪問記録を通し、業務や人間関係等、抱える問題に気付き、感情労働への配慮・精神衛生・チーム力の向上を図る。	米澤 伊藤	計画	訪問記録の活用		面談	訪問記録の活用					面談	訪問記録の活用				訪問記録から困難ケースを把握し、ヘルパーに日常的に声をかけることで悩みや課題の早期相談・解決への糸口を探り、深刻化を予防する。	C	声かけや引き継ぎ、十分に話しを聞く配慮が不十分であったため、利用者との関係性を一部築けないことがあった。
					実施							C									
			②書庫・事業所内の整理整頓を行い、業務効率をアップさせる。	米澤 伊藤	計画	書庫整理	手順書確認 配置図作成	手順書確認 配置図作成	マニュアル評価 再作成	手順書確認 配置図作成	手順書確認 配置図作成		書庫整理	手順書確認 配置図作成	手順書確認 配置図作成	手順書確認 配置図作成	手順書確認 配置図作成	手順書・配置図評価	ファイルや書類の整理整頓を行い、業務の効率を上げる。（停止者の事務処理等のマニュアル化を図り、1ヶ月内に受理を行う）	A	業務に関してのマニュアル作成は行えた。事務処理も滞りなく行えていた。
					実施							A									

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　　鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑　　〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分、D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
8	(3)	組織的・総合的な安全確保の推進	①身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけ安全確保に徹したサービスを提供する。	米澤	計画						集団指導参加								集団指導の報告から管内の不適切事例等を学び職業倫理を再確認し、接遇マナーに関する苦情をゼロにする。	C	接遇マナーに関する苦情があった。
					実施							C									
			②「業務日誌」を活用し、報告・連絡・相談を徹底することにより、注意事項の確認もれを防ぐ。	伊藤 七野	計画	←	「業務日誌」の活用				→		←	「業務日誌」の活用				→	訪問前の指示、訪問後の報告、連絡を密にすることできめ細かい、サービスの提供ができる。	A	業務日誌以外にも、個別で必要事項を引き継ぎ合うことができた。
					実施							B									
9	(4)	社内業務の基準化・標準化	①実績管理の責任・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、請求ミスをゼロにする。	米澤	計画	マニュアルの見直し													日々の訪問チェックを確実にし、月末業務の負担を軽減し、請求ミスをゼロにする。	C	訪問チェック漏れ、間違いが多く、過誤請求もあり目標は達成できず。
					実施							C									
9	(4)	社内業務の基準化・標準化	②ヘルパー車の管理・業務のマニュアル化を行うことで、効率的に統一した業務が行えるようにする。	米澤	計画	公用車の管理 マニュアル作成	公用車の管理	公用車の管理業務管理	公用車の管理	公用車の管理	公用車の管理	マニュアルの見直し	公用車の管理	公用車の管理				マニュアルの評価	公用車の管理手順、業務の手順を作成する。	B	備品の購入は行ったが、定期的な清掃は不十分だった。
					実施							C									
10	(5)	利用者獲得の為の営業・広報活動を強化する	登録者数100人(H31，90人)新規利用者30人(H31，45人)月間述べ訪問回数950回(H31，900回)を目標に掲げ毎月実績確認を行い、その都度収益増減の原因を明らかにする。	米澤 七野	計画		具体策検討		具体策検討				具体策検討		具体策検討				茶話会で訪問介護についてのPRを行い、ヘルパー業務の周知を図り、新規利用者25名に繋げる。(H30新規28名)。	B	登録者数は88.3名、新規利用者は34名、月間訪問件数909.4件と目標には及ばなかった。
					実施							A									
11	(5)	適正収益の確保	①目標収益を39，678，000円（前年度34,398,438　円）月間訪問件数950件に掲げ、加算取得・茶話会活動を展開する。目標達成に向け、会議で実績報告を行い、サービスの不足している状況がないか確認する。	米澤 伊藤	計画			茶話会	茶話会	茶話会								茶話会			月の訪問件数 目標950回/月 目標収益39，678，000円を達成する。	B	月刊訪問件数を12月に見直し850件としたため、年間訪問件数は、10，913件と当初の目標より下回っている。収益は39，708，474円と達成はできた。
					実施							B									

令和２年度　法人本部（給食部門）事業報告

１．総括

令和 2 年度は（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供（2）衛生管理の徹底と災害対策（3）個々に配慮した美味しい食事の提供（4）多職種との連携機能の強化（5）予算に合わせた食事の提供の５つを重点目標とし取り組んだ。

（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供としては、小規模特養ぬくもり家えんにて「栄養ケアマネジメント」を実施し、低栄養者の体調の改善ができるように取り組んだ。また、なごみの家ではスタッフと協力し、「食事量の低下」や「体重の減少」の変化の情報を共有し改善へ向けて取り組んだ。さらに、嗜好調査や日々の利用者とのコミュニケーションを図り、より利用者の嗜好に沿った食事の提供ができた。

健康予防では、地域住民対象の「健康料理教室」開催ができなかったため、「さつき会ブログ」にて毎月テーマに合わせた一品料理を紹介し情報を発信した。

法人運営の「地域食堂」についてはコロナの感染リクスを考慮し１年間中止となった。

（2）衛生管理の徹底では厨房内の点検、食中毒予防研修の実施、調理員との定期的な情報交換の実施により、安全で安心な食事提供を心がけ食中毒を起こすことなく提供することができた。

（3）個々に配慮した美味しい食事の提供では、旬の食材を取り入れることで季節を感じていただき、満足感とＱＯＬの向上に繋がるよう取り組んだ。また、調理員の協力を得ながら献立のレシピ集を作成し、初めて担当する献立でも混乱せずに調理することができるようになった。他にも、食べにくい食材は酵素を使用し、やわらかく食べやすい工夫をするなど摂食状況に合わせた食事の提供や病態に合わせた脂質を抑えた食事の提供を実施することができた。

（4）多職種との連携機能の強化では、各事業所の会議への参加や、各担当者との打ち合わせによって情報を共有することができ、食事量の低下が見られる方へ迅速に対応することができた。

また、自然排便と免疫力向上の取り組みとして、1 日置きに朝食にヨーグルト、夕食に玄米ご飯の提供を継続し、食物繊維の摂取量の増加による自然排便への改善及び免疫力の向上が図られ、感染症を予防することができた。

(5) 予算に合わせた食事の提供では、「食材予算」「おやつ予算」「嗜好飲料予算」と区分が明確になったことで管理がしやすく、予算に余裕のあるときには高価な食材やおやつ等も提供するなど、楽しんでもらえるような食事の提供ができた。

２．展望（次年度に向けて）

次年度は、次の２点を重点として事業に取り組む。

まず１つめは、ぬくもりの家えんにて、定期的にミールラウンドを実施し、栄養士から栄養・食事の改善を積極的に実施できるように取り組んでいく。

次に、非常災害時の献立を作成し、災害が発生したときに混乱なく食事の提供ができるようにマニュアル作成に取り組む。

３．運営状況・統計資料

（１）令和２度　手作りおやつ・手作り昼食　実施状況

→コロナの感染リスクを考慮し実施なし。

４．祝祭日の祝膳　年間実施回数

特養えん 行事食	小規模えん 行事食	なごみＧＨ 行事食	なごみＳＨ 行事食	たかほ 行事食
32 回	32 回	32 回	32 回	32 回

５．健康料理教室（地域における公益的な活動）･･･さつき会ブログへ掲載

実施日	内容	献立	作成者
4 月	未実施	未実施	
5 月	未実施	未実施	
6/26	食事で疲労回復	ひやむぎをアレンジ！韓国風冷麺	伊藤
7/24	中性脂肪を減らそう	雑穀米とサバ缶で簡単冷や汁	己上
8/28	血糖値を上げない食事	ヘルシー肉団子と野菜の 甘酢あんかけ	伊藤

9/25	発酵食品で目指せ腸活！	納豆麹の巾着焼き	己上
10/23	ビーツで貧血予防	鉄分補給！ビーツ餃子	伊藤
11/27	さよなら冷え性	れんこん団子のあったかスープ	己上
12/25	口内炎予防	たらと旬野菜の簡単グラタン風	伊藤
1/22	更年期症状を和らげる食事	ヘルシー鮭フライ＆豆サラダ	己上
2/26	乾物活用術	切干大根のマリネ ごろごろ高野豆腐のスープ	宮崎
3/26	缶詰活用術	さば味噌煮缶で麻婆茄子	宮崎

※11 月れんこん団子のあったかスープ・12 月たらと旬野菜の簡単グラタン風は
さつき会広報に掲載。

６．地域食堂（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和２年度の地域食堂は中止とした。

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名：法人本部・給食部門

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分　D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	コメント
1	(1)(4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らし作りを行う。	③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	褥瘡アセスメントの準備	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(1)(6名)	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(2)(8名)	褥瘡アセスメントとケアプランの実行(3)(8名)	褥瘡ケアの評価(モニタリング)(1)(6名)	褥瘡ケアの評価(モニタリング)(2)(8名)	D	アクション 出来なかった		褥瘡ケアの評価(モニタリング)(3)(8名)	褥瘡ケアの評価(モニタリング)(4)(6名)	褥瘡ケアの評価(モニタリング)(5)(8名)	褥瘡ケアの評価(モニタリング)(6)(8名)	以降継続	・全入居者の褥瘡リスクのアセスメントの実施を標準化。 ・褥瘡のリスクをスタッフ間で共有し、新たな褥瘡発症をゼロにする。	D	アクション出来なかった
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施				未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			
2			⑤快適な生活を守るため新規おむつの導入。 ⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	下剤使用者の確認 新しいおむつの導入検討	排せつに関するアセスメント準備 新しいおむつの導入	→	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	C	排泄状況の確認は実施しているが、評価・改善は未実施		排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	・刺激性下剤の使用5%以内の維持。 ・排せつケアに関するアセスメント・計画・評価の標準化と加算の取得。	D	排泄状況の確認は実施しているが、評価・改善へのアクションは出来なかった。
					実施	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集											
3	(1)(4)	健康状態を維持・向上する食事提供の実施	①栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。 ③既往を再発予防するための治療食の充実化。 ④なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほにて嗜好調査を実施する。	己上	計画	各事業所の利用者の最新データの収集と必要栄養量の算出	栄養ケアマネジメントの実施	→	→	→	→	B	栄養ケアマネジメントを実施し、多職種と連携をとりながら必要な栄養量を提供することができた。	栄養ケアマネジメントの実施	→	→	→	→ 嗜好調査の実施	栄養状態の評価 嗜好調査集計	・ぬくもりの家えんでの栄養ケアマネジメントの実施。 ・年1回、利用者全員のBMIを確認し、低栄養の方の食事改善を実施できたか。 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・ぬくもりの家たかほにおいて、嗜好による調査が実施できたか。	B	・栄養ケアマネジメントを実施し、必要な栄養について多職種に提案できた。 ・栄養評価（低栄養者BMI18.5以下） えん→4人（前年度4人） なごみ→5人（前年度5人） たかほ→2人（前年度2人） 低栄養を改善することは出来なかったが、昨年から体重を維持することができたため評価Bとする。 ・嗜好調査を実施し、現在の食事の満足度について評価できた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
4	(1)	健康料理教室の実施	地域における介護予防の取り組みを促進するために、月に1回栄養士による料理教室を実施する。	己上 伊藤 大和田	計画	料理教室計画実施	→	→	→	→	→	C	コロナの影響で料理教室が実施できず、代替としてさっき会ブログにてレシピ紹介へ変更した。 実施は出来ているが目的対象者には発信できていないと考える。	料理教室計画実施	→	→	→	→	→	・月1回料理教室を実施できた。	C	コロナの影響で料理教室が実施できず、代替としてさっき会ブログにてレシピ紹介へ変更した。毎月の実施はできたが目的対象者には発信できていなかったと考えられるため評価Cとする。
					実施	未実施	実施準備期間	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始			さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始	さっき会ブログでレシピ紹介開始			
5	(1)	地域食堂の実施	①子ども・高齢者に対する低栄養の改善のため、月に1回法人による地域食堂を実施する。 ②地域食堂を通して、地域住民との関わりを持ち、 食事・栄養に対するニーズを把握する。	己上 伊藤 大和田	計画	地域食堂計画実施	→	→	→	→	→	D	コロナの影響で実施出来ていない。 開始に向けての感染対策の準備については継続中	地域食堂計画実施	→	→	→	→	→	・月1回地域食堂を実施できた。	D	コロナのリスクを考慮し未実施となった。 次年度の開催に向けて感染対策の準備をしていく。
					実施	中止	中止	中止	中止	中止	中止			中止	中止	中止	中止	中止	中止			
6	(2)	衛生管理の徹底と災害対策 給食設備の確認と徹底	①衛生管理および給食設備を定期的にチェックし、異物混入や食中毒防止に努める。また、厨房機器等の見直し・必要備品の購入による改善を行う。 ②感染対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、 ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。 ③各現場で安全な食事が提要できるよう、食中毒予防研修を実施し、安全な食事を提供する。 ④非常災害時の食材備蓄の管理と、災害時の食事提供マニュアルの作成。	己上	計画	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	食中毒予防研修の実施	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	防災の日 備蓄確認 マニュアル作成	C	担当事業所の食中毒予防研修は実施できた。 厨房機器具の見直しは定期的に実施。 災害備蓄マニュアルの作成については アクションならず。後期で実施する。	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	→	→	→	・給食設備の定期的チェックと厨房器具の見直し。 ・異物混入0件 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほ・ヘルパーを対象とした食中毒予防研修の実施。 ・災害時の食事提供マニュアルを作成。	C	・各事業所の厨房機器や備品について計画的に購入することができた。 ・調理に関わるスタッフに食中毒予防研修を実施できた。 ・災害備蓄マニュアルを作成することが出来なかったため、次年度早急に実施する。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	未実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
7	(3)	嗜好を取り入れ、楽しみのある食事の提供	①満足感とQOLの向上を図るため、献立のみでなく、食器への配慮をし、見た目に楽しく食べやすい食事の提供の実施。 ②食事を「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」提供することで、より食事がおいしく、楽しいものになるよう食事提示方法の作業確認を行う。 ③入居者・利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事・行事食の計画・実施。 ④治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供する。 ⑤年1回、栄養士による手作りおやつ提供のための計画と実施。	己上	計画	祝日祝い膳の実施 不足食器購入	→	ジンギスカン実施	祝日祝い膳の実施 流しそうめん実施	→	→ 手作りおやつの計画と実施	B	コロナの影響でリスクのある、ジンギスカン・流しそうめんの行事は中止となった。 その他、祝い膳の提供。手作りおやつの提供は実施できた。 予算に合わせ、不足食器の購入もできた。	祝日祝い膳の実施	→ お鍋①	→ 行事食の実施	→ 不足食器の選定・確認	お鍋② → 不足食器の見積り 予算書提出	→	・不足している食器がないか確認し、数が不足しているものの購入。または新規食器の購入。 ・嗜好調査での解答「冷めている」が0件 ・各月に合わせた祝膳の提示 ・季節の食材を献立に反映し季節感を出す。 ・栄養士による手作りおやつの実施	B	・計画通りに不足食器の購入ができた。 ・嗜好調査の結果「冷めている」の回答は0件であった。 ・流しそうめんやお鍋は未実施となったが敬老の日や祝日献立で季節に合わせた食材を使用した献立を提供できた。 ・栄養士による手作りおやつ 7月→七夕ゼリー（新規おやつ） 9月→お月見水まんじゅう（例年） 実施できた。 ・和菓子屋さんからおやつを購入するなど、おやつでも特別感を演出することができた。
					実施	実施	実施	中止	中止	実施	実施			実施	中止	実施	実施	鍋は中止 見積もり実施	実施			

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名：法人本部・給食部門

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：アクションしたが結果不十分　D：まったくアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	コメント
8	(3)	安全で美味しく、身体状況に合わせた食事の提供	①摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践。 ②新人スタッフ（調理に携わる）への、基本のソフト食の勉強会を実施する。 ③献立の作り方マニュアル（レシピ表）を作成し、バラつきのある作り方を統一する。 ④常食により近い、やわらか食の提供。 ⑤より見た目・味共に美味しいソフト食の提供。	己上	計画		ソフト食のかしわ餅提供	新人調理員対象ソフト食の勉強会	レシピ表の作成	→	ソフト食のおはぎ提供	B	コロナの影響で新人職員対象のソフト食勉強会は中止となった。行事に合わせたソフト食の提供は実施できた。 新規で取り組んだレシピ集の作成は調理員と協力し実施継続中	レシピ表の作成	→	→	→	→	ソフト食の桜餅提供	・より良いソフト食を提供するための情報の収集ができたか。 ・新人対象のソフト食勉強会が実施できたか。 ・献立のレシピ表を作成し、作り方を現場に伝達できたか。 ・個別に合わせた食事の提供ができていたか。 ・見た目も美味しいソフト食が提示できていたか。	B	・ソフト食の既製品などを取り入れるなど、新しい商品の開拓ができた。 ・新任職員のソフト食勉強会は中止とした。 ・調理員と協力して料理のレシピ集を作成することができ、初めて作る献立でも混乱なく料理を提供することができた。 （レシピ数　150レシピ完成） ・多職種で検討し、個別に合わせた食事の提供ができた。 ・既製品のソフト食も上手に活用しながら見た目良いソフト食の提供ができた。
					実施		実施	中止	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
9	(4)	関係職種との連携機能の強化	①ご利用者により安全・安心・満足して頂ける食事提供のため、定期的な情報交換に努める。 ②各部署との給食に関する情報を共有し、各事業所の会議にて問題点の発見と改善に努める。	己上	計画	各会議への参加と問題点の改善	→	→	→	→	→	B	毎月会議に参加し、多職種と情報を共有することができている	各会議への参加と問題点の改善	→	→	→	→	→	・定期的に情報を共有できたか。 ・なごみ会議・えん特養会議・えん給食会　議の毎月の参加により問題点を確認し改善へ向けてのアプローチができたか。	B	毎月会議に参加し、多職種と情報を共有しながら必要に応じて改善へのアプローチを実施できた。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			
10	(5)	適正な予算管理	～なごみの家・ぬくもりの家えん～ ①給食費の予算に合わせた献立の作成 ②無駄のない食材の仕入れの実施 ③食材の在庫管理の実施 ④食材収支表の作成・原価表の作成の実施	己上	計画	食材収支表の作成 原価表の作成	→	→	→	→	→	B	4月～9月原価 適正予算原価　756円 なごみの家→752円 ぬくもりの家えん→795円 たかほ→757円	→	→	→	→	→	→	・献立原価が予算内であったか ・食材収支額が年間で予算内であったか	B	10月～3月原価 適正予算原価　756円 なごみの家→752円(前年753円) ぬくもりの家えん→794円（前年815円） たかほ→768円（前年809円） 適正予算原価内に納めることができなかったが前年度と比較すると改善しているため、評価Bとする。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和２年度　総合事業（一般介護予防事業)事業報告

１．総括(今年度の取り組みの成果)

令和２年度は「地域介護予防活動支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に取り組んだ。フィットネス倶楽部コレカラ（以下、フィットネス）の実利用者数は149名、延べ利用者数は4,735名であった。

１）新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策

フィットネスの感染対策として、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、体温測定や体調の聞き取り、サーキットマシン間にアクリルパーテーションを設置、利用者によるマシン消毒、1時間ごとの換気・消毒、密にならないよう利用人数の制限や待機場所の設置、受付方法の変更、多人数が集まるイベントや教室を中止した。また、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や感染拡大にて令和2年4月20日から5月30日、令和3年3月6日から3月8日の期間中、フィットネスは臨時休館した。

２）地域介護予防活動支援事業

フィットネスにおいて介護予防を図ることを目的に、フィットネス機器によるサーキットトレーニングプログラムを実施した。令和3年3月末の登録者数は398名（男性111名、女性287名）であり、昨年度より15名増加し、目標登録者数である400名の99%に達した。月間実利用人数は平均47.1名（前年比44%）であり、大幅に減少した。この要因として、新型コロナウイルス感染症の影響で、①サーキットの利用人数を制限したこと、②利用者が自主的に利用自粛したこと、③外出自粛により運動習慣がなくなってしまったことがあげられる。①では、4～10月までは1時間6名の入れ替え・予約制という人数制限を実施、11月より人数制限は解除したものの、レッドコード中のサーキットは中止した状態で運営した。制限緩和とともに、少しずつ利用人数は回復傾向だが、不十分な状態である。②、③について、鷹栖町と協議し、感染状況を考慮して、フィットネスを利用しなくなってしまった方への連絡や利用促進のためのイベントは実施していない。今後は感染状況をみながら、利用促進の連絡やイベントを通して、利用再開や新規利用へつながるようしてもらえるような広報活動をしていく必要がある。

地域における住民主体の介護予防活動のためのボランティア育成、支援を行うことを目的に、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あったかすリハビリ体操」の普及・啓発を実施した。「あったかすリハビリ体操指導士養成講座」を3ヶ月間開催し、新たに9名のあったかすリハビリ体操指導士（以下、体操指導士）が誕生し、現在の登録者数は36名になった。今年度の体操指導士の活動は、4～5月は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛し、6月より例年通り、フィットネス、サービス付き高齢者向け住宅たかほ、地域での体操サークルで活動を再開した。老人会活動が休止していたため、例年実施している老人会での体操教室はほとんど実施することができなかった。活動実績として、地域での体操教室を126回（前年比100%）開催し、延べ1073名（前年比70%）の町民へ体操指導を実施した。教室開催数は昨年度とほとんど変わらなかった要因として、体操指導士が主体的に新たな体操教室を設立したことがあげられる。今年度は2団体で新たに体操教室を立ち上げた。また、体操指導士の連携強化や活動への意欲の向上を目的として、「全国体操指導士オンラインフェスティバル」に参加した。これはコロナ禍において体操指導士の活動が制限されている中で、少しでも体操指導士の活動を促進するために全国で活動する体操指導士とオンラインを通じて交流するイベントである。全国33市町村、864名が参加、鷹栖町からは15名の体操指導士が参加した。イベント終了後は、体操

指導士の活動回数増加や、協力体制が整うなど良い方向に進んでいる。今後も体操指導士養成や活動援助を継続していくとともに、鷹栖町健康福祉課、社会福祉協議会と協力のもと、理学療法士、指導士による体操教室を維持・拡大し、フィットネス事業へ参加できない住民に対して、「住民ボランティア主体」であったかすリハビリ体操を通した介護予防活動を推進していきたい。

成果発表として、第7回日本地域理学療法学会学術大会にて「介護予防事業に参加するやせ型高齢者の身体機能・フレイル有症率の検討」と題し、フィットネスを利用するやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率について発表した。内容として、現時点ではやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率は良好であったが、将来的なフレイル罹患リスクに関連のあるPhase angleは有意に低値を示した。今後はやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率を縦断的に検討していく必要性について認識した。

3）地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者20名、レッドコード利用者67名に対して、体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定が含まれており、フレイル、もしくはフレイル予備軍の利用者を早期から把握することができた。地域ケア会議への参加や地域包括支援センターからの評価依頼は0件であったが、地域包括支援センターや社会福祉協議会、居宅介護支援事業所からの紹介でフィットネス利用へと繋がった新規利用者が5名おり、今後も連携を継続していきたい。

フィットネス利用者のうちハイリスク者の情報共有の場として、地域包括支援センターの保健師、保健推進係の保健師、理学療法士にてフレイルゼロ会議を実施した。その中でハイリスク者に関しては、地域包括支援センターと情報共有することができ、重度化する前に適切な介護保険サービスへスムーズにつなげることができた。老人会の活動自体が休止されていたため、老人会での体力測定会や健康講話は、実施することができなかった。

成果発表として、第7回日本予防理学療法学会学術大会にて「通いの場に参加する地域在住高齢者のフレイル実態について」と題し、老人会に参加する高齢者のフレイルの実態について発表した。内容として、老人会に参加する高齢者では、フレイルの中で、「運動器」、「口腔機能」、「閉じこもり」に問題を抱えている者が多いことが明らかになった。そのため、老人会においてフレイル対策を行っていくには、運動器だけでなく、口腔機能や社会参加に関する視点を持って関わっていくことが必要であることを認識した。

4）介護予防普及啓発支援事業

フィットネスでのレッドコード教室は、5月より上半期クラス、11月より下半期クラスを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で4月～6月は休止とした。それに伴い、上半期クラスは中止とし、7月～8月に休止分を振り替え、9月～2月に下半期クラスを開催した。ともに教室定員は満たしており、1回平均利用者数も平均6.7名（前年比99%）と高い参加率を維持することができた。コレカラサポーター（以下、サポーター）養成講座および、サポーター活動、フレイル高齢者に対する健康教室は中止となった。利用者への健康情報の発信として、新型コロナウイルス感染症に関する情報やフレイルに関する情報を掲示することができた。

5）法人自主事業

レッドコード教室の参加者に対する、ヘルスリテラシー（健康に関する情報入手・理解・活用能力）を向上させる講座は中止とした。あったかす健康手帳は10名の方が継続利用し、血圧や体温、体重などの日々の健康面の変化を自分自身で把握することで、健康管理に役立てている。

6）その他

鷹栖町健康福祉課からの依頼で、新型コロナウイルス感染拡大防止の外出自粛によって活動量や体力が低下してしまった高齢者に向けて、生活不活病を予防するための体操プログラムを作成し、紙面にて提供した。また、鷹栖町教育委員会からの依頼で、鷹栖町 Youtube チャンネルへのあったかすリハビリ体操解説動画の投稿に協力した。

2．展望（次年度に向けて）

令和 3 年度も、「地域介護予防支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に対する取り組みを継続する。

1）地域介護予防活動支援事業

フィットネスでのサーキットトレーニングプログラムの運動指導を継続し、登録者、実利用者数の増加を図るための啓発活動や環境整備を進める。特に利用停止した方に対して、利用再開につながるよう、連絡やイベントの開催、広報活動をしていく。あったかすリハビリ体操では、養成講座を開講し、新しい体操指導士養成を継続するとともに、既存の指導士のフォローアップとして定期的なミーティング、他地域との交流を実施する。また、体操指導士の活動の場を拡大するため、各地域での体操教室の開催を促進し、住民主体の通いの場の立ち上げへつなげていく。

2）地域リハビリテーション活動支援事業

フィットネス利用者への身体機能評価を継続して行い、評価結果をもとに、その方の持つ病気やケガ、身体機能に合わせた運動内容の指導を行う。体力評価にてハイリスクと判定された方の情報をフレイル会議にて地域包括支援センターと共有し、適切なサービスを提供できる体制を構築する。老人会や町主催の体操教室に理学療法士が出向き、体力測定やフレイル調査結果の説明や健康講話、健康相談を実施し、幅広い高齢者に対する介護予防を推進する。また、一人暮らし高齢者への運動プログラムの提供も継続する。

3）介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続する。コレカラサポーターの活動を再開できるよう取り組んでいく。また、体力測定にてフレイルと判定された方を対象とした健康教室を開催し、フィットネスにおけるフレイル対策を強化していく。新たに、フィットネスにて口腔トレーニングができる「くちトレ」ブースを開設し、口腔機能機能低下に対しても介入していく。

4）法人自主事業

ヘルスリテラシーの向上により、自身の健康について主体的に考え、自己管理できる住民が増えるように、ヘルスリテラシー講座と健康手帳の配布を継続する。また、ボランティア交流会やボランティアによる大掃除も感染状況をみながら実施していく。フィットネスからの連絡手段や健康情報の発信として公式 LINE アカウントの運用を開始する。

5）その他

各事業の効果検証作業として、学術大会での演題発表を継続する。また、鷹栖町健康福祉課や社会福祉協議会と協力し、総合事業の啓発活動を継続するとともに、各住民ボランティア同士が交流できる場を設け、「自助・互助・共助・公助」の循環が円滑に行えるよう全事業を推進する。

最後に、新型コロナウイルス感染防止のため、高齢者の外出や運動の機会が減少しており、生活不活発病やフレイルの発症リスク、要介護度の重度化がさらに進行することが考えられる。今の時期だからこそ、改めて介護予防の重要性を住民に周知し、多くの住民が安全に安心して運動できるよう策を講じていきたい。

3．業績報告

1）地域介護予防活動支援事業

（1）サーキットトレーニング

① 登録者数　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	104	104	104	104	105	106	108	109	109	109	109	111
女 性	278	278	278	278	281	283	283	285	286	286	286	287
計	382	382	382	382	386	389	391	394	395	395	395	398

② 実利用者数　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
男 性	10	0	9	9	16	16	13	16	14	13	13	16	14.4	56%
女 性	15	0	19	33	32	37	44	49	40	46	53	52	38.2	42%
計	25	0	28	42	48	53	57	65	54	59	66	68	51.4	44%

（2）あったかすリハビリ体操教室(月曜)　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	16	16	16	16	16	16	16	11	11	11	11	14
実人数	0	0	0	0	0	0	0	9	5	6	8	13
1回平均利用者数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	4.3	4.5	5.3	8.5

（3）あったかすリハビリ体操指導士

① 指導士養成講座受講者数　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0	0
女 性	0	0	0	0	0	0	9	11	12	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	12	14	15	0	0	0

② 指導士活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者（名）	27	27	27	27	27	27	27	27	36	36	36	36		
実人数（名）	2	2	13	7	8	8	10	8	12	16	20	16	10.2	92%
延べ活動時間（時間）	4	2	40	31	26	32	40	48	30	50	71	69	36.9	81%

③ 地域での体操教室実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
教室数（回）	2	1	9	10	7	16	16	16	8	13	13	15	126	100%
参加者数（名）	16	11	70	84	64	131	137	134	75	111	107	133	1073	70%

2）地域リハビリテーション活動支援事業

（1）体力評価　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	0	0	0	0	5	0	3	3	0	1	1	1
女 性	0	0	0	0	3	1	49	18	1	0	0	1
計	0	0	0	0	8	1	52	21	1	1	1	2

（2）地域包括支援センターから理学療法士への相談対応　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3）介護予防普及啓発支援事業

（1）レッドコード教室（8クラス）　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者数	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64		
実人数	0	0	0	61	60	64	64	63	59	60	61	64	61.7	98%
1回平均利用者数	0.0	0.0	0.0	6.4	6.1	7.1	6.9	7.0	6.4	6.4	6.2	7.4	6.7	99%

（2）コレカラサポーター

① サポーター養成講座受講者数　（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② サポーター活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者（名）	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33		
実人数（名）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ活動時間（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

4　イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月1日	フィットネス営業再開	新型コロナウイルス感染症北海道における緊急事態宣言により、R2.2.25～3.31の期間フィットネス休館としていた
4月20日～5月31日	フィットネス休館	新型コロナウイルス感染症全国における緊急事態宣言により、左記期間フィットネス休館
4月21日	第48回総合事業会議	・実績報告 ・再開時の運営方法 ・フィットネス独自の休館基準
5月28日	第49回総合事業会議	・再開時期、再開時の運営方法
6月1日	フィットネス営業再開	・サーキットのみ利用可能 ・1時間6名の入れ替え制 ・予約制
6月3・10・17日	体操指導士復習会	・6月 3日：9名参加 ・6月10日：6名参加 ・6月17日：4名参加
6月26日	第50回総合事業会議	・実績報告 ・R2下半期新規クラス申込み ・今後の運営方針
7月1日～	レッドコード教室・体操指導士活動再開	・R2.4～5月で休止となっていた分の振替 ・教室時間を50分に短縮し、換気や消毒時間に充てる
7月21日	第51回総合事業会議	・実績報告 ・男の運動教室 ・フィットネス環境整備 ・ナイトフィットネス
8月6日～	ナイトフィットネス再開	
8～9月	男の運動教室（毎週水曜日）	・5名参加 ・レッドコード、サーキット ・保健推進係より健康講話
8月18日	令和2年度下半期レッドコード教室抽選会	・67名申込み ・当選者64名（新規4名、継続60名）
8月23日	第52回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラ環境整備 ・無料体験会中止 ・体操指導士養成講座 ・リハビリ体操教室再開

実施日	イベント名	概要
9月25日	第53回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラ環境整備 ・無料体験会中止 ・あったかすリハビリ体操指導士養成講座 ・リハビリ体操教室再開
9月27日	第7回日本予防理学療法学会学術大会	・web学会 ・「通いの場に参加する地域在住高齢者のフレイル実態について」について口述発表
10～12月	あったかすリハビリ体操指導士養成講座	・9名参加（男性3名、女性6名） ・復習参加3～4名
10月27日	第54回総合事業会議	・実績報告 ・学会参加報告 ・環境整備について ・今後の運営方針 ・ボランティア、健康手帳のインセンティブ ・年末年始営業日について
11月7～8日	第7回日本地域理学療法学会学術大会にて	・web学会 ・「介護予防事業に参加するやせ型高齢者の身体機能・フレイル有症率の検討」について口述発表
11月10日	第5回フレイルゼロ会議	・ハイリスク者の情報共有 ・学会参加報告 ・後期高齢者検診 ・基本チェックリストの定期的な調査 ・町の体操教室でのPTの関わりについて
11月20日	第55回総合事業会議	・実績報告 ・全国体操指導士オンラインフェスティバル ・体操指導士養成講座修了式 ・フィットネス休館基準 ・公式LINEアカウント作成
12月18日	令和3年総合事業策定会議	・参加者：谷課長、大矢、大河原 ・今年度の振り返りと次年度の事業案
12月25日	第56回総合事業会議	・実績報告 ・ナイトフィットネス運営 ・月曜リハビリ体操教室の利用料 ・R3上半期レッドコード申込み ・全国体操指導士オンラインフェスティバル
12月27日～1月3日	年末年始休館	

実施日	イベント名	概要
1月26日	第57回総合事業会議	・実績報告 ・サーキット無料券の発行 ・R3上半期レッドコード申込み ・全国体操指導士オンラインフェスティバル ・要支援者の利用促進
2月8日	リハビリ体操指導士全国オンラインフェスティバル	・オンラインにて開催 ・参加者15名（全国33市町村864名参加） ・大田先生の講義 ・指導士会エール交換 ・体操実技
2月16日	令和3年度上半期レッドコード教室抽選会	・69名申込み ・当選者64名（新規2名、継続62名）
2月16日	第58回総合事業会議	・実績報告 ・コロナウイルス対応交付金
2月18日	鷹栖町介護に関する入門研修	・大河原講師 ・「フレイル、からだにやさしい介護方法」
2月26日	さつき会令和3年度事業計画ヒアリング（総合事業）	・事業計画、予算案
3月23日	第59回総合事業会議	・実績報告 ・業務依頼の流れ ・来年度の事業計画

令和2年度　部門（事業所）別活動計画

部門（事業所）名　地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業
介護予防普及啓発支援事業・法人自主事業

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功　A：期待以上の結果　B：期待どおりの結果　C：取り組んだ　D：全くアクションなし　※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール（達成目標）	最終評価	評価内容
1	(1)	① あったか・すリハビリ体操の普及 ② リハビリ体操指導士の養成 ③ 住民主体の通いの場の立ち上げ ④ サーキットトレーニングの運営 ⑤ 学会発表 （地域介護予防活動支援事業）	①コレカラにおける、体操指導士による住民主体のあったかすリハビリ体操教室の運営	大河原 大矢	計画	→	上半期 教室開催				→	D	→	下半期 教室開催	→	→	→	R3.4月末まで	参加実人数　15名/月	C	COVID-19の影響で4月～10月は休止。再開後徐々に利用者が回復傾向。
					実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施		感染対策のため未実施	参加人数9名	参加人数5名	参加人数0名	参加人数8名	参加人数13名			
			②体操指導士による各団体での体操教室の開催、および住民主体の通いの場の活動支援	大河原 大矢	計画						→	C						→	指導団体　10団体/月	C	COVID-19の影響で、老人会での体操教室は休止。新たに2団体で体操教室立ち上げ。
					実施	指導団体2団体	指導団体1団体	指導団体4団体	指導団体5団体	指導団体2団体	指導団体6団体		指導団体6団体	指導団体8団体	指導団体2団体	指導団体0団体	指導団体6団体	指導団体6団体			
			③体操指導士のための定期的なミーティングや先進地域の視察の実施	大河原 大矢	計画	ミーティング		交流会	ミーティング			B	先進地域視察	ミーティング		ミーティング	全国オンラインミーティング	交流会開催	ミーティング 3ヶ月に1回開催	C	COVID-19の影響で、ミーティングや視察は未実施。全国オンラインミーティングに参加。
					実施	未実施		交流会中止 復習会3回実施	未実施				未実施	未実施		未実施	参加人数1名	未実施			
			④あったかすリハビリ体操指導士養成講座の開催	大河原 大矢	計画						養成講座開催	D	→	→	→				参加人数　10名/月	S	過去最多の受講者数。復習参加も多数あり。目標を大きく達成。
					実施						未実施		参加人数 新規9名 復習3名	参加人数 新規9名 復習6名	参加人数 新規9名 復習6名						
			⑤サーキットトレーニングでの運動指導	大河原 大矢	計画	→	→	→	→	→	→	C	→	→	→	→	→	→	実利用人数　130名/月	C	利用制限や運動習慣がなくなってしまったことにより、利用者数は半減。年度末になり改善傾向。
					実施	実利用人数25名	コレカラ開催のため0名	実利用人数28名	実利用人数42名	実利用人数48名	実利用人数53名		実利用人数57名	実利用人数65名	実利用人数54名	実利用人数59名	実利用人数66名	実利用人数66名			
			⑥利用啓発のためのイベント開催（チャレンジデー、無料体験会、男の運動教室等）	大河原 大矢	計画		チャレンジデー	男の運動教室	男の運動教室	男の運動教室	無料体験会	C	チャレンジデー	無料体験会					新規登録者　3名／イベント	C	男の運動教室のみ実施。その他イベントは中止。
					実施		中止	8～9月に変更	参加人数5名	参加人数5名	未実施		中止	未実施							
			⑦学会での成果発表 （北海道理学療法学会）	大河原 大矢	計画				学会発表			D							成果発表	A	成果発表が成功し、今後につながる取り組みとなる
					実施				中止					地域理学療法学会にて発表							
2	(2)	① 身体機能評価 ② 地域ケア会議への参加 ③ 包括支援センターからの評価依頼対応 ④ フレイル会議の開催 ⑤ 老人会における介護予防活動 ⑥ 学会発表 （地域リハビリテーション活動支援事業）	①身体機能評価をコレカラ新規利用者に実施し、適切な運動内容を指導	大河原 大矢	計画	→					→	C	→	→	→	→	→	→	評価人数　5名/月	B	体力評価は8月より再開。感染状況により評価者増減がみられたが、目標達成した月もあった。
					実施	新規評価人数0名	新規評価人数0名	新規評価人数0名	新規評価人数0名	新規評価人数8名	新規評価人数1名		新規評価人数5名	新規評価人数5名	新規評価人数1名	新規評価人数1名	新規評価人数1名	新規評価人数2名			
			②地域ケア会議への参加	大矢	計画						→	D						→	参加件数　1件/月	D	不参加
					実施	不参加	不参加	不参加	不参加	不参加	不参加		不参加	不参加	不参加	不参加	不参加	不参加			
			③地域包括支援センターからの評価依頼対応	大矢	計画						→	D						→	相談件数　1件/月	D	評価依頼なし
					実施	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名		相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名	相談件数0名			
			④フレイル会議の開催（理学療法士、包括支援センター、保健推進係）	大河原 大矢	計画	会議開催			会議開催			D	会議開催			会議開催			3ヶ月に1回開催	C	会議は1回のみ実施。会議ではフレイル高齢者の情報共有ができた。
					実施	未実施			未実施				会議実施			未実施					
			⑤老人会に出向き、体力測定会や健康講話の実施	大河原 大矢	計画		→	→	→	→	→	D	→	→	→	→	→		実施団体　20団体／年	D	COVID-19の影響で、老人会の活動が休止のため、未実施。
					実施		実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体		実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体	実施団体0団体				
			⑥学会での成果発表 （日本予防理学療法学会）	大河原 大矢	計画						学会発表	S							成果発表	S	成果発表が成功し、今後につながる取り組みとなる
					実施						オンラインにて口述発表										
3	(3)	① レッドコード教室の運営 ② コレカラサポーターの養成 ③ フレイル予防の啓発および指導・支援 （介護予防普及啓発支援事業）	①レッドコード教室での運動指導	大河原 大矢	計画	申込み	上半期 教室開催				→	A	申込み	下半期 教室開催				R3.4月末まで	参加人数　64名/月	B	7月より再開。ほとんどの月で目標に近い実績であった。
					実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	感染対策のため未実施	参加人数61名	参加人数60名	下半期教室開催 参加人数64名		参加人数64名	参加人数63名	参加人数59名	参加人数60名	参加人数61名	参加人数64名			
			②コレカラサポーター養成講座の開催	大河原 大矢	計画			交流会		養成講座開催		D						交流会開催	参加人数　10名/講座	D	未実施
					実施			中止		中止								中止			
			③フレイルに関する情報の掲示	大河原 大矢	計画	掲示		掲示		掲示		B	掲示		掲示		掲示		2ヶ月に1回掲示	A	フレイルに加え、COVID-19の情報も掲示することができた。
					実施	非実施		感染症に関する資料掲示		感染症に関する資料掲示			感染症に関する資料掲示		実施		実施				
			④フレイル者に対する健康教室の開催	大河原 大矢	計画					養成講座開催		D							参加人数　10名/講座	D	未実施
					実施					中止											
4	(4)	① 介護予防に関する基本的な知識（ヘルスリテラシー）の普及啓発活動 （法人自主事業）	①レッドコード教室にてヘルスリテラシー講座の開催	大河原 大矢	計画	→	上半期 教室開催				→	D	→	下半期 教室開催				R3.4月末まで	参加人数　60名/月	D	未実施
					実施	中止	中止	中止	中止	中止	中止		中止	中止	中止	中止	中止	中止			
			②健康手帳の配布および利用促進	大河原 大矢	計画						→	B						→	継続利用　10名/月	B	ほとんどの月で目標達成することができた。
					実施	継続人数0名	継続人数0名	継続人数0名	継続人数0名	継続人数5名	継続人数6名		継続人数10名	継続人数10名	継続人数10名	継続人数10名	継続人数10名	継続人数11名			